

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」

# さが地方創生 人材育成・活用プロジェクト

## 平成30年度 事業報告書



平成31年3月

さが地方創生人材育成・活用推進協議会  
国立大学法人 佐賀大学

## ◆ ご挨拶

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)  
「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」会長  
国立大学法人 佐賀大学 学長 宮崎 耕治



地方創生を推進するためには、若年者層を地方に定着させることが不可欠です。このために佐賀大学は佐賀県のCOC大学として平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(通称COC+事業)ーさが地方創生人材育成・活用推進プロジェクト」の採択を受け、佐賀県内の西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期大学部のCOC+参加校とともに地元就職率向上での貢献を目指しています。

平成27年度に、佐賀県及び10市10町の地方公共団体、経済団体、県内企業及びNPO法人など、本プロジェクトの意義をご理解頂いた各機関とともに「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」を設置し、佐賀県の地方創生に必要な人材を輩出することで「産学官金言連携」による雇用の拡大と創出を目指す取組を推進してまいりました。

事業4年目となる平成30年度は、昨年度に引き続き、佐賀県内の企業・団体と学生・教員が交流する「さがを創る大交流会」を企画・実施し、学生の地元就職志向の向上や企業とのマッチングにつとめ、地元を志向するキャリア教育や事業協働機関を中心にしたインターンシップの推進などの事業に取り組んで参りました。

学生の就職率は、全体としては極めて高い水準に達しましたが、佐賀県内への就職率の向上という点では、依然として厳しい状況にあります。佐賀県の将来を担う人材の育成と地元就職率の向上のために、全学的な取り組みをさらに強化するとともに、これまで以上に、事業協働機関が危機意識を共有し、一丸となって取り組まねばなりません。

本報告書は、平成30年度の本事業の取り組み内容を取りまとめたものです。広く、地域社会に公開し、本事業へのさらなるご理解とご協力を賜りたいと存じます。

## ◆ ご挨拶

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)  
「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」事業実施責任者  
国立大学法人 佐賀大学全学教育機構 教授 五十嵐 勉



佐賀大学は、平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(通称COC+事業)：さが地方創生人材育成・活用推進プロジェクト」の採択を受け、佐賀県内の西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期学部のCOC+参加校とともに地元就職率向上での貢献を目指しています。地方創生を主導する佐賀県及び10市10町の地方公共団体、雇用の拡大と創出のために産業振興に取り組む佐賀県商工会議所連合会をはじめとする経済団体、県内企業及びNPO法人など、本プロジェクトの意義をご理解頂いた各機関とともに「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」を設置し、佐賀県の地方創生に必要な人材を輩出することで「産学官金言連携」による雇用の拡大と創出を「オール佐賀」で取り組んでいます。

しかしながら、地元就職率の向上に関しては、依然として極めて厳しい状況が続いています。地元の佐賀県には、魅力的な就職先が無いという学生の意識の改善や魅力的な就職先の発掘と学生ニーズとのマッチング機能の強化に加え、企業側にも雇用環境や働き方のさらなる改善、インターンシップの受け入れなど、これまで以上の積極的な採用活動が必要です。さらには、「超売り手市場」とも呼ばれる就職状況の中で、地元就職率の向上のためには、若者が地元(地方)で働き暮らすということの意味や価値観(ライフ・デザイン)の転換まで含めて、かなり根源的な問いかけが必要です。これらは、「ローカルキャリア・デザイン」教育として、高等教育のみならず中等教育も含めた全県的な取り組みも必要です。

本報告書は、平成30年度の取り組みを取りまとめたものですが、本事業に関わる自己点検評価・外部評価の結果も踏まえ、次年度の事業の改善に資するものとして、広く活用されることを祈念いたします。

## ◆ 目次

Page	
01	◆ ご挨拶 「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」会長 宮崎 耕治 「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」事業実施責任者 五十嵐 勉
04	◆ 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)概要
05	◆ さが地方創生人材育成・活用プロジェクト概要
06	◆ プロジェクト紹介
07	◆ 実施組織・体制
08	◆ 各プロジェクトの取り組み
40	◆ インターンシップを経験した「学生の声」
44	◆ 広報
46	◆ 新聞記事等
67	◆ 参考資料
82	◆ 関連要項・規則等
93	◆ 平成30年度さが地方創生人材育成・活用プロジェクト関係者名簿

## ◆ 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+ 事業)

我が国が世界に先駆けて迎えている人口減少・超高齢化社会において、『人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる』ことが危惧されており、これによって生じる地方と東京の経済格差拡大が、魅力ある職を求める我が国の人口を地方から東京圏へ流出させていると指摘されています。特に、このような人口流出は、大学入学時及び大学卒業・就職時の若い世代に集中しています。このような人口減少と地域経済の縮小に歯止めをかけ、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生するためには、意欲と能力のある若者が地域において活躍できる魅力ある就業先や雇用の創出等に国と地方が一体となって取り組んでいくことが急務となっています。

平成25年度から「地域のための大学」として、各大学の強みを生かしつつ、大学の機能別分化を推進し、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地(知)の拠点整備事業(大学COC\*事業)」を発展させ、平成27年度より地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を文部科学省が支援し、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。

【平成27年度地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)より抜粋】

(\*COC:Center of Community)

**地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 ～地(知)の拠点COCプラス～** **地(知)の拠点**

平成27年度予定額 44億円[新規](旧COC事業平成26年度予算額 34億円)

**【背景・課題】**  
『人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる』という負のスパイラルに陥ることが危惧されている。  
地方/東京の経済格差拡大が、東京への一極集中と若者の地方からの流出を招いている。

**【事業概要】**

**地方の大学**… 地域の自治体や中小企業等と協働し、地域の雇用創出や卒業生の地元定着率の向上に関する計画を策定

**東京等の大学**… 地方の大学や地方公共団体・中小企業等と協働し、地方の魅力向上に資する計画を策定

- 大学が、地域の各種機関と協働し、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに地域が求める人材を育成するための教育改善を実施
- COC+推進コーディネーターを配置し、事業協働地域の連携強化や取組の進捗を管理

⇒ 事業協働機関が設定した目標達成のため、大学力(教育・研究・社会貢献)を結集

最初の就職時(20~24歳)及び(20~24歳)以外における人口移動

1位 卒業する企業がないから 36.2%

2位 専攻の方が便利だから 32.6%

3位 地域にとらわれないから 31.5%

**【COCからCOCへ】**

COC+大学と事業協働地域の機関が協働し、地域が求める人材を育成し、若年層の地元定着を推進

- ①事業協働地域の産業活性化、人口集積を推進するため、大学群、自治体、企業等の課題(ニーズ)と資源(シーズ)の分析
- ②①を踏まえた雇用創出・就職率向上の目標値設定
- ③地域が求める人材養成のための教育プログラムを実施するために必要な人的・物的資源の把握
- ④教育プログラムの構築・実施

**【大学】**

- 地域特性の理解(地域志向科目の全学必修)
- 専門的知識の修得と地域をフィールドとする徹底した課題解決型学修による地域理解力と課題発見・解決能力の修得等

**【地方公共団体・企業等】**

- 実務家教員の派遣
- 財政支援
- フィールドワークやインターンシップ、PBL等を実施するための場の提供等

**【成果】**

- ・ 事業協働地域における雇用創出
- ・ 事業協働地域への就職率向上

⇒ 若年層人口の東京一極集中の解消

文部科学省「COC+事業の概要」

([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kaikaku/coc/1356356.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/1356356.htm))

# ◆ さが地方創生人材育成・活用プロジェクト

本事業は事業協働機関「さが地方創生人材育成・活用推進協議会\*」において、大卒者の地元就職率向上と地域産業の振興による雇用の拡大・創出に協働して取り組む事業です。

\*「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」

COC+大学(佐賀大学)、COC+参加校(西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期大学部)、地方公共団体(佐賀県、佐賀市・唐津市・鳥栖市・伊万里市・武雄市・小城市・神埼市・鹿島市・嬉野市・多久市・みやき町・白石町・有田町・基山町・吉野ヶ里町・太良町・江北町・上峰町・大町町・玄海町)、佐賀県市長会(佐賀市) 佐賀県町村会(みやき町)、経済団体、企業及びNPO等で構成される。

佐賀大学ではこれまでの地域を志向した教育・研究・社会貢献の実績である地(知)の拠点整備事業(通称:大学COC事業):コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクトを基盤とし、教育改革や雇用の拡大創出に取り組んでいます。

教育改革	雇用の拡大・創出
<p>地元志向教育(大学COC事業)から 地域志向キャリア教育へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域志向型科目の全学必修化</li> <li>● 教養教育:インターフェース・プログラム(8単位)</li> <li>● キャリア・地域志向型副専攻(平成30年度より順次実施)</li> <li>● インターンシップを含む地域志向キャリア教育科目</li> <li>● 創造型工系キャリア教育</li> <li>● PBL、アクティブ・ラーニング、ラーニング・ポートフォリオ</li> <li>● 地元入学率の向上(高大接続教育)</li> </ul>	<p>学部等の「強み」を生かした研究・社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 農業の高度化と6次産業化</li> <li>● セラミックス産業を担う人材育成</li> <li>● 唐津コスメティック産業</li> <li>● バイオマス産業</li> <li>● IT(デジタルコンテンツ)産業事業</li> <li>● 地域デザイン事業</li> <li>● 地域労働市場分析事業</li> <li>● 佐賀県における産学官包括連携協定事業</li> <li>● 子ども発達支援士、障がい者就労支援士、社会福祉士</li> </ul>

※地域を志向するキャリア教育の改革には、ラーニング・ポートフォリオに基づく自己管理・改善の学習記録の活用等により実行しています。



佐賀大学及びCOC+参加校は、それぞれの「強み」を活かした地方での雇用の拡大・創出に繋がる重点的かつ戦略的な研究・社会貢献プロジェクトを推進し、地域ニーズ対応型の戦略的研究の推進による雇用の拡大・創出に貢献し、学生の地元就職率の向上に努めています。

教育プログラム開発委員会の開催や事業協働地域におけるインターンシップ機能の強化、共同FD・SD研修、シンポジウム、地域を志向するキャリア教育のための特別講義等の企画と実践を推進しています。

事業協働機関との連携による学生と企業等とのマッチングイベント「さがを創る大交流会」を含む地方創生を担う人材の育成に向けた教育・研究・社会貢献も推進しています。

## ◆ プロジェクト紹介

教育改革及び雇用の拡大・創出を達成するために、コーディネーターの活用を含む佐賀大学及び事業協働機関「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」の推進体制の機能強化、地域を志向するキャリア教育のプログラム開発と実践及び雇用の拡大・創出のための戦略的研究・社会貢献の推進のための具体的事業を実施します。

佐賀大学及びCOC+参加校における本事業への全学的な取り組みと連携の強化のための共同FD・SD及びシンポジウムを実施し、事業協働機関を構成する地方公共団体・経済団体・企業・NPO等の関係機関の連携による学生と企業等とのマッチングイベント（さがを創る大交流会）を含む地方創生を担う人材の育成に向けた教育・研究・社会貢献を推進していきます。

### B 佐賀大学全学教育機構（教養教育）

#### 地域志向型キャリア教育のプログラム開発とその実施

「個人と社会との持続的発展を支える力」を培うインターフェースプログラムの地域志向化に取り組み、地元就職意欲の向上につながるキャリア教育を核とする教育改革を進めます。

### C 佐賀大学芸術地域デザイン学部(H28.4開設)

#### 地域芸術デザイン力の養成による地域再生を担う人材育成

地域ニーズ対応型の教育研究を行い、陶磁器関連企業等や地元自治体・関連諸団体と協働し、「やきものイノベーション」の創出と地域の活性化・再生に寄与できる人材の育成を推進します。

### D 佐賀大学教育学部(H28.4開設)

#### 子どもの発達支援士育成(COC+参加大学との連携)

佐賀県5大学の取り組みである「子ども発達支援士養成プログラム」を見直し、向上させつつ、さらにその資格を用いて、地元の就職につなげていくことを目的としています。

### E 佐賀大学経済学部

#### 産業界との連携による実践的地域志向キャリア教育及び地域労働市場の実態調査分析

地域労働市場実態調査、県内企業経営者による講義、県内企業における単位制インターンシップの実施を通して県内企業間の相互理解向上と学生の社会人基礎力の獲得を図ります。

### F 佐賀大学医学部

#### 障がい者就労支援士の養成

佐賀地域における障がい支援の実状について学び、学生が将来希望する職域において生活・就労支援できる基礎的能力を養い、対象となる方の治療継続と生活の質の向上による共生社会構築に貢献することを目的としています。

### G 佐賀大学理工学部

#### 産業界との連携による創造型工系キャリア教育による人材育成

企業セミナーやインターンシップの実施、地域に即したものづくりや地元企業との共同研究、地域環境志向型まちづくりを通じて学生の社会力養成を図ります。

### H 佐賀大学農学部

#### 農業のIT化と6次産業化を担う人材育成

佐賀の豊富な農林水産業に基づいて、新産業の創出と高度化に取り組み、6次産業化の人材育成と地元雇用の創出を目指します。

### I 佐賀大学キャリアセンター・アドミッションセンター

#### 地元就職率向上のための支援と高大連携による地元入学率の向上

大学の教育・研究に触れ高校生に大学に対する理解を深めてもらう取り組みや学生に県内企業の情報発信、インターンシップ合同説明会など、地元就職を希望する学生とのマッチングを推進します。

### J 西九州大学

#### 地域志向キャリア教育の改善(PBL化等)・中長期実践型を含むインターンシップの高度化

大学COC事業で培った成果を事業協働地域への学生就業へと発展させ、実社会に通じる実践力や佐賀に対するシビックプライドを育成し、「さがの未来を創る」人材育成を進めていきます。

### K 九州龍谷短期大学

#### アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・子ども発達支援士の養成

授業や演習で学んだ知識や技能を実践の場で活かす力を身につけ、「個人と社会との持続的発展を支える力」を培うことを目的としながら地元就職意欲の向上につながる教育改革を進めていきます。

### L 佐賀女子短期大学

#### アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・子ども発達支援士の養成

地域と連携した特別の教育プログラムを開講し、学生の学びの場、地元理解を柱とした教育改革を推進しています。

### M 西九州大学短期大学部

#### アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・子ども発達支援士の養成

社会生活・職業理解につながる態度や志向性、知識・技能を獲得し、社会の一員として地域の発展に寄与すべく、主体的・対話的な能動的学習を中心とした教育改革に取り組んでいきます。

### A 佐賀大学及び事業協働機関全体

#### 地方創生を担う人材育成のための推進体制の構築とその運営

「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」において、大卒者・短大卒者の地元就職率の向上と地域産業の振興による雇用の拡大・創出に協働で取り組みます。





# ◆ 各プロジェクトの取り組み



地方創生を担う人材育成のための推進体制の構築とその運営  
事業実施主体：佐賀大学及び事業協働機関全体

## ● 平成30年度の取り組み

### ■ 平成30年度年表

平成30年

4月～11月	さがを創る大交流会実行委員会（月1回・計8回）
4月23日	第1回COC+事業推進部門会議
5月 7日	第1回幹事会、第1回教育プログラム開発委員会
6月18日	第2回教育プログラム開発委員会
6月19日	第2回COC+事業推進部門会議
6月22日	第2回幹事会
6月25日	第1回インターンシップ推進専門委員会
7月23日	さが地方創生人材育成・活用推進協議会総会
9月10日	第2回インターンシップ推進専門委員会
10月28日	「2018さがを創る大交流会」開催
11月22日	第3回インターンシップ推進専門委員会
12月 9日	COC+シンポジウム「インターンシップと地元定着」開催

平成31年

1月22日	地域創生推進センター運営委員会
1月23日	インターンシップ勉強会（FD・SD研修会）開催
2月 8日	第3回COC+事業推進部門会議、第3回教育プログラム開発委員会、第4回インターンシップ推進専門委員会
2月13日	第3回幹事会
3月14日	平成30年度外部評価委員会
3月22日	地域創生推進本部会議



さが地方創生人材育成・活用推進協議会総会



さがを創る大交流会実行委員会



第4回インターンシップ推進専門委員会

事業協働機関での取り組みとして、さが地方創生人材育成・活用推進協議会（1回）、幹事会（3回）、教育プログラム開発委員会（3回）、インターンシップ推進専門委員会（4回）を実施し、事業方針策定や事業の進捗状況の確認、事業推進に係る具体的施策の企画・立案をしました。佐賀大学内においては、地域創生推進本部会議（1回）、地域創生推進センター運営委員会（1回）、COC+事業推進部門会議（3回）を実施し、事業方針の策定や事業の進捗状況の確認、学内の各プロジェクトの進捗確認・情報共有を図りました。

また、平成30年10月に県内企業と学生の交流イベント「さがを創る大交流会」、平成30年12月に「インターンシップと地元定着」をテーマにしたシンポジウム、平成31年1月に、西九州大学及び西九州大学短期大学部主催、さが地方創生人材育成・活用推進協議会共催のインターンシップ勉強会（FD・SD研修会）「多様化するインターンシップの受け入れから実施まで」を開催しました。

全国的なネットワーク構築と連携においては、COC+事業として開催された「九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウム INながさき2018」及び仙台で行われた内閣府主催の「地方創生インターンシップ推進シンポジウム」、高知で開催された「COC/COC+全国シンポジウム」に出席。また、「九州ブロックCOC+コーディネーター連絡会」（長崎）、「平成30年度COC+推進コーディネーター会議」（高知）へ参加。さらに、COC+大学である長崎大学及び宮崎大学へ訪問（2件）、長崎大学（3件）、福井大学（2件）、岩手大学（1件）、計6件の来訪があり、COC+の事業内容及び地域人材育成に関する情報交換をしました。また、平成30年12月に長崎県で開催された「NAGASAKIしごとみらい博」の企画、準備、運営方法に対し「さがを創る大交流会」の運営を踏まえてアドバイスを行いました。

COC+の事業内容の広報は、新聞やホームページ、各大学と連携して運用するFacebook、佐賀大学事務局が発行するニュースレター等において積極的に情報公開・発信しました。



「2018さがを創る大交流会」開催



COC+シンポジウム



インターンシップ勉強会（FD・SD研修会）

## ■ 教育・インターンシップ

教育プログラム開発委員会(3回)においては、「2018さがを創る大交流会」、シンポジウム、FD・SD研修会、大学間共同授業、大学間連携インターンシップなど、地元就職率向上のための教育や地元志向型キャリア教育について協議しました。

インターンシップ推進専門委員会(3回)においては、平成30年度に実施した「さがを創る大交流会」でインターンシップの受入を希望した98機関中、既存サイトへの登録やインターンシップを実施していない59機関へ、大学が連携してアプローチを行いました。その結果、10機関において新たにインターンシップを実施し、インターンシップ受入先の量的な拡大を図りました。また、インターンシップ導入マニュアルのリニューアルを検討し、作成しました。



インターンシップ導入マニュアル

## ■ 就職支援・雇用の拡大と創出

コーディネーターを中心とした地元就職率向上に向けた取り組みとして、県内企業(19社: 内、新規企業13社)、自治体(3機関)、団体(7機関)への訪問及び来訪を延べ64回実施。雇用の拡大・創出に関する課題を顕在化するとともにインターンシップの重要性及び今後の課題について確認しました。

また、平成31年2月に佐賀県・佐賀市が主催する「学生×IT企業さが交流会」に参加し、佐賀県新規進出企業の新規採用状況や企業が求める人物像などについて確認しました。



「学生×IT企業さが交流会」への参加

## ■ 総会やシンポジウムなど全体の取り組み

### □ さが地方創生人材育成・活用推進協議会総会

「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」に関わる教育機関、自治体、企業・団体が一同に会し、事業内容について協議する「さが地方創生人材育成・活用推進協議会総会」を開催しました。

本協議会の会長である佐賀大学宮崎耕治学長からの挨拶の後、五十嵐勉事業実施責任者が平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画について説明。その後、「正課のインターンシップの質的・量的拡充の戦略」をテーマに意見を交換しました。協議会メンバーである企業側の意見として、インターンシップ参加学生の増加に向けた取り組みを行ってほしいとの要望があり、大学からは企業研究や積極的な学生募集を実施するとの回答がありました。事業推進に向けて活発な意見交換を行う場となりました。

日 時：平成30年7月23日（月）13：30～15：00

場 所：佐賀大学本庄キャンパス理工学部6号館2階多目的セミナー室

出 席 者：さが地方創生人材育成・活用推進協議会協働機関（約70名）

プログラム：

1. 開会の挨拶
2. 議事

（協議事項）

- ・平成29年度の事業報告について
- ・平成30年度の事業計画について
- ・その他

（ディスカッション）

- ・正課インターンシップの質的・量的拡充の戦略

（報告事項）

- ・幹事会実施報告
- ・教育プログラム開発委員会実施報告

3. 閉会の挨拶



宮崎協議会会長の挨拶



総会の様子



ディスカッションの様子

## □ COC+シンポジウム「インターンシップと地元定着」

12月9日(日) 佐賀大学にてCOC+シンポジウム「インターンシップと地元定着」が開催されました。

株式会社カウテレビジョンより代表取締役社長の高橋康德氏を講師にお招きし、「学生が主役の職業観醸成インターンシップの実践」をテーマに講演いただきました。最終面接まで残った学生を支援する「ファイナリスト支援」や、さまざまな仕事や現場を一度に知るができる「あいのりインターンシップ」など独自の取り組みについてお話しいただき、参加者からは「とても興味深かった」「参考にしたい部分が多かった」という声が多数寄せられました。

学生報告会では、8名の学生がインターンシップに参加したきっかけやインターンシップを通して学んだこと、今後の目標について発表しました。また、ディスカッションでは、コメンテーターから学生に対する質問や意見が活発に飛び交い、インターンシップのあり方について議論を深めるとともに、多くの学びを得ることができました。

地(知)の拠点 COC+ さが地方創生 人材育成・活用プロジェクト

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業

COC+ シンポジウム 2018

# インターンシップと 地元定着

COC+事業「さが地方創生人材育成・活用推進プロジェクト」では、佐賀県内の大学や企業、自治体等が連携して、大卒・短大卒者における地元就職率の向上と地域産業の振興による雇用の拡大・創出に協働して取り組んでいます。

本シンポジウムは、先進的なインターンシップを行う企業代表からの基調講演や、学生によるインターンシップ報告と、インターンシップの成果と課題に関するディスカッションを行い、今後の県内でのインターンシップ推進と理解促進を図ります。

日時 2018. **12.9** Sun  
13:30-17:00 (受付 13:00)

会場 佐賀大学 本庄キャンパス  
教養教育大講義室  
(佐賀県佐賀市本庄町1)

対象 一般市民、学生、自治体関係者、  
CSO関係者、大学教職員等

## Program

- 13:30 開会挨拶
- 13:40 趣旨説明  
五十嵐 勉 佐賀大学 全学教育機構 教授
- 14:00 基調講演  
「学生が主役の職業観醸成インターンシップの実践」  
株式会社カウテレビジョン 代表取締役 高橋 康德 氏
- 15:05 学生インターンシップ報告会／ディスカッション  
「学生による報告から考えるこれからのインターンシップ」
- 17:00 閉会



基調講演講師

高橋 康德 氏

株式会社カウテレビジョン  
代表取締役社長

広島大学(理学部化学科)卒業後、テレビ西日本(フジ系)入社。テレビ局時代の8年間でニュース約3000本を取材。現在、インターネットTV局「カウテレビジョン」代表取締役社長。学生専用の番組制作体験メニュー(15日間)を用意し、毎年春と夏に、学生インターンシップを受け入れる。「歴代インターン卒業生」が年に一度集まるイベント「カウコレ」を開催するなど、次世代を担う若者達の成長サポートに積極的に取り組んでいる。

主催：さが地方創生人材育成・活用推進協議会

申し込み方法は裏面をご覧ください▼

日 時：平成30年12月9日（日）13：30～17：00

場 所：佐賀大学 本庄キャンパス教養教育大講義室

プログラム：

13：30～ 開会挨拶 兒玉 浩明（佐賀大学 理事）

13：40～ 趣旨説明 五十嵐 勉（佐賀大学 全学教育機構教授）

14：00～ 基調講演

「学生が主役の職業観醸成インターンシップの実践」

講師：高橋 康德 氏（株式会社カウテレビジョン 代表取締役社長）

15：05～ 学生インターンシップ報告会/ディスカッション

●学生報告会（佐賀大学4名、西九州大学1名、佐賀女子短期大学2名、九州龍谷短期大学1名が報告）

●ディスカッション「学生による報告から考えるこれからのインターンシップ」

座長：井本 浩之 氏（西九州大学 副学長）

コメンテーター：

高橋 康德 氏（株式会社カウテレビジョン 代表取締役社長）

山口 真悟 氏（木村情報技術株式会社管理本部人事総務部 リーダー）

武富 将志 氏（佐賀市企画制作課 課長）

秋山 翔太郎 氏（特定非営利活動法人佐賀県CSO推進機構 相談支援員）

戸田 順一郎 氏（佐賀大学経済学部 准教授）

17：00～ 閉会



佐賀大学理事兒玉浩明による開会の挨拶



COC+事業実施責任者五十嵐勉による趣旨説明



基調講演の様子



基調講演の様子



学生インターンシップ報告会での発表



ディスカッションの様子

## □ 2018さがを創る大交流会

COC+事業の一環として、佐賀県内の企業・団体と学生・教員が交流し、情報交換・意見交換の場を創成することを目的とした「さがを創る大交流会」を平成30年10月28日(日)に佐賀大学本庄キャンパス体育館(A会場)及びスポーツセンター(B会場)にて開催しました。

今回はA会場を機関と学生の交流の場、B会場を大学と機関の交流の場とし、両会場合わせて160ブースが出展し、多くの参加者でにぎわいました。

出展機関及び参加学生アンケート結果を基に、交流会の成果を確認するとともに、次年度以降の開催に向けた課題の把握を行いました。アンケート結果の一部は、本報告書の72~79ページに掲載しています。

日時:平成30年10月28日(日) 13:00~16:00

場所:佐賀大学本庄キャンパス体育館(A会場)、スポーツセンター(B会場)

プログラム:11:00~12:00 出展者事前セミナー(B会場)

12:20~12:50 開会式(出展機関のみ参加(B会場))

13:00~16:00 交流会(A会場)

13:00~16:00 イベント(B会場)

16:00 閉会(アナウンス)

告知ポスターの主要な要素:

- EVENT**: メイクアップ講座、マナー講座、スーツ選び
- 2018 さがを創る大交流会**: 132 BOOTH
- 日時**: 10月28日(SUN) 13:00~16:00
- 会場**: 佐賀大学 体育館・スポーツセンター
- 服装自由 入場料無料**
- さがを創る大交流会とは…?**: 佐賀県内で活躍する企業・自治体・NPO・団体等を学生のみならず知ってもらえるイベント。132機関が出展し、佐賀における多様なキャリアや働き方を伝えます。各機関の能力や働き方を学び、佐賀への進路選択における視野を広げよう!
- 主催**: さが地方創生人材育成・活用推進協議会、後援: 佐賀大学展覧会

出展機関一覧(132ブース)の概要:

- 出展機関一覧(132ブース)**: 約130の企業・団体名が掲載されている。
- イベントスケジュール**:
  - 13:00~14:00: イベント1 (メイクアップ講座)
  - 14:30~15:00: イベント2 (スーツ選び)
  - 15:00~15:30: イベント3 (マナー講座)
- 参加方法**:
  - 会場でお借りするURLもしくはQRコードにアクセス
  - 必要事項を入力アンケートに回答
  - 最後に送信ボタンを押し完了画面が出たら出席完了!
- 参加学生は、サガしる 出席カード&アンケートを必ず提出してください!**

## 県内機関と大学、学生1,500人以上が一堂に会す大交流会

「2018さがを創る大交流会」当日は天候に恵まれ、さが地方創成人材育成・活用推進協議会会長である佐賀大学宮崎耕治学長の挨拶、出展者一丸となった「佐賀さいこう!」の掛け声とともにスタートしました。開会式には佐賀大学マスコットキャラクターのカッチーくんや永原学園のナガーウ、佐賀県子育て応援キャラクターさがっぴいとゆるキャラたちも応援にかけつけてくれました。

A会場では、約130の出展機関が工夫を凝らしたブースに学生を呼び込み大変にぎわいました。B会場では、普段目にする事のない大型実験機器やさまざまな用途に合わせた車いすの試乗があり、参加者は足を止め熱心に説明を聞いたり、体験したりしていました。大学の研究成果などを県内機関の方々へPRする場、さらに、地元企業・団体等と産学連携を深めるためのきっかけづくりの場となりました。

当日は5大学合わせて1,133名の学生と一般参加者・出展機関参加者418名の合計1,551名が参加しました。今年も、学生の参加確認とアンケート収集は、株式会社オプティムの協力を得て、“さがしる”システムを活用し、アンケートに回答した学生の中から抽選で115名に出展機関34機関から提供された景品を贈りました。

学生からは、「さまざまな職種があり見応えがあった」「体験型ブースは、自分の興味がない職種であったとしても、興味を持つきっかけとなった」など参加してよかったという声が多く寄せられました。企業側からも、「直接学生の要望等を聞くことができ、大変意義のある交流会だった」「佐賀の若者にとってもいい機会なので、今後も継続して開催していただきたい」と、交流会出展に対する手応えを感じていただけたようでした。



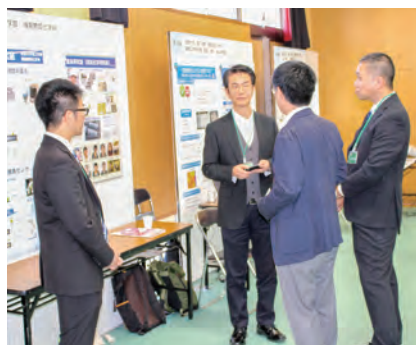
開会式の様子



宮崎協議会会長による挨拶



A会場の様子



B会場の様子





## イベントブース

B会場に設置したイベントブースでは、出展者向けの事前セミナーや学生向けのマナー講座、メイクアップ講座などさまざまな講座を開催しました。

### 出展者向け事前セミナー／ジョブカフェSAGA

大交流会の開会前に実施した出展者向け事前セミナーは、ジョブカフェSAGAから講師を招き、出展者の方々にブースの展示方法や学生への声のかけ方などをレクチャーしました。



出展者事前セミナー

### マナー講座／NPO法人鳳雛塾

佐賀大学内にオフィスを構えるNPO法人鳳雛塾に協力いただき、セミナー形式で「社会で役立つマナー講座」を行いました。お辞儀などの所作や、表情の大切さなどについて講義いただき、最後に学生とともに挨拶の練習などを行いました。



マナー講座

### メイクアップ講座／株式会社ミズ

メイクアップ講座では株式会社ミズに協力いただき、社会人になった際に役立つメイク術についてお話いただきました。講座は、学生モデルへメイクをしながら説明するセミナー形式で実施し、学生は熱心に話を聞いていました。



メイクアップ講座

### スーツの選び方講座／洋服の青山

スーツの選び方講座では洋服の青山に協力いただき、スーツやネクタイの選び方、就職活動や新社会人で役立つマナーを中心にお話いただきました。学生は熱心にメモを取りながら聞いていました。



スーツ選び講座

## 大交流会の準備と留学生対象の取り組み

さがを創る大交流会開催までの準備として、さがを創る大交流会実行委員会の開催や出展募集説明会を行いました。また、大交流会当日は留学生を対象としたブースツアーを行いました。

### さがを創る大交流会実行委員会

平成30年2月13日に「2018さがを創る大交流会」実行委員会のキックオフを行いました。大交流会の開催に向け、毎月1回、佐賀大学、西九州大学、九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学、西九州大学短期大学部、佐賀県が集まり、開催に向けて一丸となって取り組みました。

### 「2018さがを創る大交流会」出展募集説明会

平成30年7月10日（火）に、大交流会の出展機関の募集のため、佐賀大学において出展募集説明会を開催し、103機関（119名）が参加しました。説明会では交流会の趣旨、概要、ブース仕様、募集数等を説明し、出展を呼びかけました。

### 留学生のためのブースツアー／佐賀大学国際課

今年度は留学生への参加呼びかけの範囲を広げ、佐賀県国際課、佐賀県国際交流協会、佐賀県内の語学学校へ参加案内をしました。

昨年につき、留学生採用可である31機関のブースラベルにはグローバルマークを表示し、留学生が理解できるようにしました。加えて、佐賀大学国際課の職員が、前述の31機関へ留学生を連れて会場を巡る「留学生採用企業ブースツアー」を実施しました。



実行委員会の様子



出展募集説明会の様子



留学生採用企業ブースツアー

## □ インターンシップ勉強会 (FD・SD研修会)

1月23日(水)に、西九州大学・西九州大学短期大学部主催、さが地方創生人材育成・活用推進協議会共催で「インターンシップ勉強会 (FD・SD研修会)」を開催し、大学関係者と企業合わせて23名が参加しました。

インターンシップに積極的に取り組む、株式会社南自動車学校の取締役社長山田康之氏を講師としてお招きし、インターンシップ導入を検討する企業や実施に課題を抱える企業を対象に、インターンシップのとらえ方からプロセス、受け入れのポイントやメリットなどをお話いただきました。その後のワークショップでは、参加者を4つのグループに分け、グループごとに「目的」「目標」を意識したプログラム設計を行いました。実際のプログラムを考える過程で、さまざまな視点からの意見が出され、活気のあるワークショップとなりました。

ワークショップで提案されたプログラム案を原案とし、今後のインターンシップにつなげたいという声も寄せられ、大変有意義な勉強会となりました。

日 時：平成31年1月23日 (水) 13:30～17:00

場 所：西九州大学健康支援センター

プログラム：

13:30～ 開会挨拶

井本 浩之 氏 (西九州大学副学長／リカレント教育・研究推進本部長)

13:40～ 講演

山田 康之 氏 (株式会社南自動車学校取締役社長)

14:45～ ワークショップ

導入説明及び進行：井本 浩之 氏 (西九州大学副学長／リカレント教育・研究推進本部長)

主催：西九州大学 西九州大学短期大学部 共催：さが地方創生人材育成・活用推進協議会  
 平成30年度 インターンシップ勉強会 (FD・SD研修会)

### 多様化するインターンシップの受け入れから実施まで

日時：平成31年 1月23日 (水) 13:30～17:00  
 場所：西九州大学 健康支援センター多目的ルーム (佐賀市水ヶ江1丁目12-10 佐賀メディカルセンタービル1階)

実践的な体験プログラムの一つに位置づけられるインターンシップは、近年、いわゆる“体験型”にとどまらず、企業が抱える課題に取り組むもの、地域活性化の取り組みに参画するものなど、様々な形を置いています。一方でプログラムの短期化も進み、受入企業・参加学生の双方にメリットをもたらすプログラム設計が求められます。本会では、多様化するインターンシッププログラムを紹介するとともに、インターンシップの導入手順からプログラム設計までをワークショップ形式で学びます。

参加費無料 定員60名

事例紹介 株式会社南福岡自動車学校  
 福岡県大野城市に1956年創業。「感性あふれる“ひと”を創る」を企業理念とし、新しい・上から自撮りといった従来の、自動車学校のイメージを覆すべく、様々な経営改革を行う。インターンシップの学生によるイベントの企画など学生が主体的に事業に関わるプログラムを積極的に実施し、インターンシップからの採用実績も多い。グループ企業である株式会社つなぐっとでは就職支援事業を行っている。

参加お申込み メールがFAXでお申し込みください【締切】平成31年1月16日(水)  
 ■申込先：西九州大学 リカレント教育・研究推進本部 FAX：0952-52-4194 メール：recruit@ccu.ac.jp (担当：権塚)

機関名		
電 話		エメール
参加者	ふりがな	ふりがな
	ご氏名	ご氏名
	お名前	お名前

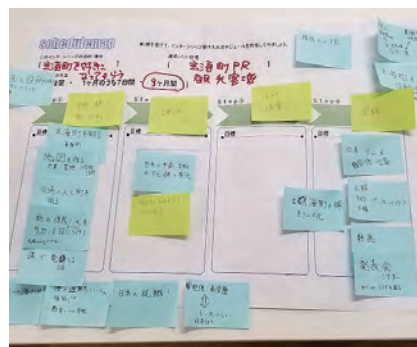
■お問い合わせ：西九州大学 リカレント教育・研究推進本部 電 話：0952-37-9282



講演の様子



ワークショップ開催風景



ワークシートには様々な意見がびっしり

## 第1回インターンシップ勉強会 アンケート集計結果

実施日：平成31年1月23日（水）13：30～17：00

場 所：西九州大学健康支援センター

参加者：23名 アンケート回答数：20 回答率：87%

## 問1：回答者の基本属性について

【性別】	
男性	60%
女性	40%

【年齢層】			
20代	30%	50代	15%
30代	30%	60代	10%
40代	15%		

【所属】			
企業	45%	その他	20%
自治体	5%		
学校関係	30%		

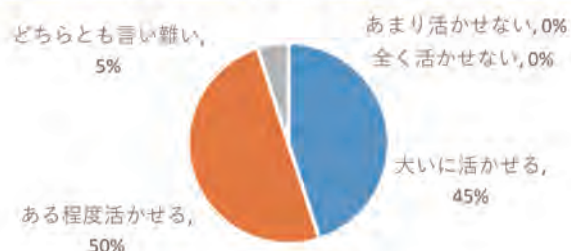
## 問2：どんなことを今回の勉強会に期待していましたか？

- ・インターンシップ受入体制の構築について参考事例が知りたかった
- ・会社の課題としてインターンシップを行いたいがどのようなこと行えばよいか手探り状態であるため少しでもヒントになればと。
- ・インターンシップのプログラムあり方を学びたくて参加しました。特に学生が従来と違ってきているのではないか。

## 問3：今回の勉強会で一番印象に残ったことは何ですか？

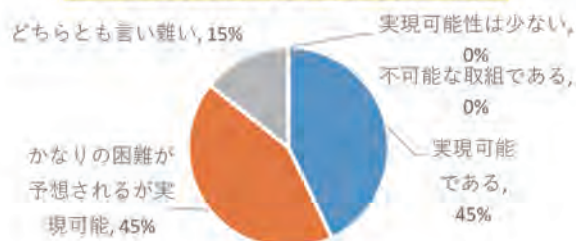
- ・インターンシップ生を受け入れてからのプログラムの立て方、プログラムをどう立てるかの大切さがわかりました。
- ・自社都合を消す。学生にプログラム作らせる。
- ・学生の成長のために行うということと企業のために行うということ。

## 問4：今回の勉強会は今後の学生教育・社員教育に活かせると思いますか？

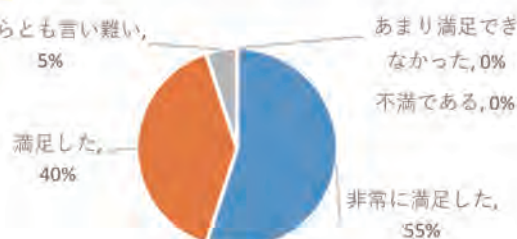


- ・学生自身に課題の洗い出しをさせると、それそのものが学習になるのではないかと思う（企業）（OBがメンターになるなど）
- ・企業担当者の方からインターンシッププログラムの相談を受けた時に活かせる（大学）
- ・今までのインターンシップとは違った視点で学生を楽しませることができるかも（企業）

## 問5：今回、インターンシッププログラムを設計するにあたり、様々な提案がなされたと思いますが、このような取組の実現可能性について伺います。



## 問6：今回の勉強会についての総合的な満足度を教えてください



## 問7：自由記述

- ・実際に企業さんの考えに触れ、ワークショップでインターンシップの計画を立てることができて勉強になりました。
- ・大きな「理念」から小さな「実践」のところまで話しあうことができ良かったです。

## 地域志向型キャリア教育のプログラム開発とその実施

事業実施主体：佐賀大学全学教育機構

### ● 平成30年度の取り組み

主な取り組みとして、インターフェース・プログラム（地域志向型）及び基本教養科目「チャレンジ・インターンシップA・B」、「佐賀版キャリアデザイン」を開講しました。さらに、地域を志向する副専攻のカリキュラム・規則等を整備しました。

### ■ 教育・インターンシップ

#### □ インターフェース・プログラム

インターフェース・プログラム（2～3年次の選択必修・4科目8単位）である、「地域創成学」プログラム、「有明海学」プログラム、「地域環境の保全と地域社会」プログラム、及び各学部の専門科目において、COC事業を発展させた内容を含めた地域課題解決型の地域を志向する授業を実施しました。また、インターフェース・プログラムにおける地域志向度をより明確にするための新しい分類基準（※1）を設定し、C型以上を目指すこととしました。地域志向教育が十分ではない、2つのD型プログラムについては、シラバスへの記載を含めて地域志向教育の拡充に向けた修正を行う予定です。

平成31年度より新規に開講するサブスペシャルティコースのプログラムについても、地域志向教育を取り入れ、平成31年度のシラバスに反映させることとしました。

（※1）4科目の総コマ数60コマのうち、A型:48/60コマ以上(80%以上)、B型:30～47/60コマ(50～80%未満)、C型3～29/60コマ(5～50%未満)、D型:2/60コマ(5%未満) に分類。

#### □ 地域を志向する副専攻プログラム

地域を志向する副専攻プログラムは、インターフェース・プログラムにサブスペシャルティコースとして、プログラミング・データサイエンス、デジタルコンテンツ、芸術と社会、実践栽培、歴史文化、英語コミュニケーションの6つの新規のプログラムを追加。このプログラムを基盤にしたそれぞれの副専攻を設置し、平成30年度入学生を対象として、平成31年度より新規に開設する準備を整えました。データサイエンスや佐賀の地域性を前提とした、地域で活躍できる人材の育成プログラムとして推進する体制を整えることができました。

#### □ チャレンジ・インターンシップ

基本教養科目「チャレンジ・インターンシップA」（平成31年2月下旬から3月上旬に実施、45時間・1単位）、「チャレンジ・インターンシップB」（平成30年8月～12月に実施、10日間・2単位）を、事業協働機関等と連携して開講しました。「チャレンジ・インターンシップA」は14名、「チャレンジ・インターンシップB」は24名が履修しました。インターンシップ受入れ先は、事業協働機関を含む県内企業及び団体等、計11機関となった。いずれもPBL型・実践型インターンシップとして実施しました。



チャレンジ・インターンシップA



チャレンジ・インターンシップB

## □ 佐賀版キャリアデザイン

事業協働機関を含む県内の企業・NPO等と連携し、基本教養科目「佐賀版キャリアデザイン」(全16回・2単位)を開講し、214名が履修しました。事業協働機関を含む県内の企業・NPO等から、外部講師12名を招聘し特別講義を実施することで、佐賀や地域の魅力、地域における多様な働き方を学ばせることができました。



佐賀版キャリアデザイン

内 容	
10月 3日	「ガイダンス、ローカルキャリアデザイン論Ⅰ」 講師：五十嵐 勉（佐賀大学全学教育機構/教授）
10月10日	「ローカルキャリアデザイン論Ⅱ」 講師：井本 浩之（西九州大学/副学長・教授）
10月17日	「ローカルキャリアデザイン論Ⅲ」 講師：山内 一祥（佐賀大学全学教育機構/講師）
10月28日	「さがを創る大交流会」 担当：五十嵐 勉（佐賀大学全学教育機構/教授）
10月31日	「佐賀就活ナビが、あなたを応援します！」 講師：坂本 圭介（ジョブカフェSAGA）
11月 7日	「佐賀（地方）で働き暮らすことの魅力」 講師：多良 淳二（一般財団法人佐賀銀行文化財団）
11月14日	「女子アナから記者、そして学校法人理事長へ」 講師：内田 信子(旭学園/理事長)
11月21日	「ワールドカフェ：佐賀（地方）で働く意義」 担当：五十嵐 勉（佐賀大学全学教育機構/教授）
11月28日	「日南市・油津商店街再生事業 応援の連鎖がまちを変える」 講師：木藤 亮太（株式会社油津応援団専務取締役、株式会社ホーホウ代表取締役、元テナントミックスサポートマネージャー（油津商店街））
12月 5日	「インターンシップ報告会Ⅰ（チャレンジ・インターンシップB）」 担当：五十嵐 勉（佐賀大学全学教育機構/教授）
12月12日	「インターンシップ報告会Ⅱ（チャレンジ・インターンシップB）」 担当：五十嵐 勉（佐賀大学全学教育機構/教授）
12月19日	「SNSで、さがを編集する！」 講師：中村 美由希（株式会社ビープラス）、花島 一彦（株式会社EWMファクトリー）
1月 9日	「佐賀発、グローバルな働き方Ⅰ」 講師：諫山 由紀子（NPO法人地球市民の会）、福島 龍三郎（社会福祉法人はる 理事長）
1月16日	「佐賀発、グローバルな働き方Ⅱ」 講師：島 彰宏（NPO法人テラ・ルネッサンス 佐賀事務所） 「インターンシップ報告会Ⅲ（チャレンジ・インターンシップB）」 担当：五十嵐 勉（佐賀大学全学教育機構/教授）
1月23日	「ビジネスマナーを磨いて、私を変える！」 講師：黒田 彩(office color/代表)

プロジェクト

## 地域芸術デザイン力の養成による地域再生を担う人材育成

事業実施主体：佐賀大学芸術地域デザイン学部 (H28.4開設)

### ● 平成30年度の取り組み

芸術地域デザイン学部は約8割の学生が女性です。また現代社会では女性を含めた就業の在り方が問われています。そのため、女性の働き方に関するセミナーを開催するなど、学部の特性に合わせた就職支援を行っています。

#### ■ 就職支援

##### □ 就職支援セミナー「女性の働き方講座」

平成30年7月12日に、株式会社アヴァンティの村山由香里社長を講師に「新しい社会をつくるみなさんへ」と題した就職支援セミナー「女性の働き方講座」を開催しました。芸術地域デザイン学部1～3年生の計120名が参加しました。セミナーを開催し、低学年のうちから就職への意識付けを行うことによって、積極的な就職活動意識の醸成につなげることができるとともに、女性の働き方に対する意識が芽生えました。

##### □ 芸術地域デザイン学部 デザイン系企業視察ツアー

平成30年11月30日に、企業訪問バスツアー「芸術地域デザイン学部 デザイン系企業視察ツアー」を実施。芸術地域デザイン学部の学生の修学と関係の深い、佐賀新聞社、ベガコーポレーション、レベルファイブの3社を訪問しました。日ごろ触れることのない企業の内部見学や、企業の人事担当者との意見交換によって、社会や企業が求める人材、大学生活で学んで欲しいことなど、現場の実情を垣間見ることができました。学生からは、今後の進路を決めるうえで参考になったという意見が多く挙がりました。



デザイン系企業視察ツアー

##### □ その他、学部独自の就職支援の取り組み

- 5/ 9 (水) 就職活動準備ガイダンス
- 5/30 (水) ビジネスマナー講座
- 6/20 (水) OG・OB 講演、エントリーシート・面接の自己PRの書き方・話し方講座
- 6/27 (水) デザイン系企業セミナー
- 7/ 6 (金) キャリアを考える
- 7/12 (木) 女性の働き方講座
- 7/13 (金) OG・OB 講演／パネルディスカッション
- 10/10 (水) 就職準備ガイダンス
- 10/31 (水) 公務員対策講座
- 11/14 (水) 特別講演「デザイン系業界企業研究」、ポートフォリオ個別指導
- 12/ 5 (水) 対策講座(模擬面接／グループディスカッション)
- 12/19 (水) 対策講座(個別指導)(模擬面接／グループディスカッション)
- 1/30 (水) 今後の就職活動にむけて

## プロジェクト

## D

## 子どもの発達支援士育成 (COC+参加校との連携)

事業実施主体：大学コンソーシアム佐賀：佐賀大学教育学部 (H28.4開設)

### ● 平成30年度の取り組み

子ども発達支援士養成プロジェクトを実施し、子ども発達支援士の育成を行っています。また、子ども発達支援士養成卒業プログラム（以下「卒業プログラム」という）及び現職プログラムを実施し、資格取得後のスキルアップも実施。今年度は、福井大学で開催されたサミットにおいて、本取り組みを報告しました。

### ■ 教育及び就職支援

#### □ 子ども発達支援士養成プログラム

COC+参加校（佐賀大学、西九州大学、九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学、西九州大学短期大学部）等と連携して子ども発達支援士養成プログラム（平成30年度受講登録者総数：135名）を実施しました。本プログラムの核となる必修科目「子どもの支援I（基礎・実習）」は、前期・後期に各1日実施する集中講義と、30時間の「支援実習I」への参加を課します。「支援実習I」において、学生は、事業協働機関である佐賀県の佐賀県療育支援センター、事業協働地域のこども園やNPO法人等を含む19ヶ所の支援実習先から、自ら希望する支援実習先を選択し、30時間の「支援実習I」を体験することで、より実践的で確かな支援力を身につけることが可能です。

本プログラムは大学間連携共同教育推進事業採択後7年目を迎え、延べ623名の有資格者を輩出しており、前期と後期の集中講義において、事業協働地域の関連施設に就職した先輩有資格者を講師として迎えるなど、資格取得や就職に向け、学生の更なる意欲向上に成果が得られました。また、今年度は、COC+子ども発達支援士養成プログラムワーキンググループを2回実施しました。

#### □ 卒業プログラム及び現職プログラム

「子ども発達支援士（基礎）」資格認定者で、連携校の短期大学卒業生と専攻科在学生在が対象とした「子ども発達支援士養成卒業プログラム」及び、障害のある子どもに関わる専門職を対象とした「現職プログラム」を実施し、合わせて43名が受講しました。「卒業プログラム」修了者に対しては、「子ども発達支援士」資格を認定します。

【表D-1】子ども発達支援士等の有資格者と就職状況  
(平成25年～平成30年度)

年 度	資格認定者数	入職者数		入職率	
		全体	県内	全体	県内
平成25年度	100名	79名	56名	79%	71%
平成26年度	135名	109名	67名	81%	61%
平成27年度	120名	89名	53名	74%	60%
平成28年度	155名	119名	74名	77%	62%
平成29年度	112名	80名	50名	72%	63%
平成30年度	138名	入職状況については調査中			
合計	760名	476名	300名	77%	63%

※平成29年度データに一部不足あり



平成30年度前半基礎ユニット

### ■ 研究

#### □ 「はばたけ地域創生士!サミット」(福井大学)

平成30年11月13日・14日に開催された「はばたけ地域創生士!サミット」(福井大学)において、石井宏祐准教授(佐賀大学)、尾辻千香氏(ふたばこども園)、淵上真実氏(佐賀大学教育学部2年)が参加し、子ども発達支援士養成の取り組みについて報告しました。



## プロジェクト

## E

## 産業界との連携による実践的地域志向キャリア教育及び 地域労働市場の実態調査分析

事業実施主体：佐賀大学経済学部

### ● 平成30年度の取り組み

主に経済学部専門科目による就職に対する意識の向上や、就職カルテシステムの導入、経済学部同窓会組織との交流等を行い、産業界との連携した実践的地域志向キャリア教育を促進しました。これらは、経済学部所属する教員で組織するCOC+事業推進タスクフォース（構成員：経済学部就職委員長・平地一郎教授、亀山嘉大教授、羽石寛志准教授、戸田順一郎准教授）において、各事業の進捗状況等についての管理・調整、及び事業計画に基づいた事業の実施を推進しました（会議5回）。

### ■ 教育

#### □ 経済学部専門科目「現代の経営」及び「演習」

地域志向型キャリア教育科目として、佐賀県経営者協会、佐賀経済同友会、佐賀県信用保証協会の協力の下、県内企業経営者等による講義「現代の経営」（前期15回）を実施し、245名の学生（2年生以上）が受講しました。座学に加えて、「演習」を中心に、県内企業への訪問や工場見学、県内企業・自治体と協力した調査研究を行い、県内企業・団体に関する情報や、働くことについてのイメージを提供し、学生と県内企業・団体との間の相互理解の向上に寄与しました。

#### □ 経済学部専門科目「実践インターンシップ」 （単位制インターンシップ）

県内企業や自治体を受入機関とした、課題解決型インターンシップ「実践インターンシップ」を開講し、平成30年8月下旬に5日間の日程で、木村情報技術株式会社、株式会社佐賀電算センター、鳥栖市役所（総合政策課、農林課）の3機関において実施しました。学生（2年生、3年生）16名が受講し、現地での実習に加え、事前講習会及び事後報告会を行い、今後の進路を考える一助となりました。



鳥栖市役所での地方創生インターンシップ

### ■ 就職支援

#### □ 就職カルテシステム

2年生以上の経済学部全学生を対象に就職カルテシステムを構築し、学生の就職に関する意識（進路希望、希望勤務地等）及び取り組み状況を定期的に把握するようにしました。

#### □ 経済学部同窓会組織「楠葉同窓会」との交流

経済学部の同窓会組織である楠葉同窓会と経済学部学生との交流会を開催し、県内企業・団体を中心にさまざまな職種OB・OGと交流しました。OB・OGからは、就職活動の心得等、卒業生としての立場から助言をいただきました。

#### □ キャリア支援室の設置

就職相談体制を強化するため、経済学部総務係内にキャリア支援室を設け、キャリアアドバイザーを配置しました。また、学生談話室の一部に県内企業の紹介と就職支援情報の提供のためのコーナーを設置。掲示物の作成や選書等、就職情報提供コーナーの充実は学生の協力のもと進め、学生の就職に対する意識の向上につなげることができました。

## プロジェクト

## F

## 障がい者就労支援士の養成 —継続して医学的ケアを必要とする方の就労支援教育— 事業実施主体：佐賀大学医学部

### ● 平成30年度の取り組み

高次脳機能障がいについて学ぶ講義や、移動困難者の支援のための研究等を行いました。また、就職支援として、佐賀県内の医療圏について学ぶ講義を実施しました。

#### ■ 教育

##### □ インターフェース科目「ライフサイクルからみた医療Ⅳ」

高次脳機能障がいの患者会の協力を得て、当事者や家族の具体的状況や問題について例示してもらう講義を、インターフェース科目「ライフサイクルからみた医療Ⅳ」において2回行いました。医療的ケアの観点からの講義でしたが、医学部以外の学生が学ぶ、本庄キャンパスからも積極的な質問があり、疾患や障害の理解について地域特性を踏まえて理解することができました。

#### ■ 就職支援

##### □ カリキュラムの検討

就労支援カリキュラムの検討を行う中で、佐賀の地域特性の理解を深めるため、佐賀県内の二次医療圏の5医療圏（中部、東部、北部、西部、南部）の特性について、資料を基に講義を行いました。学生は医療圏と行政組織や地域特性が密接に関わっていることや、地域における偏在が見られることに気づくことができました。

#### ■ 研究

##### □ 実車運転数量化のためのコーディングシステム構築

移動困難者の支援対象として、脳卒中後遺症患者の運転可否判断と運転復帰の支援のために、運転行動を数量化するシステムである実車運転数量化のためのコーディングシステムを構築しました。これにより、統計解析を容易に行えるようになり、実車評価の基準値算出が可能となりました。

##### □ 交通事故データ分析及び連絡協議会の立ち上げ

佐賀地域の移動支援や交通対策の特長抽出のため、全国の自治体毎の数値を交通事故総合分析センターのデータから分析しました。これにより、全国自治体の中で、佐賀県や佐賀市などの各自治体と地勢学的に同様の傾向を有する市、町との比較が可能となりました。また、交通問題や高齢者運転の問題に関わる地域のセラピストの連絡協議会を立ち上げました。

## 産業界との連携による 創造型工系キャリア教育による人材育成

事業実施主体：佐賀大学理工学部

### ● 平成30年度の取り組み

教育においては、地域創生に関わるカリキュラムを組み込んだ理工学部の改組ならびにカリキュラムの具体化や、創造型教育システムの取り組み、県内での地域志向型教育を行いました。また、インターンシップや県内企業との意見交換、キャリアデザインセミナー等を開催し、県内企業との連携を深めました。さらに、県内自治体や企業との共同研究にも取り組んでいます。

### ■ 教育

#### □ 組織再編委員会の開催

地方創生を視野においた理工学部改組が認められたため、組織再編委員会（平成30年4～12月：第66～89回）において、理工学部の具体論を議論し、複合的視点を有し地域に貢献できる人材の育成に向けたカリキュラムの具体化を行いました。

#### □ 創造型教育システムの取り組み

創造型教育システム（創造型PBL演習等）の取り組みとして、理工学部専門科目「都市工学ユニット演習（建築都市デザイン）」「建築環境工学演習II」を実施しました。「都市工学ユニット演習」では、佐賀県や県内市町村の取り組みについて学び、計画・設計提案を学生に取り組ませました。

#### □ 環アジア国際セミナーの開催

平成30年7月20～27日に佐賀大学及び鹿島市肥前浜宿で環アジア国際セミナーを開催し、韓国交通大学校、タマサート大学・チェンマイ大学（タイ）、カザフ建築土木高等アカデミー（カザフスタン）、アイントホーフェン工科大学（オランダ）、ウィーン工科大学（オーストリア）、佐賀大学から計78名が参加しました（担当：三島伸雄教授・平瀬有人准教授・宮原真美子准教授、協力組織：肥前浜宿水とまちなみの会、浜町振興会、祐徳神社門前町商店街、鹿島市）。参加学生や研究者に、佐賀県内の歴史的町並みを深く知ってもらい、建築・都市デザインに関する学生の技術力や提案力、発表力、国際的意識の向上を図ることができました。



環アジア国際セミナー

#### □ インターフェース科目「地域創生学Ⅲ」

インターフェース科目「地域創生学Ⅲ」で、株式会社嬉野創生機構と嬉野市の協力を得て、嬉野市内において嬉野市のまちづくりについて調査・研究・発表を行い、クラウドファンディング事業に向けた学生提案ができました。（担当：三島伸雄教授・後藤隆太郎准教授、協力組織：嬉野市、嬉野創生機構）。また、共同研究の一環として、「地方創生学Ⅲ」を受講した学生有志を帯同し、嬉野の地方創生に向けた資料収集、議論などを行いました。

## ■ インターンシップ

### □ 理工学部専門科目「地方創生インターンシップ」の実施

理工学部専門科目「地方創生インターンシップⅠ」及び「地方創生インターンシップⅡ」を実施し、理工学部の学部1～3年及び修士1年の計52名(延べ人数)が参加しました。平成30年8月13日から10月5日までの間で、1週間または2週間で各県内企業にてインターンシップを行い、10月12日に成果報告会をしました。



地方創生インターンシップ

## ■ 就職支援

### □ 佐賀県内企業との意見交換

佐賀県内企業等と意見交換をするため、さが創造型工系キャリア教育連絡会3回(内、メール会議2回)行いました。特に、創造型工系教育システムのインターンシップや演習、キャリアデザインセミナーの開催について協議しました。

### □ さが創造型工系キャリアデザインセミナーの開催

各学科が主催し、さが創造型工系キャリアデザインセミナーを計7回実施しました。セミナーにおけるOB/OG等の講義を通して就職活動の考え方、進め方などについて触れることで、研究室の選択、就職活動、県内就職やその意義など、これからのキャリア形成に関する意識の向上を行うことができました。

### □ さが地方創生合同業界研究セミナーの実施

平成31年1月23日、佐賀大学理工学部6号館において、さが地方創生合同業界研究セミナーを実施しました。参加企業は、佐賀県内の理工系企業12社、参加学生は34名となりました。佐賀県内企業について学生が知る機会を提供でき、県内企業への就業に対する関心を高めることができました。

### □ 肥前地区キャリア教育プログラムの実施

矢田光徳准教授を中心とした肥前セラミック研究センター職員で「肥前地区キャリア教育プログラム」を実施し、学生25名が参加しました。本プログラムで、パナソニックデバイス佐賀株式会社、株式会社佐賀LIXIL製作所、株式会社香蘭社、岩尾磁器工業株式会社、日本タングステン株式会社、日本ハードメタル株式会社の計6社を訪問しました。また、参加学生は矢田准教授による県内のセラミックス関連企業の紹介、及び特定非営利活動法人灯す屋の佐々木元康氏の講演を通して、佐賀での生活について学びました。



株式会社佐賀LIXIL製作所訪問



パナソニックデバイス佐賀株式会社訪問

## ■ 研究

### □ ICT防災デザイン研究

平成30年6月7日に、ICT防災デザイン研究に関連し、佐賀県鹿島市の浜町公民館で地元住民に対する研究報告会を行い、研究チームが行なっているICT防災研究について住民に理解してもらうことができました。参加者はNPO法人水とまちなみの会、鹿島市、浜町自主防災組織の計35名でした。また、鹿島市、NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会、有限会社鹿島防災等の協力を得て、地元住民からのモニタリングを行いました。

### □ 国際会議における研究発表

ICT防災デザイン研究所の研究成果の発表と情報交換のため、ベトナム・チュイロイ大学で開催された低平地国際シンポジウムISLT2018（期間：平成30年9月26～28日）に参加し、学生が論文発表を行いました。また、岡崎泰久教授がフィリピン・マニラで行われた国際会議ICCE2018国際ワークショップICTDSE2018で発表しました。これにより、ICT防災研究の研究成果を広く公表し、研究成果について国際的な研究者との意見交換をすることができました。

### □ 論文採択及び学会発表

嬉野市共同研究の成果として、都市計画学会論文に採択された花元康平氏の論文「近代以降の字図復元からみた嬉野温泉街の河川沿い土地利用変遷」の発表と資料収集のため、第53回日本都市計画学会学術研究論文発表会に出席し、三島伸雄教授が共著者として研究を発表しました。発表会出席者と意見交換し、今後の研究展開について参考になる意見を得ました。

### □ 共同研究

- ・「嬉野市新幹線新駅開発に付随する地方創生デザイン研究」（嬉野市）／三島伸雄教授（研究代表者・理工学部都市工学科）
- ・「鹿島市肥前浜駅前広場等整備デザイン研究」（鹿島市）／三島伸雄教授（研究代表者・理工学部都市工学科）
- ・「タンタル酸化皮膜形成ならびに電解重合条件の検討」（パナソニックデバイス佐賀株式会社）／富永昌人教授（研究代表者・理工学部機能物質化学科）
- ・「セラミックス多孔質基材の接合技術の開発」（岩尾磁器工業株式会社）／矢田光徳准教授（理工学部機能物質化学科）

## ■ その他

### □ 浜川河川協議会への出席

平成30年11月12日に鹿島市古枝公民館で行われた浜川河川協議会に出席し、鹿島市祐徳稲荷神社門前町の将来構想ならびに鹿島市肥前浜宿における環アジア国際セミナーの成果についての講演と、浜川の河川改修に関する意見交換を行いました(担当:三島伸雄教授、協力組織:肥前浜宿水とまちなみの会、祐徳稲荷神社門前商店街、鹿島市)。また、浜町及び古枝地区の住民会議に参加し、佐賀県によって進められている浜川河川改修に対する住民の貴重な意見を収集することができました。

### □ 「さがを創る大交流会」への出展

セラミックス関連の研究のPRとして、矢田光徳准教授が「さがを創る大交流会」に肥前セラミック研究センターセラミックサイエンス部門として出展しました。センターの研究活動のPRと、地元企業との交流を図ることができました。



「2018さがを創る大交流会」出展

### □ 佐賀大学講演会の開催

平成30年12月14日(金)に、佐賀県窯業技術センターにおいて、一ノ瀬弘道教授と矢田光徳准教授を中心にして、佐賀大学講演会「有田焼創業400年を経て 肥前窯業圏 次の100年へ向けて 何が望まれているか 何をすべきか」を開催しました。当日は154名が参加し、学生は地域の課題を学び成長することができました。同時に、佐賀大学肥前セラミック研究センター、佐賀県窯業技術センター、長崎県窯業技術センターの研究成果合同発表会(ポスター発表会)を行いました。

### □ 「SAGAものスゴフェスタ4」への出展

平成30年8月25日・26日に、川喜田英孝准教授、一ノ瀬弘道教授、矢田光徳准教授、機能物質化学科学生5名が「肥前さが幕末維新博覧会関連イベントSAGAものスゴフェスタ4」にセラミックスに関連する出展を行いました。



「SAGAものスゴフェスタ」出展

## 農業のIT化と6次産業化を担う人材育成

事業実施主体：佐賀大学農学部

### ● 平成30年度の取り組み

農学部専門科目等でキャリア教育や実践教育を行い、IT農業や6次産業化について学びました。また、県内企業や行政でのインターンシップの実施、企業と共同した化粧品開発、茶学会を開催する等、企業や地域との連携・交流を促進しました。

### ■ 教育

#### □ 農学部専門科目の開講とキャリア教育

農学部専門科目「農業資源物質工学」において化粧品開発情報を提供しました。また、平成30年7月17日に、化粧品に関係した素材を開発している三和酒類に就職した卒業生によるキャリア教育を実施しました。2・3年生を対象にしたインターフェース科目「2年間でできる『がばいベンチャー』I～IV」では、今年度からプログラミング教育は株式会社オプティム、アントレプレナーシップやビジネスモデル創出はNPO法人鳳雛塾で機能分担を行い、講義内容を深化することができました。



「2年間でできるがばいベンチャー」授業風景

#### □ 青果物・食品輸出プロセスの整備

2年にわたり開発してきた農作業管理システムの実証試験を、佐賀市の道の駅と契約する農家を対象に行い、栽培履歴については台湾への農産物輸出実証の際のトレーサビリティ情報として使用できることを確認しました。平成30年9～10月にかけて、株式会社奈雅井（伊万里市）、株式会社そよかぜ館、台湾政府他と連携し、伊万里港から台湾基隆港への輸出手順を整備しました。地方国際港からも青果物の海外輸出が可能であることを示したのは国内初の成果です。本事業で学んだ学生は、国内外の農業の違いを明確に理解し、青果物や食品の輸出の全プロセスを学びました。今後、国内農業の事業規模拡大や農業分野への新規雇用、新規事業開拓への貢献が期待されます。



農産物輸出実証

#### □ 農学部専門科目及び教養教育科目

農学部専門科目「フィールド科学基礎実習I～IV」において、ノビルを材料にした実践教育を実施しました。学生はノビルを材料に病害虫防除、施肥、収穫作業等、食料生産の基本的な作業の習得を図り、加工実習を通して農産物の利用促進と新事業を創出する手段（6次産業化への展開）を修得することができました。また、教養教育インターフェース科目「食料と生活II」において、ノビルに関するプロジェクト情報の提供と、本学で現在保有する世界一のノビルの遺伝資源を紹介しました。

平成31年2月の卒論発表会においては、ノビルの産業活用を目指した機能性成分研究の成果（3演題）を発表しました。

## ■ インターンシップ

### □ 農学部専門科目「インターンシップ」

前年度実施したインターンシップの評価を行い、平成30年9月にインターンシップを実施しました。今年度は、化粧品の研究開発を行う株式会社インパクト（参加学生2名）と佐賀県農業試験研究センター（参加学生3名）でのインターンシップに参加しました。佐賀県内企業への就職紹介を進めた結果、学生が佐賀県内企業3社に就職しました。

## ■ 研究

### □ 化粧品開発拠点事業

一般社団法人ジャパン・コスメティックセンター会員の企業と共同研究を行い、その成果を学術論文として投稿することとしました。また、唐津市の委託研究において得られた成果を投稿中です。唐津市で生産の多い甘夏の機能性についても有効な結果を得ることができたため、平成31年3月に研究成果を発表する予定です。これらの研究において、ダイダイ（サワーオレンジ）における抗肥満活性が高いことを明らかにしました。さらに甘夏におけるリモノイドの定量を行い、高含有していることなどを学会で発表しました。また、化粧品成分セラミドの定量方法に関する論文、発酵への機能性に関する論文、肝臓に対する影響の論文の3本を出版しました。

### □ ノビルの開発・研究

平成30年6月5日に、佐賀県立高志館高校によるノビル加工品の試作をしました。学生は地域産業による地元商材を使用した商品化への過程を学ぶことができました。また、三省製薬とノビルの化粧品素材としての活用について共同研究を行い、ノビル抽出エキスの生理活性を試験しました。

## ■ 就職支援

### □ 「2018さがを創る大交流会」へのブース出展

「2018さがを創る大交流会」へブースを出展し、農学部で行うCOC+事業の取り組みをPRするとともに、学生と地元企業の交流を促進しました。

## ■ その他

### □ 「佐賀・茶学会」関連

平成30年5月26日に、佐賀・茶学会との共催で、佐賀大学農学部において茶に関する講演会を開催し、50名が参加しました。また、教養教育インターフェース科目「食料と生活IV」において、茶文化ならびに茶産業に関するプロジェクト情報を提供しました。平成30年10月27日には、佐賀大学農学部において茶文化と茶産業に関する研究会「佐賀・茶学会」第6回研究発表会を開催し、学生140名が参加しました。

佐賀大学および西九州大学の学生に、茶文化ならびに茶産業に関する最新情報を提供することで、地域文化と地域産業への関心を高めることができました。



「佐賀・茶学会」第6回研究発表会



## プロジェクト

## I

## 地元就職率向上のための支援と高大連携による 地元入学率の向上事業

事業実施主体：佐賀大学キャリアセンター・アドミッションセンター

### ● 平成30年度の取り組み

キャリアセンターでは会社説明会やインターンシップ説明会などを実施し、県内就職支援とキャリア支援を行いました。また、アドミッションセンターでは、学内で高校生対象の授業の実施や高校訪問などを行い、高大連携の推進と県内高校との連携を深めました。

#### ■ 就職支援（キャリアセンター）

##### □ インターンシップ関連合同説明会

平成30年6月27日に、佐賀県内企業・自治体等26機関を招き、主に夏に展開されるインターンシップに関する合同説明会を実施し、153名の学生が参加しました。9月末までに28名の学生が県内企業のインターンシップに参加しました。



インターンシップ関連合同説明会チラシ

##### □ 学内合同会社説明会及び一次選考会の開催

平成30年9月6日に、佐賀県内企業30機関を招き、学部4年生及び修士2年生（未内定学生）を対象に学内合同会社説明会及び一次選考会を実施しました。16名の学生が一次選考を受験し、そのうち5名の学生が参加企業に内定しました。

##### □ 企業見学バスツアーの実施

平成30年9月25日・26日に、佐賀県内企業6社を訪問する企業見学バスツアーを実施し、3年生を中心に22名の学生が参加しました。

##### □ 佐賀県内企業若手OBと学生の交流会開催

平成31年2月21日に、3月開催の学内合同会社説明会出展企業の内、佐賀県内企業を対象に、各企業の若手・OBと本学学生との交流会を開催しました。

##### □ 社会人ロールモデル集リニューアル

平成28年度に作成した佐賀で活躍する社会人ロールモデル集『Career Design in Community』を、キャリア教育関連科目において配布しました。また、今年度、本ロールモデル集はリニューアルして配布します。

#### ■ 高大接続（アドミッションセンター）

##### □ 「佐賀大学とびらプロジェクト」の実施

高校生に大学の教育・研究に興味関心を持たせる授業や実験を展開することによって受験者層を育成するという視点に立った「継続・育成型高大連携カリキュラム」の「佐賀大学とびらプロジェクト」を実施しました。「教師・科学・医療人・社会へのとびら」各3回について、佐賀県内の生徒768名から申し込みがあり、佐賀大学で計9回にわたりプログラムを開催しました。高校生が「とびらプロジェクト」に参加し、大学が行っている高度な教育・研究に直接触れることにより、佐賀大学に興味・関心を持たせることができるとともに高校での学習にも良い影響を与えることにつながった。理工学部では、「科学へのとびら」のカリキュラム内容について課題を抽出し、次年度から見直すこととしています。

##### □ 佐賀県内の高校を訪問

佐賀県内の高校を延べ70校訪問し、高大連携プログラムや佐賀大学入試説明会等の開催・AO入試・推薦入試出願期間前に選抜方法の説明を行いました。また、アドミッションセンター特任講師が年間260校の高校を訪問するなどして、広報活動を行うことで緊密な連携がとれ、平成31年度AO入試Iの志願者は124名（2.53倍）を獲得できた。

プロジェクト

J

## 地域志向キャリア教育の改善 (PBL化等) ・ 中長期実践型を含むインターンシップの高度化 事業実施主体：西九州大学 (COC+参加校)

### ● 平成30年度の取り組み

地域での活動を通して、地域志向型教育の推進や事業協働地域を中心としたインターンシップの拡大と深化を図りました。

#### ■ 教育

##### □ 高大連携キャリア教育

平成30年7月28日「かんざき宿場まつり」で縁日コーナーの運営を佐賀県立神埼高等学校の生徒とともに実施しました。また、平成30年10月13日はサガ・ライトファンタジーの電飾設置を佐賀学園高等学校の生徒とともに行いました。

##### □ 学修成果の報告会の実施

平成31年1月12日に学外活動に関する学修成果の報告会を実施し、学生・教職員、学外活動の受入先の関係者など約600名が参加しました。

##### □ COC事業の発展的展開

地域住民を対象とした「健康教室」、健康栄養学科による「栄養教室」、子ども学科による「子どもミュージアム」、社会福祉学科を中心に地域活動計11件を実施しました。また、地域食材を用いた商品開発及び食材の機能性研究、地域の食や商品開発に関する講座を実施し、今年度はイベントに合わせて菓子やカレーの開発・販売も行いました。

地域の食や商品開発に関する講座については、選択必修科目「地域の食産業」において、メーカーや6次化推進機関のコーディネーター、パッケージデザイナー等、商品開発に携わる方5名を外部講師に招き講話を行いました。

#### ■ インターンシップ

##### □ インターンシップの受け入れ先開拓及び情報交換会の実施

インターンシップの受け入れ先との情報交換会を5事業所と延べ9回実施し、そのうち4事業所はインターンシップ受け入れ可能となり、1事業所は別途実施したインターンシップへの参画が決定しました。



栄養教室の開催



子どもミュージアムの実施



えびすFMでのインターンシップ

□ **実施したインターンシップ一覧**

**課題解決型プログラム (3件)**

- ① 学生による取材活動を通じた企業の広報力強化プログラム「サガスト!」
- ② 佐賀市中心市街地の活性化を目的とした「サガ・ライトファンタジー」の電飾企画設置及びイベント運営  
※佐賀女子短期大学と連携して実施
- ③ 年間を通じたラジオ番組企画・運営活動 ※佐賀女子短期大学と連携して実施

**実践型プログラム (5件)**

- ① まちなか活性化を目的としたウィンドウディスプレイコンテストの運営 (受入先: Gallery&café小城鍋島家Ten)
- ② 保育活動及び幼児1クラスに対するおやつ提案と実施 (受入先: 社会福祉法人 高木児童福祉会 高木保育園)
- ③ イベント運営を通じた地域における多文化共生への理解を主目的としたプログラム (受入先: 公益財団法人 佐賀県国際交流協会)
- ④ 農作業や他県からの移住者との交流を通じた地域理解 (受入先: 本間農園)
- ⑤ 大量調理の実践 (受入先: 佐賀市立北川副小学校)

**県外で実施した正課インターンシッププログラム (3件)**

- ① 農作業及び大学間交流を通じたキャリア開発プログラム (受入先: 一般社団法人TASUKI ※北海道帯広市)
- ② 段ボールコンポストの普及や食育推進を目的としたイベント運営 (受入先: NPO法人循環生活研究所 ※福岡県福岡市)
- ③ 営業同行やセミナー運営を通じたビジネスマナー修得プログラム (受入先: 株式会社セールスアカデミー)

□ **各種研修会への参加・開催**

- ・第17回日本インターンシップ学会 (平成30年9月3～4日、香蘭女子短期大学)
- ・一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム主催「専門人材ブラッシュアップ研修会」(平成30年9月7～8日、東京都)
- ・学内研修会「インターンシップ勉強会」(平成31年1月23日、西九州大学健康支援センター)

■ **その他**

□ **ワーキンググループの開催**

事業の全学的周知を行うための情報を一元管理できるシステムの構築については、事業周知及びキャリア教育科目群のブラッシュアップを行うための学科横断型のワーキンググループを形成しました。このワーキンググループを中心に、学科と学内へ事業の周知・情報共有を強化していきます。

□ **実績報告書の作成**

来年度以降インターンシップの受け入れ拡大を図るため、平成31年2月に今年度実施した活動及びインターンシップの実績報告書を作成し、インターンシップ導入マニュアルとともに配布を予定しています。

プロジェクト  
Kアクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・  
子ども発達支援士の養成

事業実施主体：九州龍谷短期大学 (COC+参加校)

## ● 平成30年度の取り組み

アクティブ・ラーニング方式の地域志向型キャリア教育や就職支援の取り組みを充実させ、学生の地元（佐賀県）への就職率は平成30年度目標41.0%に対し55.2%（平成30年12月27日現在）となり目標を達成することができました。

## ■ 教育・インターンシップ

## □ 保育学科における人材育成の取り組み

保育学科においては地域の幼稚園・保育園等と連携し、資格・免許に関連する実習をはじめ、教育課程の編成や内容についての協議や協働した人材育成を行いました。また、アクティブ・ラーニング方式の地域志向型キャリア教育の一環として、各学科の関連企業等から外部講師を招聘して学生との交流の場を設けました。

## □ 子ども発達支援士養成プログラム

子ども発達支援士養成プログラムに40名が履修登録し、プログラムを通して学生の保育者としての資質が向上しました。また、現職研修で子ども発達支援士養成プログラムを広く周知し、地元企業等への貢献と地元就職の促進を図ることができました。

## □ キャリア教育

キャリアアップやワーク・ライフ・バランス等についてのパネルトーク及びディスカッション「先輩たちに学ぶこれからのキャリアデザイン」に1年生を中心に約100名が参加しました。

## □ インターンシップの実施

人間コミュニティ学科の映像・放送コース及び司書・情報コースで、企業等と連携してインターンシップを実施しました。

## ■ 就職支援

## □ 佐賀県内の関連企業等との連携

事業所を訪問し地元企業と関係を深めました。また、学生の就職支援及び就職対策支援室において、学生からの相談が延べ30件（平成30年12月27日現在）あり、そのうち8件が就職に結びつきました。また、平成30年9月20日に、学生3名を引率し、鳥栖市内事業所4か所を訪問しました。学生のうち1名は訪問した企業に就職することができました。

## □ 説明会等の開催

平成30年6月24日に、佐賀女子短期大学、西九州短期大学と合同で佐賀県保育会就職説明会を実施し、406名（本学学生は82名）が参加しました。また、学内において平成30年7月25日に株式会社フォーバル、10月16日に株式会社エイジェックの会社説明会を実施し、今年度は株式会社エイジェックに学生1名が内定しました。

## □ その他

就職先での評価を計る就職先アンケート、事業所ニーズアンケート、平成29年度卒業生アンケート、在学生アンケートを実施し、学科会議において分析結果の活用を検討しました。また、平成30年11月、来年度の2年生の就職活動支援のため「就職ガイドブック改訂版」を200部作成して配布しました。さらに、就職支援対策室で情報サイトから情報収集を行えるように整備しました。本学のホームページにおいて、「COC+事業」の情報や佐賀県内の求人情報を掲載し、毎月発信・更新しました。

## ■ その他

### □ シンポジウムや交流会等への参画

佐賀商工会議所青年部事務局主催「九州さが大産業交流展」（平成30年9月21日・22日開催）からの協力依頼があり、ボランティアで教員・学生が各社インタビューの撮影等を担当しました。また、「2018さがを創る大交流会」（平成30年10月28日開催）にCOC+参加校として参画し、学生27名が参加しました。

「COC+シンポジウム2018」（平成30年12月9日開催）においては、人間コミュニティ学科映像放送コース1年生が事例発表を行いました。

### □ 「第3回子どもフェスタ」の開催

鳥栖市との包括連携協定に基づき、平成30年6月30日に佐賀県内の就学前の子どもと保護者を招いて「第3回子どもフェスタ」を開催しました。保育学科2年生と教員らが指導・スタッフとなり、主に鳥栖市内から園児や保護者、園の先生ら約130人が訪れました。学生の地元就職意欲の向上、地域の方々との交流、地域貢献、本学に対する理解促進を図ることができました。

### □ 包括連携協定の締結

地域振興への貢献を目的に、鳥栖商工会議所と包括連携協定を締結しました。平成28年度に包括連携協定を締結した鳥栖市と鳥栖市教育委員会とともに、地元企業へのインターンシップや就職の推進、保育士不足などの解消に向けた取り組みを協働し推進することにより、本学学生をはじめ、若年層や子育て世代の地元定着を目指すことができました。



保育学科の取り組み



佐賀県保育会就職説明会



学内会社説明会の様子

プロジェクト

L

## アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・ 子ども発達支援士の養成

事業実施主体：佐賀女子短期大学 (COC+参加校)

### ● 平成30年度の取り組み

事業協働地域を理解するための講義や地方公共団体や企業と連携して、PBL等活動主体のアクティブ・ラーニングを実施しました。また、県内企業が集まる交流会やセミナーなどへ積極的に参加し、県内企業や地域について理解を深めました。

### ■ 教育・インターンシップ

#### □ 講義及びアクティブ・ラーニング

事業協働地域を深く理解するための講義や地方公共団体・企業と連携して、PBL等活動主体のアクティブ・ラーニングを以下の通り実施しました。

##### ① 「旭の女性とみらい」(1年)

教育理念の理解、学園訓の体験的理解とともに、未来を見据えた人材育成を目指した授業を展開しました。着付けの授業では、武雄市、佐賀市と連携しました。

##### ② 「佐賀を歩く」(1年)

今年度は「クレークを知ろう」「小城町クリスマスウィンドウディスプレイ」「子育てサポートマップ作り《佐賀市版》」のテーマを設定し、地域の協力も得ながら活動、地域の課題等への理解を深めました。平成31年1月16日に活動に関わった方を招き成果発表会を実施しました。

##### ③ 「地域みらい学Ⅰ・Ⅱ、こども未来学Ⅰ・Ⅱ」(全学生必修)

事業協働地域について現状や課題を理解するための科目として行う、全学科全学生必修科目。1・2年生合同でテーマ毎に地元の現状や課題に取り組み、平成31年1月に全学科で成果発表会を行いました。

##### ④ 「地域職場研究」(地域みらい学科共通の専門科目)

地元の企業を中心とした業界研究、職場研究を行いました。平成30年9月「九州さが大産業交流展」(参加学生40名)、10月「2018さがを創る大交流会」(参加学生38名)に参加し、県内企業の情報収集と企業人との交流の機会を高めました。さらに、西九州大学の学生と職員を授業に招き、企業インタビューの事例報告を行いました。

##### ⑤ 「インターンシップ」

県内企業・地方公共団体等で43名がインターンシップを行い、実践による企業・職業理解を深めることができました。また、新たに西九州大学とPBL型インターンシップ「サガ・ライトファンタジー事業」(佐賀市役所)に取り組みました。

##### ⑥ 子どもの支援Ⅰ(基礎・実習)

佐賀大学と共同した集中講義基礎ユニット(講義・グループワーク)の開催や、30時間以上の支援実習Ⅰを実施。受講登録者は39名で受講資格者69名の内56.5%が受講しました。平成30年度、本学の「子ども発達支援士(基礎)」資格取得予定者は68名です。

## □ 授業を通した課題発見

事業協働地域を深く理解するための授業では、地方公共団体（嬉野市、武雄市、佐賀市、小城市、白石町、佐賀県）や企業（理研、ホテルマリタール・創世、アルタ、ティーウェイ航空）、NPO（湛然の里、鳳雛塾）等の協力を得て、講師派遣や地域をフィールドにした学習の機会を設けました。

## □ 資格活用の検証

県内の保育施設に本学卒業生の在籍状況を調査し、それをもとに県内にて子ども発達支援士など、本学で取得した資格等が活用できているかを検証し、教育内容の充実を図る素地ができました。

## ■ 就職支援

### □ 交流会やセミナーへの参加

佐賀の企業の魅力を学生が知るために、九州さが大産業交流展、2018さがを創る大交流会、女性起業家支援セミナーに参加しました。

### □ 高短連携

グローバル共生コースの学生と主に県内の高校生（希望者）を対象とした韓国語講座を開催するなどして、語学教育を中心とした高短接続（連携）をはかりました。また、付属高校と相互理解も念頭に高短接続の一環として旭学園教育・保育研修大会を開催しました。

### □ 再就職情報等の発信

離職者の状況を把握し、ホームページを活用した卒業生へ向け再就職情報等の随時掲載に向けて準備を始めました。

## ■ その他

### □ 広報活動

本学ホームページにCOC+関連の記事を44件、SNSに40件以上掲載（平成30年12月末現在）しました。また、西九州大学と共同で、地域ラジオ局えびすFMの番組を月に1度企画運営し、各大学の地域活動等本事業の成果等を情報発信できました。

### □ 推進委員会の開催

社会・産学連携推進室と合同で平成30年12月までに7回の推進委員会を開き、協議・確認をして情報共有を図り、全学的に事業に取り組むことができました。また、学生募集強化につながる効果的な情報収集と発信についてのFD/SD研修を2月に実施しました。



「佐賀を歩く」講義風景



「地域職場研究」講義風景



広報活動「えびすFM」

プロジェクト  
**M**

## アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・ 子ども発達支援士の養成

事業実施主体：西九州大学短期大学部

### ● 平成30年度の取り組み

学外の企業との交渉や学内の学生就職支援を行う職員の配置や就職支援研修会の開催、就職情報閲覧の利便性を向上させるなど、学生の就職支援に取り組みました。

#### ■ 就職支援

##### □ コーディネーター業務を行う人員の配置

本事業における産学連携に関するコーディネーター的役割を果たす事務補佐員を雇用し、学生支援課に配置しました。主な業務としては、学外の企業との交渉や学内の学生就職支援事務を担い、具体的には学生への就職手続きのサポート並びにインターンシップ企業と学生のマッチング等に従事しました。

##### □ 就職支援研修会

佐賀県内の企業3社による学生向け就職支援研修会を平成30年12月14日（金）に開催し、地域生活支援学科・多文化生活支援コース11名の学生が参加しました。参加者は企業の方に直接話を聞くことで、就職してからの未来をイメージできる貴重な機会となりました。

##### □ 就職情報閲覧

就職情報閲覧の内容が充実するようにポータルサイトをカスタマイズし、学生の就職ニーズに沿うよう変更しました。

##### □ 学生・教職員による企業見学

松浦通運株式会社（唐津市）の見学に、地域生活支援学科の学生6名と教職員が参加しました。参加したすべての学生が見学・体験を行った企業に対し興味を示しました。また、地域で就労・生活する社会人の方からの言葉により、地元で暮らす具体的なイメージ形成につながりました。

#### ■ 子ども発達支援士の養成について

子ども発達支援士養成プログラムでは、幼児教育・保育の専門職業人を目指す学生の専門性を向上させることにより、より多くの発達障がいのある幼児がニーズに合った支援を、幼稚園や保育所で受けられるようにすることを目的としています。

今年度は、12名の学生に子ども発達支援士（基礎）の資格が付与されました。



学生向け就職情報サイト（ポータルサイト）



学生向け就職支援研修会



松浦通運株式会社見学



## インターンシップを経験した「学生の声」



平成30年度にインターンシップを経験した、佐賀大学、西九州大学、九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学、西九州大学短期大学部の学生から、インターンシップで学んだことやその成果を報告します。



宮崎 ひかる

佐賀大学  
農学部生命機能科学科1年

インターンシップ先  
佐賀市役所

- 業種 行政
- インターンシップ参加時期  
平成30年8月16日～29日
- インターンシップ日数 10日間
- 仕事内容  
座学研修で佐賀市全体の業務について学習、後半：中山間地域班と街中班に分かれて課題調査、最終日に課題成果発表

### 「インターンシップで見つけたもの」

インターンシップに参加した理由は、自分に足りないものは何か知りたかったからです。また、大学を選ぶときにもっとしっかり調べておけば良かったという後悔を就職ではしたくないと考えたからです。内容は前半に座学、後半に課題調査を行う課題解決型でした。このインターンシップでは佐賀市の職員の方だけでなく、課題を調査するために多くの人にインタビューしました。そこではなかなかほしい回答を得ることができず苦戦しました。そしてそれが私の課題だと気が付きました。いつも慣れ親しんだ環境では気が付くことができなかった課題だと思います。これから自分の力で未知の世界に飛び込んで、出会った人の思いを引き出せる人になりたいです。



小川 温輝

佐賀大学  
経済学部経済学科2年

インターンシップ先  
株式会社佐賀電算センター

- 業種 IT
- インターンシップ参加時期  
平成30年8月下旬
- インターンシップ日数 5日間
- 仕事内容  
課題解決とプレゼン発表、ワークフロー、企業説明、業界説明、社員との交流

### 「インターンシップで変わったこと」

私がインターンシップへの参加を決めたときの周りの反応は、「え、もうインターンやるの？早くない？」というものが多かったです。しかし、インターンや就職活動には早いも遅いもないと思います。どれだけ早くてもうまくいかないときだってあります。私は今の自分がどれだけできるかを知りたくて、インターンに参加しようと決めました。社会での言葉遣い、礼儀、気遣いなど、10年間続けた剣道を通して学んできたことはインターン先でも役に立ちました。ビジネスアイデア発表の場でも、過去に一度経験したビジネスアイデアコンテストでのロジックを組むスキルが発揮できました。一方、インターンに参加したことでの自分の短所もたくさん教えていただきました。3年次で本格的に動き出す前にこういった貴重な機会ができたので、活用していきたいです。



永田 栄作

西九州大学  
リハビリテーション学科  
作業療法学専攻2年

インターンシップ先  
本間農園

- 業種 養鶏業、農業
- インターンシップ参加時期  
平成30年11月3日～12月15日
- インターンシップ日数  
5日間（上記期間のうち）
- 仕事内容  
鶏の飼育及び農作業、クラウドファンディングに係る諸作業の補助

### 「人との出会いで変わる価値観」

私がなぜ本間農園にインターンシップに行こうと思ったのか、それは将来の夢に、より明確なビジョンを持たせたかったからです。本間農園のインターンシップでは鶏のエサやりや集卵、原木シイタケの採取のほか、春振に暮らす人々に会っていろいろな話を聞かせていただきました。このインターンシップに参加して学んだことは“自分の価値観を変えるのは人と出会って話をする事だ”ということです。今後は、もっと様々な人と積極的にかかわることによって自分の価値観をもっと変えられるようにしていきたいと思っています。





福島 有彩

西九州大学  
健康栄養学部  
健康栄養学科2年

インターンシップ先  
Gallery&Café小城鍋島家Ten

- 業種 サービス
- インターンシップ参加時期  
平成30年10月30日～12月5日
- インターンシップ日数 7日間
- 仕事内容  
小城ウィンドウディスプレイコンテストの運営及び出場者のサポート

「何気ない日常も目を輝かせて」

インターンシップ参加の目的は、人としてのスキル向上です。活動は小城町内のウィンドウディスプレイの装飾企画を競うコンテストの運営で、高校生や大学生の出場者のサポートなどを行いました。このイベントは今回が第1回目の開催で、準備などは手探りで大変な部分もありましたが、参加者だけでなく主催者・関係者の方々が目をキラキラさせていたことが特に印象的でした。大学の中は必ずしも目をキラキラさせた人やポジティブな言葉で溢れているわけではありません。今後の大学生活において私は、自分なりに工夫をして普段の何気ないことも面白く変化させ、周りを明るくしながら、笑顔で生活できるようにしたいと思います。



今岡 幸生

九州龍谷短期大学  
人間コミュニティ学科2年

インターンシップ先  
麓まちづくり推進センター

- 業種 公務
- インターンシップ参加時期  
平成30年9月3日～14日
- インターンシップ日数 10日間
- 仕事内容  
資料作成、データ入力、講座の準備・後片付け、清掃、図書の整理、イベントへの参加

「インターンシップを振り返って」

社会人として働く前に、仕事に対する姿勢や考え方を学んだり、職場の雰囲気がどういうものかを知っておきたかったので、インターンシップに参加しました。実習では、講座の準備や講座用の資料作成、職員の方の作業の手伝いや館内の清掃など、主に事務的な業務を中心にさせていただきました。実習を終えて、公民館はまちのさまざまな人にとってのよりどころであることを知りました。高齢者の方に限らず、自宅以外に自分の居場所があるということはとても大切なことであり、公民館の存在を今よりもっと重要視するべきだと感じました。そして、自分のまちのことや、地域の人の関わりや繋がりを改めて考えるきっかけになりました。インターンシップでの経験は、今後自分の強みになると思います。得た知識や身につけたマナーは、就職後しっかりと活かしていきたいと思いました。



井澤 李南

九州龍谷短期大学  
人間コミュニティ学科1年

インターンシップ先  
株式会社トス・ステージサービス

- 業種 舞台設営・音響・照明
- インターンシップ参加時期  
平成31年2月4日～17日
- インターンシップ日数 約10日間
- 仕事内容  
舞台設営の補助業務、音響、照明の補助業務、テレビスタジオのFDの練習と実践、アンケート調査

「インターンシップを振り返って」

私がインターンシップに行くと思った理由は、単位を取るためと舞台設営など実際の現場を見て、そこで働いていらっしゃる方々がどんな動きをしているのかを見たいと思ったからです。実習では、舞台の設営や音響、照明などをしました。見学が多かったのですが、舞台がたくさんの方々の力で、言葉通り一から作られる様子には感動しました。一人一人が欠けたりずれたりすると、成り立たなくなるというのはどの業務でもあてはまることだと思っていましたが、それを目のあたりにして気が引き締められました。私は今年から就活が始まるので、今回インターンシップで体験したことを胸に頑張ろうと思います。



**吉尾 咲里奈**

佐賀女子短期大学  
地域みらい学科  
食とヘルスマネジメントコース1年

**インターンシップ先  
佐賀市役所  
経済部商業振興課**

- 業種 官公庁
- インターンシップ参加時期  
平成30年8月27日～平成31年2月15日
- インターンシップ日数 10日間
- 仕事内容  
サガライトファンタジー企画・運営補助

**「佐賀の魅力を伝える仕事をやってみよう!!」**

私は、栄養士になるために勉強をしていて、将来は栄養や食物に関わる仕事に就きたいと思っているため、インターンシップでは全く別業種のことを経験してみたいと思っていました。そこで佐賀市商業振興課で、さがライトファンタジー運営補助業務のインターンシップをしました。具体的な業務は西九州大学、佐賀市役所と一緒にサガライトファンタジーのイルミネーションを設置することです。これまでのライトファンタジーの歴史を学び、自分たちの意見を反映させたイルミネーションを作るため、意見を出し合うのですが、最初はなかなか自分の意見が言えませんでした。しかし指示に従うだけでなく、自分の意見、人の意見を聞きつつ、企画をすすめる重要性を学ぶことができました。



これは、これまでのライトファンタジーの歴史を学び、自分たちの意見を反映させたイルミネーションを作るため、意見を出し合うのですが、最初はなかなか自分の意見が言えませんでした。しかし指示に従うだけでなく、自分の意見、人の意見を聞きつつ、企画をすすめる重要性を学ぶことができました。



**古賀 千聖**

佐賀女子短期大学  
地域みらい学科  
グローバル共生コース2年

**インターンシップ先  
株式会社佐賀広告センター**

- 業種 広告
- インターンシップ参加時期  
平成30年7月4日～平成31年1月23日
- インターンシップ日数 20日間
- 仕事内容  
佐賀の観光案内リーフレット作成、イベント運営補助

**「佐賀の魅力を伝える仕事をやってみよう!!」**

私は、留学先の英国で佐賀をアピールするための英文と和文の両面リーフレット作りに挑戦しました。作成にあたり既存のパンフレットを調べましたが、県内でも行ったことのない観光地があることに気付くことができました。作成に関しては、人の目に止まる文章構成やレイアウトや、制作ソフトの使い方は難しく、社員さんに丁寧に教えてもらってやっと仕上げることができました。



また、会社主催のイベントの運営にも関わらせていただきました。会場設営は設置物の高さやレイアウトなどを何度も確認し、お客様に喜んでもらう工夫に余念がありませんでした。社員さんの、仕事を義務ではなく楽しみながら取り組まれている姿を見て、仕事に対する前向きな素敵な社会人に私もなりたいたと思いました。



**西田 光**

西九州大学短期大学部  
幼児保育学科2年

**インターンシップ先  
社会福祉法人凌友会  
特別養護老人ホーム桂寿苑**

- 業種
- インターンシップ参加時期  
平成30年9月3日～7日
- インターンシップ日数 5日間
- 仕事内容  
現場見学、デイサービス事業での職場体験

**「高齢者向け福祉施設の職場体験で将来の視野を広げる」**

今回のインターンシップに参加して感じたこととして、職員のケアも大事にされていることがわかりました。休憩をとるように促したり、介助しやすいように環境を構成したりと、小さな部分にまで気配りができていると感じました。今回、コミュニケーションを中心とした体験活動を行い、高齢者とコミュニケーションを取る時は、傾聴して、気持ちを受け止め、気持ちをお返すといったことを言葉にして、コミュニケーションを行うのが大事だと教わりました。高齢者の方々とかかわりあいの中で、たくさんの知識を学ばせていただきました。



## ◆ 広報

ホームページや事業協働機関の大学と連携して運用するFacebook、ニュースレター、新聞等で、積極的に情報公開・発信をしました。

### ■ ホームページ・Facebookページの運用

さが地方創生人材育成・活用プロジェクトのホームページではそれぞれのプロジェクトの活動を発信しています。Facebookとも連動させており、各大学と連携してプロジェクトでの活動内容や成果等を更新しています。

ホームページの月間アクセス数は641件で月間ページビュー数は4,265件でした。(平成30年4月1日から平成31年1月31日までの平均値)

「2018さがを創る大交流会」開催日には1日459件のアクセスがありました。Facebookページに対する「いいね」数は260で昨年より44増えています。

さが地方創生人材育成・  
活用プロジェクトホームページ  
(<https://cocplus.saga-u.ac.jp>)



さが地方創生人材育成・  
活用プロジェクトFacebook  
(<https://www.facebook.com/cocplus.saga>)



## ■ ニュースレターの発行

佐賀大学はニュースレター「がばいさだい」を年2回発行しています。COC+関連科目やインターンシップ、県内企業情報などを掲載。総会やシンポジウムなどで配布しています。



がばいさだい第5号



がばいさだい第6号

COC+

# Challenge COC+

COC+関連科目でのキャリア教育や各学部での人材育成・活用のための教育・研究の取り組みを紹介します。

## 「チャレンジ・インターンシップB-自治体・NPO編-」開講!

事前説明会：平成30年7月11日(水)  
事前学習会：平成30年8月7日(火)  
期 間：平成30年8月15日(水)～12月末  
報 告 会：平成30年12月5日(水)、12日(水)

基本教育科目「チャレンジ・インターンシップB-自治体・NPO編-」では8月から12月にかけて佐賀県内の自治体及びNPOで10日間のインターンシップを実施しています。

佐賀市役所企画政策課では8月中旬に実施し、前半は市役所の業務について学び、それを踏まえて後半にはまちなかや山間部に分かれ、それぞれの課題解決に向けた提案型の実践インターンシップに取り組みました。最終日には、職員の前で各地での調査をまとめたものやそれぞれのアイデアを報告しました。また、NPOではイベントの運営補助や事務などさまざまな仕事を体験しました。

学生からは「10日間のインターンシップはハードだったけど有意義でした」「初めてイベント主催側として準備・参加したことが印象に残っており、充実した夏休みになりました!」などの感想が聞かれました。

本インターンシップ参加学生は12月初旬に200名近くの学生が受講する「佐賀版キャリアデザイン」の授業においてインターンシップ報告を行います。

**■ 受け入れ先**  
【自治体】佐賀市役所、武雄市役所  
【NPO】NPO法人愛未来、認定NPO法人カンボジア教育支援フロム佐賀、NPO法人佐賀県CSO推進機構、認定NPO法人地球市民の会、認定NPO法人とす市民活動ネットワーク、NPO法人Succa.Senca

01

がばいさだい第6号 (1-2ページ)



## 2018年度「佐賀版キャリアデザイン」開講

教職教育科目のひとつで、佐賀県の雇用環境や多様な働き方について、県内で活躍するゲストによる講話を通して学ぶことができます。また、県内企業の紹介や学生によるインターンシップ参加報告会を開催します。

- 第1回 ガイダンス/ローカルキャリアデザイン論 I (佐賀大学心学教育機構 教授 五十嵐勉氏)
- 第2回 ローカルキャリアデザイン論 II (西九州大学副学長 井本浩之氏)
- 第3回 ローカルキャリアデザイン論 III (佐賀大学学長 藤原 山内一彦氏)
- 第4回 さがを創る大空飛船 (佐賀県佐賀市、あなたを応援します!) (ジョブカフェ SAGA 坂本圭介氏)
- 第5回 「里山の特色を活かした地産づくり」 (佐賀県地産づくりネットワーク協議会会長/さざんか塾事務局長 多良澤二氏)
- 第6回 「女子アナから記者、そして学校法人理事長へ」 (協学理事 内田信子氏)
- 第7回 「世界から記者、そして学校法人理事長へ」 (協学理事 内田信子氏)
- 第8回 ワールドカフェ「ローカルな働き方」
- 第9回 日南市・油津商店街再生事業 ～店先の連鎖がまちを変える～ (株式会社油津商店街専務取締役 木藤亮太氏)
- 第10回 インターンシップ報告会 I (NPO 法人地球市民の会 倉山由紀子氏、社会福祉法人はるる理事長 徳島隆三郎氏)
- 第11回 「佐賀発、グローバルな働き方 I」 (NPO 法人テラ・メルカンス 佐賀事務所 島影宏氏)
- 第12回 「SNSで、佐賀を編集する!」 (ビープラスト 中村義由希氏、EWM ファクトリー 梶島一彦氏)
- 第13回 「佐賀発、グローバルな働き方 II」 (NPO 法人地球市民の会 倉山由紀子氏、社会福祉法人はるる理事長 徳島隆三郎氏)
- 第14回 「佐賀発、グローバルな働き方 III」 (NPO 法人テラ・メルカンス 佐賀事務所 島影宏氏)
- 第15回 「ビジネスマナーを磨いて、私を変える!」 (Office color 代表 黒田彩氏)

平成30年11月28日(水)

日南市・油津商店街再生事業  
応援の連鎖がまちを変える  
株式会社油津商店街 専務取締役 木藤亮太氏

元テナントミックスマネージャーで、現在、株式会社油津応援団・那珂川町事業関連携専門官として活躍する木藤亮太氏。2013年から約4年間、宮崎県日南市の油津商店街再生に携わり、シャッター街だった商店街に29店舗の誘致を果たしました。店舗はカフェやコンテナ小店舗などに加え、東京本社のIT企業のオフィスなどもさまざま。『一人ひとりが課題意識をもって考え、動くこと』が継続的に起こり得るまちになること』という木藤さんの想い・行動が浸透した結果、今でも活性化の輪はどんどん広がっています。講義では「大学の4年間で自分は「これ」ができるという武器を身に付けてほしい」と学生にエールを送りました。



平成30年11月14日(水)

女子アナから記者、そして学校法人理事長へ  
旭宇理理事長 内田信子氏

テレビ局ではアナウンサーから記者、ディレクターなどを経て、報道制作部担当部長を務められた経験を持ち、現在、学校法人理事長である内田信子氏。報道記者時代には、自身のご両親に子育てなどで支えてもらった実体験から、親元の近くで暮らすことの安心感や利便性を伝えました。また、東京一極集中や人口減少問題等を取り上げ、日本社会の変化を見据えながら、今、人生設計を行うことの重要

性を強調。さらに、ライフワークとして行っているイベント「ハンドメイドフェアさが・ひな市」の企画・運営、佐賀錦の普及啓蒙の取り組みなどを紹介し、社会や地域の課題・ニュースがどこにあるか等「時代を読む力を養い、その中で自分の生き方を探してほしい」と語られました。



## ◆ 新聞記事等

### ■ 産学連携ミックス粉完成 (佐賀女子短期大学)

平成30年5月11日 佐賀新聞

## 産学連携 ミックス粉完成

佐賀市の理研農産化工と佐賀女子短大が産学連携協定に基づいて取り組んできたミックス粉が完成した。理研農産化工は「短大生の協力を得て、簡単にできるプロの味。に近づけた」と手応えを語る。同短大「食とヘルスマネジメントコース」の学生が昨年度、県産小麦粉を使用したスコーンやパン、ケーキのミックス粉のモニターを務め、理研農産加工は学生の意見を参考に、パッケージに記載するレシピの説明や粉の配合などを改良した。

4月下旬、完成したミックス粉を使った調理・試食会があり、同短大の中村萌

理研農産化工  
佐賀女子短大



理研農産化工と佐賀女子短大が産学連携協定に基づいて開発したミックス粉。佐賀市の佐賀女子短期大学

実さん(19)は「ケーキミックス粉は泡立ての必要がなく、小さな子どもでも簡単に作れる。おうちで楽しく作ってほしい」と話した。開発したミックス粉の中心価格は200円で、県内の小売店で購入できる。(上田麻美)

泡立て不要 手軽にケーキ作り

### ■ 「科学へのとびら」

平成30年6月19日 佐賀新聞

## 佐大、高校生向けプログラム「科学へのとびら」修了

60人皆勤「刺激になった」

2018/6/19



拡大する

有馬波農学部長(左)から修了証を受け取る佐賀西高の戸上義章さん=佐賀大学

佐賀大学は17日、理系分野に関心がある県内の高校生向けに開いているプログラム「科学へのとびら」で、規定の回数を受講した3年生約60人に修了証を授与した。プログラムは2016年度から始め、3年間学んだ生徒が初めて修了を迎えた。

育成プログラムは、県教委と連携して実施。1年生から計7回で、大学教員の講話を通し学ぶ意味を考えたほか、「アリアケスジシマドジョウの種の維持」「炎色反応」などテーマを設定したグループ研究などに取り組んできた。

約200人が受講し、7回すべてに参加(補講を含む)した約60人が修了証を受け取った。

白石高校の笠原尚大さん(18)は「少し難しい内容もあったけれど、やりがいを感じた」と話し、致遠館高校の古島波音さん(18)は「レベルが高い他校の発表に触れ、刺激になった。

生物に関する研究職に就きたいという気持ちも確認できた」と語った。

佐賀大学ではこのほか、「教師へのとびら」「医療人へのとびら」「社会へのとびら」を展開、高大連携の4プログラムを進行している。

## ■ 「子どもミュージアム」開催 (西九州大学)

平成30年5月28日 佐賀新聞

### 新聞紙の家できたよ！ 開成小児童40人手作り

西九州大子どもミュージアム

2018/5/28



拡大する

完成した家には40人以上が入ることができた



拡大する

棒状に丸めた新聞紙をガムテープで留め、壁を作る児童ら＝佐賀市の開成小

西九州大子ども学科の学生たちが26日、子どもたちと新聞紙を使った家づくりに挑戦する講座を佐賀市の開成小で開いた。児童約40人と学生が、壁の組み立てや飾り作りに熱中して取り組んだ。

講座は、学生が年間通して学内外で実施する「子どもミュージアム」の一環。赤星まゆみ教授のゼミを受けている3～4年生17人が開いた。

児童たちは学生から助言を受けながら、学生たちが事前に準備した大小400本の棒をガムテープで留め、壁になるパーツを組み立てた。

テントのような家が出来上がると、児童らは壁に好きなキャラクターや絵を描いた模造紙を貼ったり、紙の花を飾ったりと思い思いに装飾を楽しんだ。

完成後、動物が次々と大きな手袋に入っていくウクライナ民話「てぶくろ」の朗読に合わせて、動物にふんした児童たちが順番に家の中に入ると、「意外に入るね」と口々に感想を述べていた。

「もったいないという意識が働くけれど壊すところまでが今回の活動。いろいろなものを発散してほしい」と話す赤星教授。写真撮影を終え、学生が「壊していい」と合図すると同時に、男子児童を中心に壁に突進し、あっという間に家はばらばらになった。

参加した木下つばささん(9)は「新聞紙の棒を斜めにずれないように留めるのが難しかった。こんなに大きい家ができるとは思わなかった。自分の家ではできない遊びなので楽しかった」と話した。

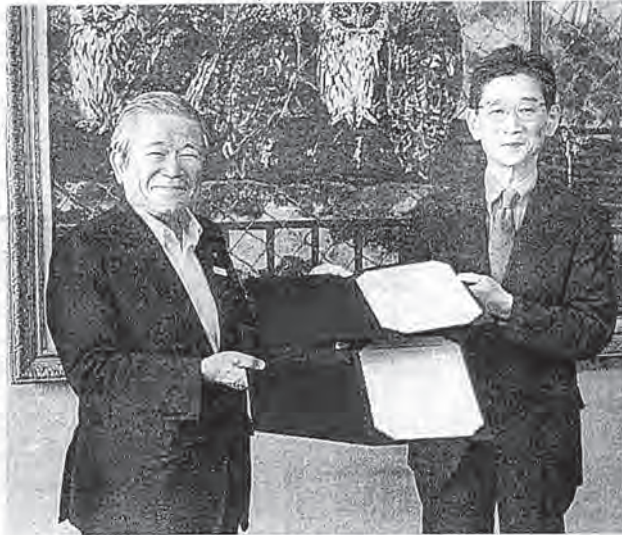




■ 鳥栖商工会議所と人材育成へ包括連携 (九州龍谷短期大学)

平成30年7月9日 佐賀新聞

## 九州龍谷短大と鳥栖商議所 人材育成へ包括連携



包括連携協定を締結した後藤学長（右）と中富会頭＝鳥栖商工会議所（提供写真）

九州龍谷短大（鳥栖市村田町）と鳥栖商工会議所はこのほど、包括連携協定を結んだ。

同会議所であった調印式には、後藤明信学長と中富舒行会頭が出席。後藤学長は「鳥栖市唯一の高等教育機関として役割を認識

し、地元出身の人材を育成しお返しすることで、地域活性化に貢献したい」とあいさつ。中富会頭は「協定を結んだこの機会に、地域産業と短大との接点を見つけて連携していきたい」と述べた。

協定は、地域振興への取り組みや地域で活躍する人材育成などについて、連携協力する内容。短大では本年度から人間コミュニケーション映像・放送コースの学生が市内企業のPR動画などの企画提案を授業で行っている。

（高井誠）

## ■ かんざき宿場まつりへの参画 (西九州大学)

平成30年7月31日 佐賀新聞

## 恒例総踊り夏楽しむ かんざき宿場まつり

2018/7/31



まつりで音頭に合わせて踊り歩く参加者＝神埼市の旧長崎街道周辺

長崎街道かんざき宿場まつりが28日、神埼市の旧長崎街道周辺で開かれた。かんざき宿場総踊りパレードのほか、かき氷などの販売もあり、市民は地元で夏を楽しんだ。

まつりは夏の恒例の行事。今年1月に長崎街道門前広場にできたステージでは、地元バンドによるミニライブなどがあったほか、フリーマーケットやお化け屋敷など多彩な内容で、子どもから大人まで多くの地元住民が集った。

神埼市の音頭「よかね神埼」に合わせて総踊りで進むパレードでは、住民や企業関係者が踊り歩いた。総踊りの音楽が近づいてくると、自宅の軒先に出て見物する人の姿もあった。

市内にキャンパスを置く西九州大学の学生も地域交流の一環として、浴衣姿で踊った。1年生の下平美樹さん(18)＝武雄市＝と立花亜弥さん(18)＝白石町＝は、「踊りは覚えやすく親しみが湧いた。神埼は地元じゃないけど、踊りを通して地域の方と交流ができて楽しかった」と笑顔で話した。

まつりは今回で24回目で、江戸時代に宿場町として栄えたにぎわいを取り戻そうと始めた。今回初めて、地元・神埼高校の生徒がボランティアで携わった。

## ■ アルタ・ホープと協定 (佐賀女子短期大学)

平成30年8月7日 佐賀新聞

### アルタ・ホープと 佐賀女子短大協定

学生に現場体験提供

佐賀女子短期大学とアルタ・ホープグループ(いずれも佐賀市)は1日、産学連携協定を結んだ。地域貢献や人材育成を目指し、アルタ・ホープグループがインターンシップで学生を受け入れるほか、学生に商品開発・販売の機会を提供する。

インターンシップは全学科対象で行い、販売の仕方や現場の楽しさを伝える。アルタ・ホープグループの店舗では、食とヘルスマネジメントコースの学生と

産学連携協定を結んだアルタ・ホープグループの佐久間博代表理事と佐賀女子短期大学の田口香津子学長、佐賀市の佐賀女子短期大学



「週末ハティシエ」を開く。学生らがスイーツの商品開発を手掛け、PTAなど地域活動での試食会を通して商品化を目指す。

同短大で開いた締結式では、田口香津子学長が「お店に入れば一社員として働く。地域の方と関わりながら社会人に必要とされる力を育んでほしい」と述べ、アルタ・ホープグループの佐久間博代表理事は「これまで地域貢献のための活動を続けてきた。連携によってさらに新しい一歩を踏み出せることを期待している」と話した。

(上田麻美)

■ 地元就職率の向上に力  
平成30年8月10日 佐賀新聞

# 人手不足で人材争奪拍車



今年3月に開かれた「さが就職ナビ企業研究セミナー」では、学生優位の売り手市場が続く中、学部や専攻にこだわらず柔軟な採用姿勢をアピールする企業もあり、優秀な人材確保に向けて採用担当者との説明に熱がこもった＝佐賀市のホテルマリタール劇世

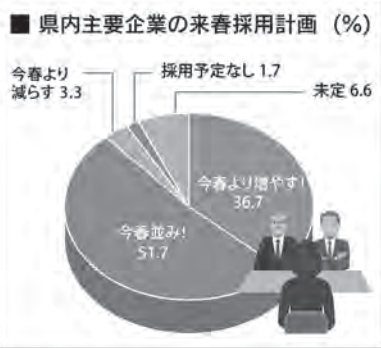
## 県内企業も採用意欲高く

少子高齢化に伴う働き手不足や回復基調の景気を背景に、大卒者の就職率は過去最高を更新、有効求人倍率(季節調整値)はパブル期の水準を超える。就活戦線は学生に有利な「売り手市場」が続き、人手不足を背景とした企業の人材争奪に拍車がかかっている。佐賀県内も、人手不足解消へ向け企業の採用意欲は高い。大卒者の就職率も過去最高となるが、より良い条件を求め都市部などへの人材流出もあり地元就職率は低調。魅力的な仕事さえあれば県内に残りたいという学生も多く、産学官が連携し地元企業との接点を増やすなど、地元定着に向けた対策に力を注いでいる。

厚生労働省が発表する、求職者1人当たりの求人数を示す有効求人倍率は、企業の採用意欲の高まりを受け改善が続き、5月は1.60倍の高水準となった。厚労省は雇用情勢の基調判断を「着実に改善が進み、求人が求職者を大幅に上回って推移している」とした。課題として「人手不足への対応をあげている」。

佐賀県内の5月の有効求人倍率(同)は1.30倍で、1963年の統計開始以来過去最高となった今年4月と同じになり高水準が続く。主要産業別の新規求人数を前年同月と比較すると、建設業が25.2%増となり、運輸業、郵便業14.3%増、医療福祉は11.1%増となった。佐賀労働局によると、事務職志望の求職者も多い反面、資格が必要な建設業などは依然として人手不足感が強まっている。

佐賀新聞社が4月に県内主要企業60社に実施した2019年春の採用計画調査では、今春業績より採用を「増やす」と答えた企業は36.7%、今春並みを合わせると9割



総務省が6月発表した労働力調査によると、2018年5月の就業者数は699万8千人に達し、比較可能な1993年以降で最も多くなった。前年同月比で15.1万人の増加で、これまでのピークだった1997年6月の667.9万人を21年ぶり更新した。

就業者数は、会社員ら雇われている人に加え、雇い主や自営の経営者なども含めた働く人の総数。少子高齢化に伴い、働き手の中心となる15〜64歳の生産年齢人口が減少している一方、景気の回復傾向を背景

### 働く人最多 人手不足で女性、高齢者増

とした人手不足で、高齢者の再雇用や女性の就業が増えていることが要因。

今年5月の就業者数は男性が前年同月比58万人増の344.6万人、女性が93万人増の299.5万人で、65歳以上は56万人増の87.5万人で、97年6月に比べ約70万人増えた。雇用形態別で見ると、正社員が前年同月比で2.2%増の335.1万人、非正規が3.8%増の207.9万人だった。非正規の中でもアルバイトの伸び率は10.3%で、男女別で女性は14.4%増えた。

近づくに迫った。採用を増やす理由(複数回答)としては、「人手不足解消」が12社(20.0%)と最も多かった。

就活を取り巻く環境は、学生優位の売り手市場が続く。来春卒業予定の大学生などを対象とした主要企業の採用面接は6月1日に解禁されて以降、企業の内定を出す時期も早まっている。6月15日時点で大手学生の就職内定率は76.0%、前年同時と比較して5.5ポイント高くなっている(リクルートキャリア調べ)。

今春の大卒就職率は98.0%で、過去最高を更新。売り手市場を背景に大学生の就職希望者も7.3%と過去最高を更新。厚労省は「企業の採用意欲が改善したことで、学

生の希望に合う機会が増えた。各大学の就職支援強化も背景にあるのではないかとされている。佐賀県内では、佐賀大学を今春卒業した学部生と大学院生の就職率(6月1日現在、最終値)は、98.6%で過去最高となった。課題は約25%にとどまる県内企業を含む地元就職率の向上としている。同大では目標を40%としており、就職支援課は地元企業との接点を増やす取り組みを進めている。

地元就職率の向上について、県内では産学官が連携し、学生と企業との接点をつくる機会を創出や、県内に社や支店などを置く企業が数多く登録する就活情報サイトなどで、地元就職の魅力をPR支援している。

### 有効求人倍率

ハローワークで仕事を探す1人につき、企業の求人がいくつあるかを表す数値。1倍を超えると求人数が求職者数を上回ったことになり、倍率が上がるほど職を得やすい環境とされる。高度成長期後半の1973年には、1.60倍を超える水準が続く。同年11月の1.93倍が過去最高。リーマン・ショック後の2009年8月に過去最低の0.42倍まで悪化した。その後改善傾向が続いている。

# 地元就職率の向上に力

都市部などへの人材流出を改善しようと、佐賀県内では、産学官が連携し、大学生などに地元企業への就職を促す取り組みに力を入れている。学生と企業との接点をつくる機会の創出や、県内に本社や支店などを置く企業が数多く登録する就職情報サイトなどを多様に、地元就職の魅力をPRし、支援している。大学生の地元就職率の向上に取り組む。佐賀大学など産学官で組織する「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」は、スタートした2015年度の県内の大学・短大の地元就職率32.3%を、19年度までに10ポイント引き上げる目標を掲げる。



「2017さが」と題する大交流会には、佐賀県内の企業や自治体、NPO等約150機関が出展し、地元就職の魅力をPR。紹介、県内の大学・短大生2000人が訪れた。昨年11月、佐賀市の盛衰会館で開催。

## 県内 人材流出改善へ産学官連携

同協議会は昨年、県内の大学・短大に通う全ての学生を対象に「2017さが」を創る大交流会を開いた。佐賀県内の企業や自治体、NPO等約150機関が取り組みや地元就職の魅力をPRし、県内の大学生・短大生1200人が訪れた。ITや流通、金融など幅広い分野の企業、県や市町、教育機関も出席。低学年の学生の参加も多く、卒業後に地域で働くことについての明確なビジョンを持つことができた。「社会人と話す機会が少なかった」と好評を得た。今年も10月に開催する。

佐賀で就職を探す求職者と人材を探す企業とのマッチングを支援するサイト「さが就活ナビ」(佐賀県産業人材確保プロジェクト運営)は、県内に本社や支店などを置く企業約600社が登録している。企業は個々のページをサイトに持ち、労働条件や募集職種などを公開。求職者は登録とともに個人ページを持つことができ、興味のある企業にエントリーできる。プロフィールを求人側に開示するとともに、採用スケジュールなどの情報を受けられる。



佐賀で就職を探す求職者と人材を探す企業とのマッチングを支援するサイト「さが就活ナビ」

## 今春の大卒就職率98% 過去最高、7年連続上昇

増え、8年連続上昇した。大学生の男女別では男子が97.5%、女子が98.6%だった。また、文系は98.2%で0.9ポイント増となった。一方、理系は1.5ポイント減の97.2%。統計開始後初めて文系が理系を上回った。理系が下がった理由として、厚労省担当者は「第1希望の企業で賃給取得などが条件となっ

# 佐大就職率最高 98.6%

学部生の就職率は0.4ポイント増の98.4%、大学院生は前年と同じ99.6%だった。学部別では就職支援を強化した農学部で3.6ポイント増の100%、文化教育学部が1.2ポイント増の98.7%、理工学部が0.2ポイント減の98.7%、経済学部が1.0ポイント減の96.0%で、医学部が10.0%と、全5学部で9%以上だった。

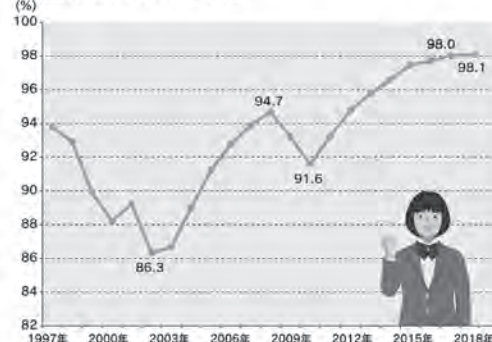
厚生労働省と文部科学省が5月に発表した。今春に大学を卒業し就職を希望した人の就職率は4月1日時点で98.0%となった。統計を始めた1997年春季以降、過去最高を更新した。前年同期比0.4ポイント増で、7年連続の上昇となった。また、就職を希望する高校生の就職率(3月末時点)は、98.1%(前年同期比0.1ポイント増)で、3年連続で更新した。

ている場合、もう1年かかってでも入ろうとする学生が増えたのではないかと分析している。佐賀大学を今春卒業、修了した学部生と大学院生の就職率(5月1日現在、最終値)は前年を0.3ポイント上回る98.6%で、国立大学法人に移行した2004年以降の最高値を3年連続で更新した。

■ 大学生の就職率 (各年4月1日時点)



■ 高校生の就職率 (各年3月末時点)



## ■ 鳥栖市役所で職場体験

平成30年8月20日 NHK NEWS WEB

## 市役所で大学生が職場体験

08月20日 14時38分



大学生が市役所の仕事を体験し、行政が抱える課題解決へのアイデアを提案する職場体験・インターンシップが鳥栖市役所で始まりました。

職場体験に参加しているのは地方公務員を目指している佐賀大学経済学部の3年生7人で、20日から5日間、2つのグループに分かれて総合政策課と農林課が抱える課題などについて

研究します。

学生たちはまず、それぞれの課の担当者から中山間地域の人口減少を防ぐための課題などについて説明を聞きました。

このうち農林課の担当者は市の西北部にある河内地区について「過疎と高齢化が進む一方で、豊かな自然を生かしたレクリエーション施設が整っていて訪れる人は多いので人口減を防ぐ方策に結びつけられないか」などと課題を示しました。

このあと学生たちは河内地区にある「鳥栖市民の森」や鳥栖市がことし整備した移住体験住宅を見学し、一帯には、キャンプ場や散策道路、温泉施設などがあることなどを説明していました。

学生たちは最終日の24日に市長に課題解決のアイデアを提案することになっています。

職場体験に参加している男子大学生は「地方公務員は、自分たちの頑張り次第で自分のまちを変えることができるという魅力があります。地域に貢献できたらと思います」と話していました。

■ 「夏休み!宿題やつつけ大作戦!!」開催(西九州大学)

平成30年8月22日 佐賀新聞

## <つながるさがし> 夏休みの宿題アドバイス

2018/8/22



地域の人や西九州大学の学生の協力で、苦手な課題などに取り組む子どもたち=佐賀市の金立公民館

佐賀市の金立公民館で7月26日から8月4日の期間、4回シリーズで主催講座「夏休み!宿題やつつけ大作戦!!」を開きました。延べ100人の児童がポスターや習字・硬筆などの夏休みの課題に取り組みました。

ポスター教室の今年のテーマは「環境を守る」。初めに作品のイメージを膨らませるために市環境政策課職員による講話を聞きました。続いて、金泉中美術部の先生からポスター制作のポイントを聞き、実際に描き始めました。美術部員の生徒たちから絵の具の上手な使い方や文字と絵のバランスなどアドバイスを受けながら、ポスターを仕上げました。

習字・硬筆教室では、5人の先生が基本となる筆や鉛筆の持ち方、美しく見える文字のコツについて指導。子どもたちは提出用の1枚を完成させました。

最終回は地域の人や西九州大学の学生がボランティアとして協力し、子どもたちが各自持ち寄った苦手な課題や取り組みたい課題のサポートをしました。(金立公民館)



■ 人口増加策を提言

平成30年9月2日 朝日新聞

人口増加策を佐賀大生提言

鳥栖市役所で職場体験



企業誘致について提案する佐賀大の学生＝鳥栖市役所

「割安なオフィスビル建  
設」「民間研究所誘致」  
。鳥栖市役所で職場体  
験した佐賀大の学生が、市  
が抱える課題や解決策につ  
いて橋本康志市長に提案す  
る会が、8月下旬、同市役  
所であった。5日間の体験  
の成果をよつづける佐賀大  
に、市長も真剣に対応した。  
経済学部の3年生3人がか  
なるチームに与えられた  
テーマは、「鳥栖市のさら

なる人口増加策」。3人  
は、現状を「倉庫と製造業  
のまち」と分析したうえ  
で、産業界の転換のため  
の具体策を考えた。  
市職員の助言も受けなが  
らまとめた提案は、JR  
鳥栖駅東側に市がオフィス  
ビルを建設し、割安な賃  
料で貸し出して大都市から  
ベンチャー企業を呼び込  
んだり、新鳥栖駅周辺に  
起業につながる技術を生

み出す民間研究所を誘致し  
たりする、といった内容  
だ。  
橋本市長は「皆さんの思  
いを受け止め、鳥栖で働き  
たいと思ってもらえるまじ  
づくりに努めたい」と話し  
た。一方で、「国際的な競  
争を勝ち抜くには新たな切  
り口も必要」ともっと大  
胆な提案を促す一幕もあつ  
た。  
(大野博)

■ 「ひらめき☆ときめきサイエンス」実施

平成30年9月25日 佐賀新聞

酵母菌の観察新鮮！ 佐賀大で科学体験催し



学研究奨励事業で、大学や研究機関が  
実施している最先端の研究成果を、中高  
生に直接見て、聞いて、触れることで、  
科学の面白さを感じてもらおうことを目的  
としている。

佐賀市

大学などで行われる最先端  
の研究成果に触れる科学体  
験イベント「ひらめき☆ときめきサイエ  
ンス」が24日、佐賀市の佐賀大であった。  
県内外から中学生14人が参加、教科書だ  
けでは学べない科学の奥深さを肌で感じ  
ていた。＝写真

この日は、同大農学部北垣浩志教授  
が「発酵食品の香りや味を分析してみよ  
う」をテーマに掲げ、米を使った発酵  
実験や酵母菌の観察などを実施。参加者  
は大学生や大学院生からアドバイスを受  
けながら、真剣な表情で取り組んだ。  
佐賀西高2年の嬉野佑斗さん(16)は  
「菌類は、教科書では分かりやすく染  
色されているけど、実際は透き通って  
いるんだと感じた。授業では絵でしか見た  
ことがなく、実際に見ると印象が変わっ  
た」と話した。  
(小部亮介)

■ 若楠ポークメニューを5つ考案 (佐賀女子短期大学)

平成30年9月28日 佐賀新聞

# 若楠ポーク主役の食を



若楠ポークのメニューを考案した佐賀女子短大の学生と「たけおもちばん」

## 武雄産ブランド豚

武雄産のブランド豚「若楠ポーク」を売り込もうとする動きが活発になっている。市からの依頼を受けて、佐賀女子短大の学生たちが若楠ポークを取り入れたメニューを考案。武雄市内の食品会社は、とんかつにかける「味噌カツソース」を開発した。



ハート形の若楠ポークのハムがのった「たけおもちばん」

## 学生メニュー5種 ■ 企業は味噌ソース

若楠ポークは、若木町の3戸の畜産農家が、品種を限定した三元豚を決めた飼料で育てた豚で、臭みがなくきめ細やかで柔らかいのが特徴。武雄市は昨年、包尾協定を結んでいる佐賀大学短大にメニュー考案を依頼していた。

取り組んだのは同短大地域みらい学科「食とマネジメントコース」の6人。パンやバンドケーキ、バラ肉でまいた豆餡など5つのメニューを考案した。

21日には「たけおもちばん」と名付けたパンを小松政市長に届けた。若楠ポークのハムをラスパラス、チーズ、ごまを混ぜて焼き上げたパンで、考案した天竺堂さんは「ポークが主役になるよう、他の食材とのバランスを考案するのに苦労した」と紹介した。

小松市長は「ポークがある、名古屋名物の味噌カツのようなソースがでないかと相談を受けた」と大賛成を押し、「武雄産のアスパラや米粉を、使うなど、全て武雄産の産物にできないか」と要望した。

考案したメニューのレシピは10月から市報で1冊ずつ紹介し、A6判サイズのカードにして、若楠ポークを販売している店などに置く計画。さかどを調整しながら試作を重ねた。小松市長らの試食会でも好評で、「粘りや甘さの違う教壇でできないか」と要望を受けたという。

一方、橋町の「角味噌」は若楠ポークのどろみと合わせる「味噌カツソース」を開発した。角味噌は「1月には販売を始める」と、5月には販売を始めるように「たけおもちばん」と、ソースと若楠ポークの広がり期待する。(小野晴久)

角きんと商品化する味噌カツソース



■ ご当地化粧品の開発を支援

平成30年10月13日 佐賀新聞

# ご当地化粧品 開発支援

## コスメ構想 唐津市などに集積

2013年に始動した、化粧品の製造や国際取引拠点を唐津市などに集積する「コスメティック構想」。産字宮でジャパン・コスメティックセンター（JCC）を立ち上げ、地



地場産原料を使った化粧品。海外などへの販路拡大を目指す

域色豊かな市場性の高い化粧品など約20件の商品化を後押ししてきた。

JCCは、会長に仏コスメティックバレーを世界最大の化粧品産業集積地に育てたアルバン・ミュラー氏が就任。正会員として全国の化粧品

関連メーカーなど約200社、支援会員として大学を含めた25団体が名を連ね、県や唐津市、玄海町が顧問を務める。

県内の生産者団体や農家を会員企業と結びつけ、唐津の茶や酒かす、基山産エミューオイルを使った「ご当地コスメ」、白石レンコンを使っ



美と健康をテーマにしたイベント「SAGAN BEAUTY WEEKEND」の第1弾を唐津市で開催。コスメなど38店舗が出店し、「コスメ構想の取り組みを国民にアピールした」唐津市本町の旧唐津銀行周辺。5月5日

た。

また、佐賀大が生産者と生み出した「グレイプフルーツさがんルビー」のスキンケア用品も登場。さがんルビーを配合したリップクリームを唐津東高の生徒が開発・商品化した。ミカンやハーブ栽培で耕作放棄地を再生したりするなど地域との連携も広がってきた。

一方、フランスやスペイン、イタリア、台湾、タイの化粧品団体と国際取引のための連携協定を締結。これまで海外輸出に向けた展示会・商談会を約20件実施し、県内商社がフランスの大手メーカーと独占販売契約を結ぶなどの成果も出てきた。

県は情報発信にも力を入れ、美と健康をテーマとしたイベント「SAGAN BEAUTY WEEKEND2018」を今月26日、佐賀市のザ・セニスで開く。5月の唐津市に続く2回目の開催で、コスメ構想で生まれた新商品を紹介。他にはメイクやヘアアレンジ、ネイル体験、プロによる写真撮影、トータルビューティーディレクターの金ケ江悦子さんのトークイベントも。県コスメティック構想推進室は「根付くのはこれから。情報発信と産業界連携をさらに進めたい」と語った。

## ■ 小嶋やとパプリカドレッシングを共同開発（西九州大学）

平成30年10月23日 佐賀新聞

# パプリカドレッシング開発 小嶋や×西九州大

### 素材の味生かし、栄養考慮

2018/10/23



拡大する

小嶋やが発売した「パプリカドレッシング」

伊万里市の「小嶋や」と神埼市の西九州大健康栄養学部が「パプリカドレッシング」を共同開発し、販売を始めた。伊万里産のパプリカをふんだんに使い、素材の良さを最大限生かした商品。産学の連携で生み出された一品の知名度向上をを目指す。

小嶋やは、昨年10月に開業し「地元農産物を全国に」という思いを込めてドレッシングの製造を検討。佐賀共栄銀行に相談し、クラウドファンディングを活用した新商品のテストマーケティングや販路拡大の支援を実施した。商品棚に並ぶことのない“廃棄ロス”の商品を有効活用して開発する方向が決まった。

素材そのものの味を生かすため、西九州大が味や成分を分析。管理栄養士の資格を持つ児島百合子元助教が配合などを組み替えた四つのレシピを作成。その中からよりよいものを選んだ。西九州大の安田みどり教授は「パプリカはカロテノイドが多く、機能性が高いドレッシング」と太鼓判を押す。

ドレッシングは瓶詰め1本200ミリリットルで1100円（税別）。塩は使用せず、1本当たり1個半～2個のパプリカを使い、梨や蜂蜜を加えて甘さを引き立てている。9月から店頭でテスト販売を始めており、小嶋やの小島安博代表取締役は「最終的には全国に出していきたい」と意気込む。問い合わせは同店、電話0955（22）6711。

## ■ UD目線で幕末維新記念館をチェック（西九州大学）

平成30年10月25日 佐賀新聞

# UD目線で維新記念館チェック 西九州大生、障害者

車いすでも楽しめた！ 県HPで紹介へ

2018/10/25



拡大する

各部屋をつなぐ坂のある通路を移動する参加者  
= 佐賀市の幕末維新記念館

西九州大学の学生と車いす利用者が23日、開催中の維新博メインパビリオン・幕末維新記念館（佐賀市）をユニバーサルデザイン（UD）の視点でチェックした。体感シアターなどを楽しみながら、使いやすさを見て回った。

今年3月に県庁県民協働課が開設した、県内の店舗、施設をUD視線で紹介するホームページ「さがすたいる」のレポートとして、西九州大社会福祉学科の岡部由紀夫講師のゼミと県が共同で行った。

障害者団体「〇〇な障がいの会」から2人と、西九州大の学生3人が参加。車いすの2人を学生が介助し、映像、音声の迫りに驚きながら会場を回った。

同会の中尾彰宏さん（41）は「車いすでも不自由なく楽しめた。内容も行政っぽくなくて面白かった」と、幕末佐賀の歴史を満喫した様子。西九州大3年の平野瑞枝さん（21）は「通路に坂があって少し補助があったほうがいいかなと思ったが、苦にはならない程度。足元を照らしてくれたり、スタッフの気遣いも良かった」と評価していた。

記念館の後は佐賀城本丸歴史館（佐賀市）も訪問した。この日のレポートは後日、「さがすたいる」に掲載する。

## ■ 「さがを創る大交流会」を開催

平成30年10月26日 佐賀新聞

**佐賀市** 佐賀県内の企業 道協議会」が主催する。入場料、30社・団体が、それぞれの情報提供（PPT）や流通金取り組みを大学生、短大生に紹介する「さがを創る大交流会」が26日午後1時から、佐賀市立中央公民館（現）で開かれた。佐賀県内の大学、短大に在籍する約100人の学生、教員ら約100人が参加した。交流会は、県内の企業と学生が交流する場として、今年から開催される。交流会は、県内の企業と学生が交流する場として、今年から開催される。

### 県内別社学生と大交流

**地元就職率向上へ** 佐賀県内の企業と学生が交流する場として、今年から開催される。交流会は、県内の企業と学生が交流する場として、今年から開催される。

## ■ 大学生が企業を取材し紹介（西九州大学）

平成30年11月7日 佐賀新聞

### 大学生が企業取材し紹介 西九州大生ら9人取り組み

「仕事人」の熱意伝える

2018/11/7



企業を取材し、働く人たちの思いを紹介する大学生＝佐賀市の西九州大健康支援センター

大学生が佐賀県内の企業を取材し、働く人たちの思い、人間像を紹介するプレゼンテーションが4日、佐賀市の西九州大健康支援センターで行われた。学生たちは、企業活動や商品の紹介にとどまらず、企画、開発にかける「仕事人」の熱意、やりがいなど生の声を伝えた。

学生が社会人の話を実際に聞くことで視野を広げ、今後の就職活動につなげようと、西九州大とジョブカフェSAGAが開催。留学生も含め、西九州大と佐賀大の9人が取り組んだ。

西九州大1年の森唯華さんは家具製造の東馬（神崎市）を取材。かつて嫁入り道具だった家具は時代とともに役割を変え、海外で大量生産された商品が店頭に並んでいる点など業界を取り巻く状況を指摘した。

その上で「家具産業以外のトレンド、地域の暮らし方など幅広い情報を集約することで時代の変化に対応するだけでなく、新しいスタイルの提案が可能になる」と担当者の声を紹介し「新商品の企画、デザイン、製造、プロモーションまでを一貫して行う（同社の）強みがここで生きる」と述べた。

助言者の大隈知彦・佐賀新聞社編集局長は「取材では当事者しか語れない言葉を引き出すことが大切で、その重みに気付く感性を磨いてほしい」と話した。

識者の見方 佐賀大学全学教育機構教授 五十嵐勉氏

平成30年11月10日 佐賀新聞

識者の見方

1期目の山口流 知事選2017日

一産学官でつくる協賛会。佐賀県内への就職率向上に取り組み、学生と地元企業とのマッチングを支援している五十嵐教授。「地元就職促進」という目的は同じでも、UIJターンに力を入れる山口祥義知事とは手法の違いがあるという。

県内企業と学生の交流会を10月末に開いた。学生が県外に流出しないように歯止めを掛ける狙いだ。が、県外から来る人を増やすことに力点を置いているような印象がある。

「どちらも必要な取り組みだが、県外のイベントで佐賀の魅力が伝わったとしても、具体的な就職先が見えなければUIJターンにはつながらないはずだ。学生の大都市指向の強さとともに、地元を知

五十嵐 勉氏

佐賀大学全学教育機構教授



いからし・つとむ 1957年福岡県生まれ。立命館大学大学院修了。88年に佐賀大に赴任し、2013年から現職。専門は農村開発論など。61歳。

泥臭い首長 少なくなってきた

「交付金に依存しない地域づくり」と言い換えることもできる。人口減少社会で求められるのは「自発の地域づくり」を掲げ、主体的な地域づくりを求めている。「交付金に依存しない地域づくり」の危機意識は強い。

人口減少社会で求められるのは人の力や、人と人との結び付きの力。その意味では、県外のNPO誘致などCSO（市民社会組織）

活動を推進する取り組みは評価できる。若い人材の知恵が佐賀で生かされ、ネットワークが生まれている。外部の力を借りるような中間的支援をCSOなどが担う仕組みができてきた。

県は自発の地域づくりに手を華げることを支援しているが、自発しよとすることもできない多くの地域を支え支えるのが問題だ。支援は平等に行うのが行政の本来の立場。それでも、ある程度メリハリを付けざるを得ない状況になってきており、その覚悟も問われる。

五十嵐教授は唐津市相知町の「藤野の棚田」の保全活動など、現場に軸足を置いた地域づくりに長年携わってきた。

藤野は地域活性化のロールモデル的な存在だが、地域を引っ張ってきた世代が70代になり、後継

者が育っていない。山村地域は同様に厳しさが増し、地域を支えることに対する諦めムードがはびこっている。それでも、望みは捨てていない。「何とかしなければ」と頑張る人は多く、若い世代も育ってきている。挑戦する人をみんな応援する仕組みをつくらなければならない。

問題は市町村合併後、地域の現場に向く行政職員が減ったことだ。同じことは首長にも言える。山口知事をはじめ、スマートな首長が増えた一方、泥臭さを感じさせる人が少なくなった。地域に足を運んで語り合い、理解しようとする関係性が、今の時代だからこそ求められている。

（構成・江島寛之） // おわり //

11日付から「1期目の山口流・政策点検」を連載します。「識者の見方」は佐賀新聞社のウェブサイトの知事選特集（有料会員向けサービス）に掲載しています。

■ 「さがを創る大交流会」の開催

平成30年11月15日 佐賀新聞

県内就職率向上へ直接対話

企業、行政、学生が交流会

佐賀県内の企業や行政機関と大学・短大生の交流会がこのほど、佐賀市の佐賀大本庄キャンパスで開かれた。学生により広い視野で県内企業の魅力を知ってもらい、県内就職率の向上につなげようと、2年前から実施している。気軽な雰囲気ですぐに話せることで、学生・企業の双方から好感の声が聞かれたものの、売り手市場の中、地元就職をどう伸ばすかは難題。大学・企業ともまだ模索の段階だ。



気軽な雰囲気ですぐに話せる交流会。佐賀市の佐賀大本庄キャンパス

気軽な雰囲気に好感触 売り手市場 実績に課題も

交流会には企業のほか県や自治体など計132のブースが並び、佐賀大を含む県内の大学・短大から学生1250人が参加した。人材不足に悩む県内企業は、あの手この手で事業内容をアピール。サンポー食品（三養基郡基山町）はヒット商品のカップ麺をブースに陳列した。またIT関連会社のプライム（佐賀市）は、VR（仮想現実）を使ったクイズなどで、自社の技術を親しみやすく伝えた。交流会に初めて参加したプライムの一番ヶ瀬博史総務部長は「一般的な会社説明会では、学生は有名企業を回るだけで帰ってしまうが、今回は予想以上に来てくれたと手応えを語った。堅苦しくない場は学生にも好評で、佐賀大経済学部3年の光野静夏さん（21）は「社員の人と直接話して会社の雰囲気を知ることができるのがいい」と話した。座学で大学生の地元就職率向上に取り組む「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」が文科省の補助を受けて主催。県内の大卒・短大卒者の地元就職率に

ついて、2014年度の34・7%を31年度までに10%引き上げる数値目標も掲げている。ただ、昨年度時点で35・5%と、達成への道のりは険しい。

佐賀大でキャリアセンタ―を担当している五十嵐勉教授は「交流会は、あくまでも学生と企業の出合いの場。さらに地元企業対象の説明会やインターシップなどを強化していく」と話す。一方で「佐賀では大卒者の雇用の場が少なく、大卒側にはできることが限られるのも事実。売り手市場でもあり、中央の企業にとりこんで採用される」ともどかしさもこぼす。学生の就職活動を巡ってはさらに、日本経済団体連合会（経団連）が9月、採用日程などを含むルールの廃止を打ち出した。政府は当面、現行の日程を維持するが、形骸化が進む恐れもある。交流会に出展したある企業の採用担当者は「ルール廃止について「中小は困る。どうしても大手の方が先に人材を確保できるのだから…」と漏らしていた。」

（志垣直哉）



■ 「ムラサキ」の栽培にICTを活用

平成30年11月27日 日本経済新聞

# ムラサキ栽培 ICT活用

## 絶滅危惧の日本固有種

### 佐賀大など、温湿度蓄積 化粧品や医薬の原料に

ムラサキの栽培風景。筒に1株ずつ  
植え、カメラやセンサーなどを取り  
付けた (佐賀大唐津キャンパス)



佐賀大は同大発のICT (情報技術) 企業、オプティムや佐賀県唐津市などと連携し、栽培が難しく、絶滅危惧種に指定されている日本古来の植物「ムラサキ」の収穫に成功した。栽培にはセンサーなどのICT技術を活用し、圃農家の経験や勘に頼らない栽培技術の確立を進めている。安定供給に向けて改良し、化粧品や染料、葉の原料のほか、化粧品や織物として地域で商品化し、6次産業化につなげる。

ムラサキの「紫根(シ)料」としても注目されている「コン」と呼ばれる根もある。部分が高貴な紫色染料として重用されてきた。最末期までは各地で栽培が近では抗炎症剤として口入れされてきたが、明治時代に内炎や舌炎の治療などに入ると合成染料に取って代わられた。環境の変化

もあり、自生するムラサキが減少。種の発芽率が低いうえにウイルスにも弱く、栽培技術は途絶えていった。今では栽培が容易な中国の同属異種のセイヨウムラサキが流通し、日本のムラサキは絶滅危惧種に指定される希少種となっている。

そこで、佐賀大農学部は昨年度から、唐津市周辺を中心に企業や農家などと連携し、最新技術を用いた栽培技術の確立を進めてきた。ビニールハウス内の栽培を行う筒などに温度や照度、土壌水分量を計測するセンサーを数カ所に設置し、その状況を画像モニターで10分間隔で撮影する。

センサのデータの变化と、植物体の画像データの变化をリンクさせ、どのような温度、湿度などの条件の時に、植物体などのような変化が起き

るのかといった様々な条件をデータ化した。今年度は約1500本を試験栽培した。佐賀大唐津キャンパスの他、生育

▼ムラサキ ムラサキ科の多年草で、初夏から夏にかけて白い花を咲かせる。根は太く「シコン(紫根)」と呼ばれ、主要成分はナフトキノン誘導体のシニコニン、アセチルシニコニン、イソプアチルシニコニンなど。抗炎症や創傷の治癒促進などの作用がある。

古くから紫色の染料として用いられてきた。万葉集のほか枕草子や源氏物語などにも日本の伝統文化を象徴する植物として登場。紫の字が付く地名はムラサキの自生と関係しているとする説もある。

根の部分は紫色の染料として重用されてきた

条件の違う10カ所ほどで実施。今後のために、あえて難しい条件設定でも試験栽培した。そのうちの700〜800本程度が収穫可能という。

栽培には唐津市のケルイスファームや富田農園などの農家、佐賀県上場営農センターが協力。また、次世代の研究者育成や固定観念に縛られない発想を期待して唐津東高にも参加してもらった。唐津市は化粧品産業の集積を目指す「唐津コスメティック構想」を掲げ地域活性化につながる美容品の発掘・開発を進めている。2019年度は化粧品材料として品質の向上と安定生産化に取り組み、コストダウンが可能になれば、染料や医薬品原料としても活用してもらおう計画だ。

同大農学部の渡辺啓一教授は「フランスに出品した際も『日本のロイヤルカラーだ』と反応が良かった。今後は6次産業化につなげて地域の発展に貢献していきたい」と話している。(中越博栄)



根の部分は紫色の染料として重用されてきた

## ■ 佐賀の七賢人をイメージした「オランダワッフル」の開発（西九州大学）

平成30年12月8日 佐賀新聞

# 佐賀の七賢人イメージ「オランダワッフル」開発、 8日販売

西九州大と大串製菓店協力

2018/12/8



拡大する

商品を手に笑顔を見せる（左から）成富由果さん、西川梨華子さん、廣重郁佳さん＝神埼市の西九州大



拡大する

佐賀の七賢人をイメージして作られた「ななっふる」

神埼市の西九州大健康栄養学部と大串製菓店が共同開発したオランダワッフル「ななっふる」が完成した。明治維新150年に合わせ、佐賀の七賢人をモチーフにした味付けを考案。開発に携わった学生3人は「心配な気持ちもあったけど、味も色もきれいに出ていた。イメージしていたよりいい物になってうれしい」と喜ぶ。

開発に携わったのは3年の成富由果さん（21）、廣重郁佳さん（21）、西川梨華子さん（21）。大学の授業「あすなろう体験3」の一環で「オランダワッフルプロジェクト」に取り組んだ。

肥前さが幕末維新博覧会をテーマに、「盛り上げるために何かできないか」と意見を出し合い、佐賀と親交が深かったオランダの有名菓子「ストローワッフル」に着目。オランダワッフルと七賢人とのコラボ商品の販売を考えた。そこで、オランダワッフルの商品化を目指して大串製菓店に協力を依頼し、味やネーミングなどを話し合った。



# 参 考 資 料

## 平成29年度 外部評価結果報告書

### ● 項目ごとの評価・評定

#### ① COC+大学（佐賀大学）による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

→評定結果：IV 順調に進んでいる

（コメント）

- ・中間評価結果を受けて、就職率の数字を評価するのではなく、プロセスを評価する方法が必要であろう。
- ・また、今後は成果に対するエビデンスを強化する必要がある（COC+の採択による授業数の推移、受講学生の推移、企業との交流時間、県内就職希望者数の推移など）。この点については、きちんと成果を見える形で評価していくという点からKPIを学部ごとに設定すべきである。
- ・なお、COC+事業終了後のプランの設定も必要となろう。例えば、地域との関係づくりを踏まえ、各プロジェクトの継続性について検討していく必要がある。
- ・運営体制については、きちんと整備されているものの、佐賀大学単独で運営しすぎている点が示唆される。事業の継続性を検討する上でも自治体との連携を強固としながら運営体制を整備していくことが望ましい。この自治体との連携については、例えば、インターンシップにおいてももっと自治体との連携を強化することが必要であろうし、運営においては自治体のしかるべき部署との具体的な連携について協議する必要がある。また、九州・知事会はCOC+と同じようなことを行っているため、知事への打診が難しければ九州知事会とコラボするのも一案である。
- ・また、運営体制を検討する上では、事業の継続性を担保するために、自治体のみならず民間との連携による金銭的なフォローアップ体制も確立した方がよい。

#### ② COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学）による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

→評定結果：III おおむね順調に進んでいる

（コメント）

- ・報告書からは参加校の主体性があまり見えない。そもそも参加校のKPIの設定が低いように思われるので、参加校のKPIの設定や成果の見える化について検討する必要があるだろう。

#### ③ COC+大学（佐賀大学）・COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学）の連携による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

→評定結果：V 特筆すべき進捗状況にある

（コメント）

- ・参加校とのプロジェクトの連携についてはもう少し見直す必要がある。例えば、参加校との連携を機能化させるために、それぞれの大学が単位の取得ができるような仕組みを設けて、①サテライトキャンパスでの全参加校による連携講義の実施や参加校の立地条件（各大学が離れている）を踏まえ、学生が各大学を移動するのではなく、②各大学の教員がそれぞれの大学を移動して連携講座を実施するなどといった展開が考えられる。
- ・文科省による中間評価において、大きな評価が与えられている全学共通プログラムである“Wil”のプログラム形成は特筆すべきであり、大きな評価が与えられる。
- ・また、事業の継続性を考えると、授業の互換や単位互換、プロジェクトの連携やコンソーシアムの活用などうまく展開しながら、学部を超えた交流を形づくっていくことも求められる（例：理工学部が保育について学べる、農学部が理工学部の授業で学べるなど）。

④ 事業協働機関「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」の運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

→評価結果：IV 順調に進んでいる

(コメント)

- ・「2017さがを創る大交流会」の実施など、協議会については佐賀大学が主導しながら活動している。
- ・なお、協議会の運営においては参加校だけでなく、もっとステークホルダーの形成に取り込んでいく必要がある。また、協議会の持続性を担保するためにも、参加いただく企業は受益者でもあるので金銭的な支援を求めてもよいのではないだろうか。
- ・学生の地元定着率を高めるためにも、地元企業でのアルバイト（実務に近い作業）をインターンシップで展開することやより地域との密着したインターンシップを展開するという点で、インターンシップの差別化（地元密着型）を展開することが求められる。

⑤ 事業の内容についての社会への発信・情報公開について

→評価結果：IV 順調に進んでいる

⑥ COC+大学（佐賀大学）における補助金の執行状況について

→評価結果：III 適正に執行されている

(コメント)

- ・事業終了後の計画について検討する必要がある。

⑦ COC+参加校における補助金の執行状況について

→評価結果：III 適正に執行されている

総合評価

→評価結果：IV 順調に進んでいる

(コメント：総評・統括)

- ・全学共通プログラムである“Wil”のプログラムについては、中間評価でも評価が高かったことや「2017さがを創る大交流会」の実施状況を踏まえると、本事業については順調に事業が展開されていると評価できる。
- ・ただ、今後の事業の継続性を鑑みると、より参加校や自治体、民間との連携を強化しながら、自立的な事業継続ができるような仕組みづくりを検討していく必要がある。加えて、事業の継続性を担保できる仕組みづくりを行ううえでも、現段階の事業を客観的に評価できるように、KPIの設定や評価の視点の見直しも再検討することが望ましい。

## 平成30年度 自己点検評価結果

### ① COC+大学（佐賀大学）による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

「A：佐賀大学及び事業協働機関の実施概要と取り組み状況及び成果」で述べているように、佐賀大学地域創生推進センターによる事業の統括、各学部・キャリアセンター等で全学的に取り組んだ。特に、「2018さがを創る大交流会」は平成29年度同様、オール佐賀で取り組むとともに、大学ブースを設置し、企業・団体とのニーズとシーズのマッチングを行うなど新たな取り組みを開始した。「2. 平成30年度における各事業の概要と実施状況・成果」に記載した通り、今年度の事業協働地域就職率は、平成29年度の同時期に比べて4.7%増加している。また、事業協働機関へのインターンシップ参加者数は、平成29年度の同時期に比べて56人増加し99人となった。これは平成31年度（最終年度）の目標値86人を13名上回り達成している。さらに、2月下旬に行われるインターンシップには14名が参加する予定となっており、今年度のインターンシップ参加者数は、当初の今年度の目標である83人を30人上回る予定である。しかしながら、全国的な就職状況の向上もあり、地元就職率では成果指標の達成に課題があるが、全体としては、自己評価は「IV：順調に進んでいる」とする。

### ② COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期大学部）による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

「2) COC+参加校による取り組み状況及び成果」で述べているように、西九州大学においては、情報交換会の実施による新規インターンシップ先の開拓（4事業所）、新たに佐賀女子短期大学と連携したインターンシップを実施した。九州龍谷短期大学においては、就職支援として行った学生相談延べ30件のうち8件が就職に結びついた。また、今年度の事業協働地域就職率は、平成29年度の同時期に比べて17.0%増加している。これは平成31年度（最終年度）の目標値44%を11.2%上回り達成している。佐賀女子短期大学は、学生が県内企業を知る機会を増加させる取り組みを積極的に行った。事業協働機関へのインターンシップ参加者数は、平成29年度の同時期に比べて24人増加し42人となった。これは平成31年度（最終年度）の目標値28人を14名上回り達成している。今年度から参加校となった西九州大学短期大学部においては、就職やインターンシップ関連業務を行う人員を配置し、地元就職をサポートする体制を整備した。また、就職支援研修会や企業見学会を実施した。

各大学が積極的に地元就職率向上に向けた取り組みとして、キャリア教育や地域志向教育、産学連携の推進を実施しており、インターンシップの参加者数も増加している。しかしながら、全国的な就職状況の向上もあり、地元就職率では成果指標の達成に課題がある参加校もあるが、全体としては、自己評価は「IV：順調に進んでいる」とする。

### ③ COC+大学（佐賀大学）・COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期大学部）の連携による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

「A：佐賀大学及び事業協働機関の実施概要と取り組み状況及び成果」で述べているように、さがが地方創生人材育成・活用協議会に設置した教育プログラム開発委員会及び、幹事会に設置したインターンシップ推進専門委員会の活動等により、大学間連携がさらに進んだ。特に、平成29年度に実施した「2017さがを創る大交流会」においてインターンシップ受入れを希望した機関に対して、大学が連携してアプローチし10機関が新たにインターンシップを実施した。

また、西九州大学短期大学部が参加校に加わり、オール佐賀の取り組みがさらに強化された。さらに、西九州大学と佐賀女子短期大学が連携したインターンシップの取り組みや、佐賀大学の「佐賀版キャリアデザイン」の授業に西九州大学や佐賀女子短期大学から出講を得るなど、新たな連携に取り組んだことから、自己評価は「IV：順調に進んでいる」とする。

**④ 事業協働機関「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」の運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について**

事業協働機関による本事業の進捗状況及び成果で述べているように、総会・幹事会・シンポジウム・共同FD研修会などを実施し、特別講義の講義担当など、事業協働体としての取り組みが強化された。特に「2018さがを創る大交流会」の開催によるオール佐賀での取り組みの強化により、本事業を強力で推進することができた。また、幹事会に設置したインターンシップ推進専門委員会の活動を通して、インターンシップ共通様式の作成・活用、インターンシップ導入マニュアルの作成、インターンシップ参加学生（全体で102名増加 ※平成29年度12月と今年度同時期を比較）、さがを創る大交流会出展機関へのインターンシップ受け入れ依頼による受け入れ先の増加（10機関）があったことから、自己評価は「IV：順調に進んでいる」とする。

**⑤ 事業の内容についての社会への発信・情報公開について**

「A：佐賀大学及び事業協働機関の実施概要と取り組み状況及び成果」で述べているように、シンポジウム及びFD・SD研修会の開催、ニュースレターの発行、ホームページ及びFacebookでの情報公開、新聞やテレビ、ラジオ等での報道を通して、積極的な情報公開と発信を行ったことから、自己評価は「IV：順調に進んでいる」とする。

**⑥ COC+大学（佐賀大学）における補助金の執行状況について**

ほぼ計画通りに適正に執行されていることから、自己評価は「III：適正に執行されている」とした。

**⑦ COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期大学部）における補助金の執行状況について**

ほぼ計画通りに適正に執行されていることから、自己評価は「III：適正に執行されている」とした。

**総合評価**

①～⑦までの自己点検評価結果、本事業の総合評価は「IV：順調に進んでいる」とした。



## 2018さがを創る大交流会アンケート結果

平成30年10月28日(日)に開催した「2018さがを創る大交流会」で実施した学生及び出展者へのアンケート結果をまとめましたので一部抜粋してご紹介します。交流会の実施概要については、本冊子の14～17ページに記載しています。

### 学生アンケート

#### 1. 回答者について

学生参加者総数	アンケート回収数	回収率
1,133 名	1,097 名	96.8%

#### 【内訳】

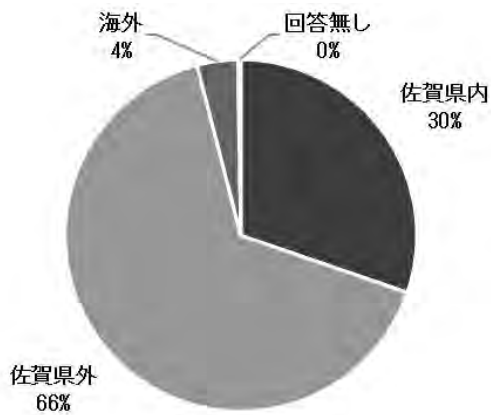
所 属	学部・学科等	学 年						小計	合計
		1	2	3	4	無	他		
佐賀大学	文化教育学部			4				4	1,040
	教育学部	6	35	18	2			61	
	芸術地域デザイン学部	2	37	27	1			67	
	経済学部	60	105	107	8			280	
	医学部		2					2	
	理工学部	42	173	202	11			428	
	農学部	49	61	68	1			179	
	地域デザイン研究科		1					1	
	工学系研究科	12	3				1	16	
	その他						2	2	
西九州大学	健康栄養学科	2						2	7
	その他	5						5	
九州龍谷短期大学	人間コミュニティ学科	1						1	4
	保育学科	1						1	
	保育学科3年コース		2					2	
佐賀女子短期大学	地域みらい学科	36						36	36
西九州大学短期大学部	地域生活支援学科	2	2					4	4
その他	学生(COC+ 参加校以外)					6		6	6
小 計		218	421	426	23	6	3	1,097	1,097

#### 2. 訪問ブース数

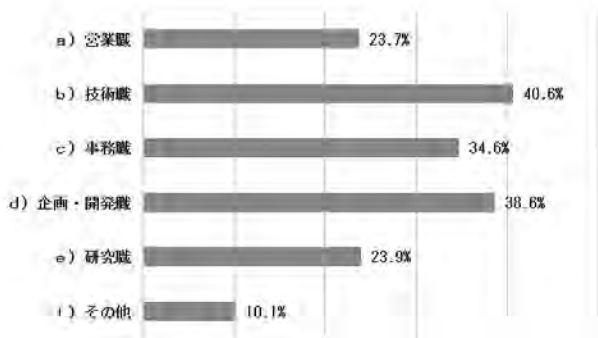
訪問ブース総数	回答数	平均
9,372	1,097	8.5 ブース

### 3. アンケート結果

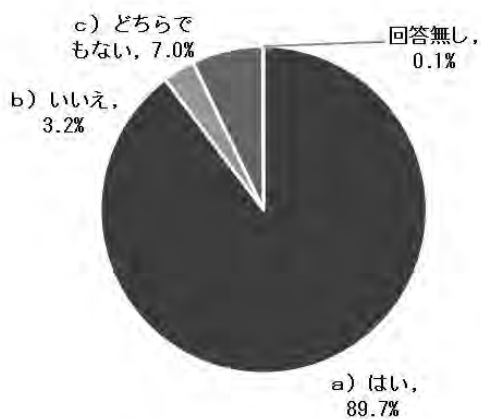
Q あなたの出身地を教えてください



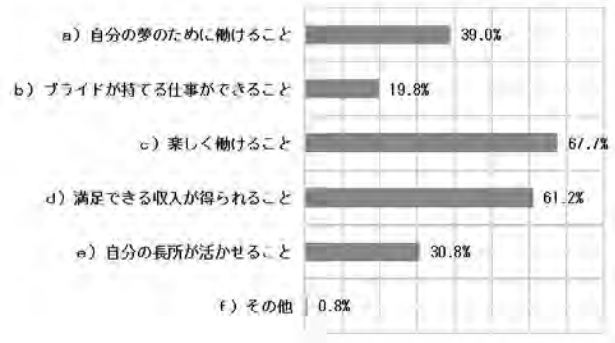
Q 希望する就職先の職種は？（複数回答可）



Q 大交流会に参加して以前より県内企業、自治体、団体などの活動を知ることができましたか？



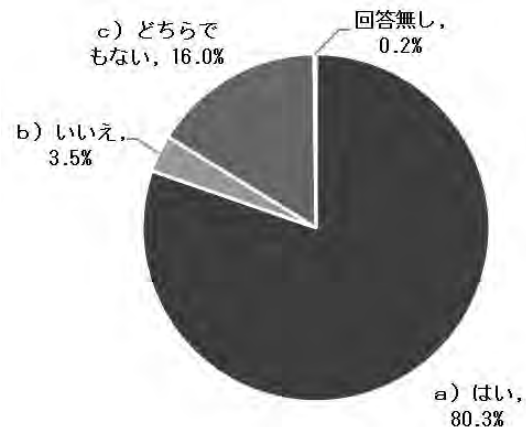
Q あなたは仕事にどんなことを求めますか？



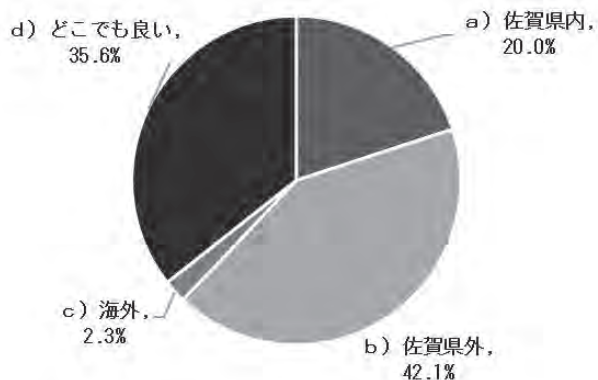
Q 希望する就職先の業種は？（複数回答可）



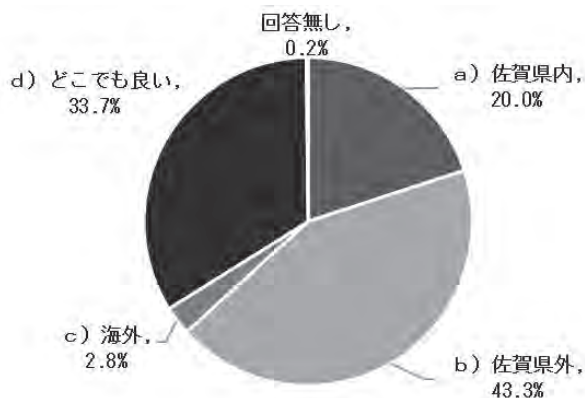
Q 大交流会に参加して以前より佐賀に魅力を感じましたか？



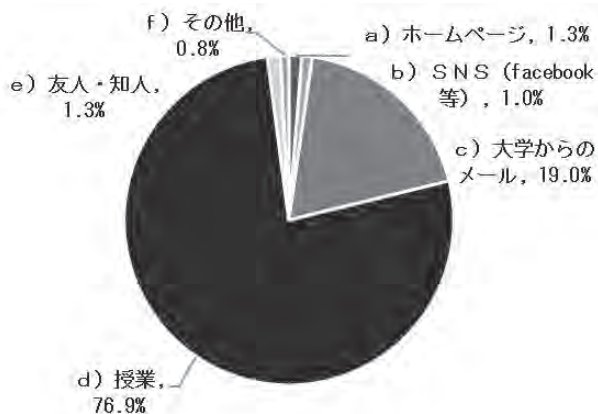
Q 卒業後はどこに就職したいと思いますか？



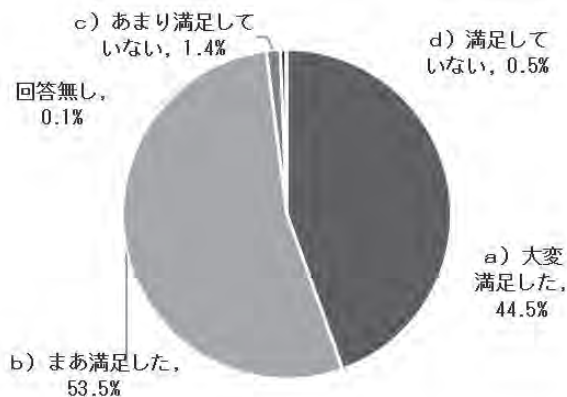
Q 卒業後はどこに住みたいと思いますか？



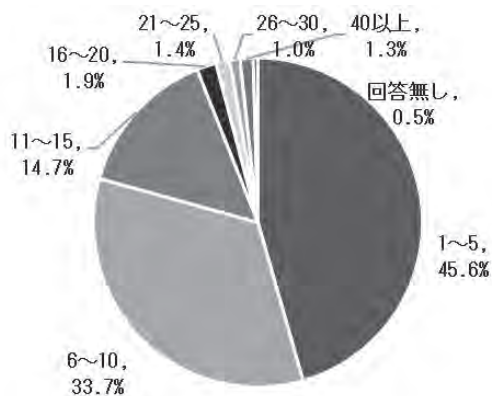
Q 交流会が開催されることをどこで知りましたか？



Q 大交流会は満足できる内容でしたか？



Q 本日は何ブース回りましたか？



Q 良かったブースNo.を3つ教えてください。  
上位10ブースは表の通りです。

A-051	株式会社JAフーズさが
A-041	宮島醤油株式会社
A-047	株式会社スーパーモリナガ
A-030	佐賀県庁：さが就活ナビ
A-025	株式会社プライム
A-011	サガテレビグループ
A-023	佐賀市
A-113	サンポー食品株式会社
A-071	株式会社香蘭社
A-118	株式会社オプティム

Q 次回の大交流会に参加してほしい企業・団体や実施してほしいイベントその他意見・感想をお願いします

1) 次回出展を希望する企業、団体

【佐賀県内に事業所等がある機関】		
株式会社サガテレビ 技術部	株式会社ブルーム	ダイレックス株式会社
ANA 佐賀空港	佐賀県(人事、農政課)	佐賀県警、科学捜査研究所
佐賀市	唐津市	鹿島市
神埼市	諸富町	JA さが
海洋エネルギーセンター	ホンダカーズ	株式会社佐賀鉄工所
コトブキ製紙株式会社	株式会社サガンドリームス-サガン鳥栖	社会福祉法人佐賀整肢学園
プライムデリカ株式会社	株式会社タカミヤ(釣具のポイント)	株式会社戸上電機製作所
株式会社リコー	株式会社北島	株式会社友桝飲料
吉田刃物株式会社	久光製薬株式会社	五光工業株式会社
国立大学法人佐賀大学	佐賀中部広域連合	鹿島建設株式会社
松尾建設株式会社	竹下製菓株式会社	東亜工機株式会社
祐徳グループ	株式会社クラベル・ジャパン	積水ハウス株式会社
小川楽器株式会社		

2) 次回出展を希望する業種

佐賀県内の自治体 (総合・技術職)	ゲーム関連会社	デザイン系	畜産系
公務員	テレビ局	ファッション関係	種苗関係
教職員	食品会社	美術系・美術館	製薬会社
農業系 NPO 法人	飲料会社	スーパーマーケット	化粧品会社
生物の保護団体	醸造関係	農業機械系	病院
教育関係の企業	金融系企業	自動車メーカー	電力会社
教育系団体	保険会社	出版系企業	電気電子関連
幼稚園・保育関係	ウェディング関係	焼物関係	弁護士
特別支援関係	飲食関係企業	インフラ系	スポーツ系
福祉関係	旅行関連企業	建築土木関係企業	音楽機器
IT 企業	交通機関	工務店	海外関連

### 3) 感想・要望等

学生から寄せられた感想を一部ご紹介します。

- ・あまり興味を持っていなかった企業に声をかけて頂き、話を聞くと、意外な面白さがあったため、様々な企業を視野に入れて考えることが重要だと感じた。
- ・1年生で参加したが将来を考える良い機会になりました。担当の方々も私が1年生というと1年生からやっておいた方がいいことなどアドバイスもいただいたので嬉しかったです。
- ・企業の業務内容だけでなく、佐賀の魅力についても多くのことを知ることができました。企業の業務を通して、利益を求めただけでなく、佐賀そして日本を盛り上げていくという気持ちをととても感じました。
- ・資料やネットだけでは分からない企業の雰囲気や活動内容を実際にそこで勤めてる人に聞くことはとてもいい経験でした。
- ・企業には積極的な人が多く圧倒された。将来、企業に就職するのがたのしみになった。
- ・企業の方から話しかけてくれるので気弱な自分にとっては嬉しかったです。
- ・具体的にどういうことをするか、他の会社と違うその企業の良さとかを語ってほしい。
- ・留学生は自分で就職先を調べるのが難しいのでこのように目の前で佐賀の企業を見ることができて良かった。

## 出展機関アンケート

### 1. 回答者について

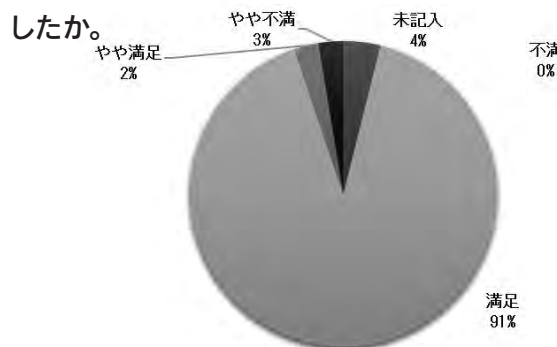
出展機関：131 アンケート回収数：107 アンケート回収率：81.7%

#### 【内訳】

業種	回答数	機関数	業種	回答数	機関数
自治体	10	13	サービス	6	6
NPO・団体	13	18	流通・卸・小売	8	11
幼稚園・保育園・福祉施設	1	2	機械製造	7	11
IT・情報・通信	10	11	一般製造	29	34
食品製造	7	7	建設・土木・設備	12	14
金融・保険・証券	4	4	計	107	131

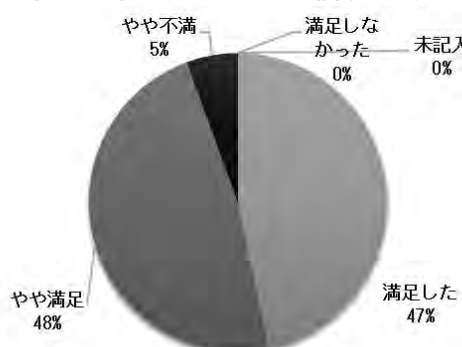
### 2. アンケート結果

Q 今回の交流会について事前説明は満足なものでしたか。

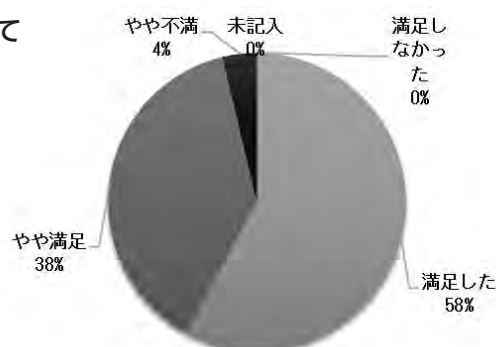


Q 今回の交流会について以下の項目の満足度について教えてください。

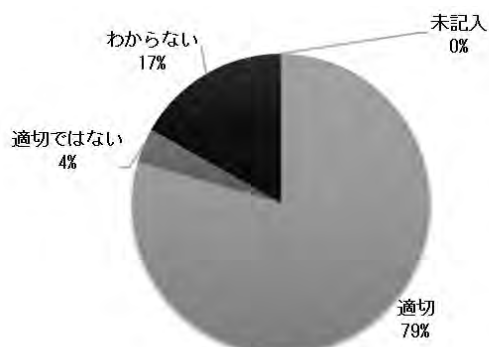
●定住促進に向けた佐賀の魅力を発信する場として



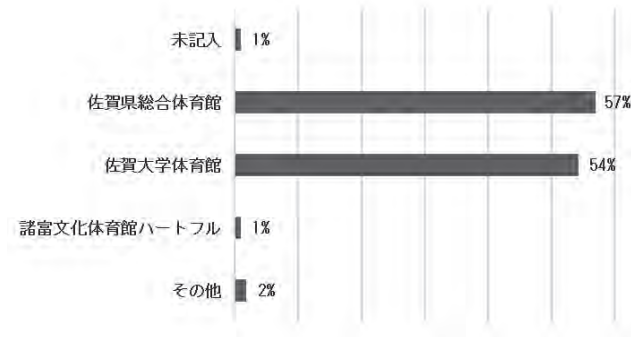
●地元就職拡大に向けた佐賀県内機関の発信の場として



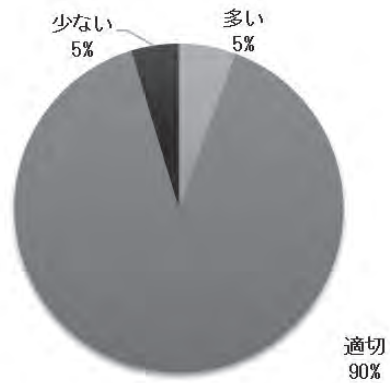
Q 今回の交流会の開催時期は適切でしたか。



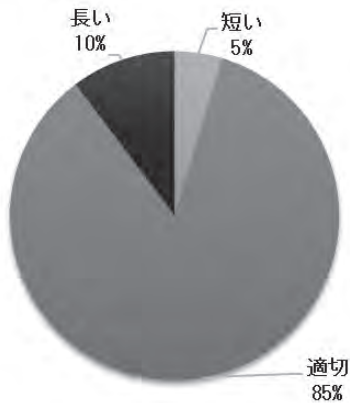
Q 次回、このような交流会を開催する場合の開催場所はどこがいいと思いますか。



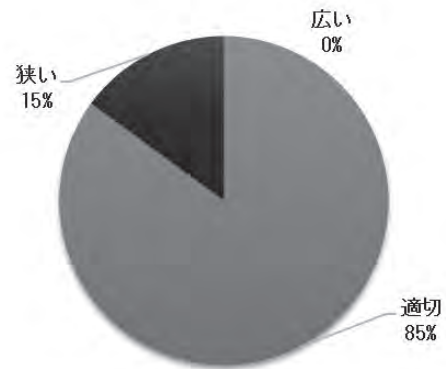
Q 今回の交流会の出展機関数は適切でしたか。



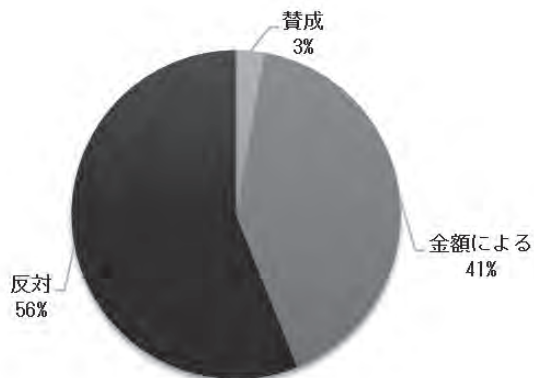
Q 今回の開催時間（3時間）は適切でしたか。



Q 出展ブースの広さは適切でしたか。



Q 交流会への出展の有料化についてどう思いますか。



「賛成」、「金額による」と回答した機関へ希望設定金額について質問したところ回答は以下の通りであった。

- ・ 1万円未満……………40.0%
- ・ 1万円台……………15.6%
- ・ 2万円以上……………22.2%
- ・ 業種による金額の設定……………2.2%
- ・ 未記入……………20.0%

**Q 今後の交流会への期待・要望や改善してほしい点、大学との産学官連携・共同研究等への要望があればご記入ください。(抜粋)**

- ・就職活動が本格的に始まる前の時期に学生に就活について考えてもらうきっかけになるような本交流会の開催は非常に良いことだと思います。今後も続けていただけたらと思います。
- ・学生の要望を聞いて、大変意義のある交流会でした。
- ・3年生の参加が多かったがインターンの時期を過ぎているので案内ができず残念でした。1～2年生への参加の呼びかけを強化したほうがよいと感じました。
- ・もう少し全体的ににぎやかにしたいと感じました。当社としては、もっと派手にしてもいいならしたいと思います。もっと学生さん呼びたいです。協力させてください。
- ・2回目の参加でしたが、有意義でした。中小企業にとって、幅広く知っていただく意味では有効です。学生は学年にもよるでしょうが、意気込みに温度差を感じます。「出席にカウントされるから」という学生もいますが、熱心に興味のある分野の話聞きに来る学生もいます。カジュアルなイベントであることは重々承知ですが、100社を超える企業は休日にも関わらず熱意をもって準備し、遠方から来ますので参加する学生もある程度目的意識を持って参加してもらえるような大学側の学生への事前働きかけも期待します。大変お世話になりました。
- ・伊万里の企業との連携をはかり、伊万里市のアピールにつなげたい。その為、ブースを市内企業で集めてやりたいです。佐賀市内と伊万里市内では距離(地理)の面で多少不利な面があると思います。集客しやすいブースの位置を検討願います。
- ・企業同士の交流の時間もあると嬉しいです。
- ・学生に大学名・学年・出身地などを記載したネームプレートなどを持たせていただけたら話をふくらませやすくなると思います。

**まとめ**

現在、「さがを創る大交流会」のようなイベントは島根や岩手でもCOC+事業の一環として開催されており、今年度は長崎でも「NAGASAKIしごとみらい博」が一部、佐賀を参考とし開催されている。地方創生を進めるにあたっては、県内機関と学生とその保護者、教員への周知や交流は必要不可欠となってきた。

本交流会も今年度で3回目となり、学生、出展機関のアンケートより交流会への好評をいただき、本交流会が学生と佐賀県内の機関との直接的な交流の場として少しずつ認知されてきたことがうかがえる。

一方で、会場や運営の面では課題が残った。開催会場については、前回使用した佐賀県総合体育館が改修工事の関係で使用できず、また、佐賀県内で実施された佐賀県明治維新150年事業「肥前さが幕末維新博覧会」のため、市内の主だった会場が使用できなかったこともあり、佐賀大学体育館及びスポーツセンターで開催した。佐賀大学体育館は築年数も古く、空調設備や放送設備が整っておらず、1,000人を超える人数が一堂に会する場所としては不向きであった。また、会場の広さの関係上、機関と学生の交流の場(A会場)と機関と大学との交流の場(B会場)が別会場となったことで会場ごとの参加人数に差が出た。開催日が休日で出展機関からは1名での参加が多く、別会場に移動し交流する時間を取ることは難しいため、1つの会場で開かれることが望ましい。

今後、継続開催していくためには、運営費調達のための出展の有料化や外部からの資金調達などの検討をする必要がある。また、企画・運営に関する課題の解決のほか、地元就職を推進するためにインターンシップの開催時期との調整、留学生の就職についても関係各所を交えて協議する必要がある。

最後に、地元就職率の向上だけでなくUIターンを含めた優秀な人材の確保や県内機関の発展とそのスピードアップが現在の課題であり、これは大学だけでは進めていくことのできないテーマである。本交流会の継続的な開催やCOC+事業が推進しているインターンシップの実施などを含めて県内機関がさらに協働して行っていくことが重要である。



# 「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」事業協働機関アンケート

- 調査期間：平成30年6月8日～22日
- 調査方法：メールにて回答
- 回収率：52%
- 全体の満足度：88.9%

- 調査期間：2018年6月8日～6月22日
- 調査方法：メールにて回答      回収率：52%
- 全体の満足度：88.9%

【企業・経済団体】※平成28年度の満足度をご回答下さい。 (全項目共通：資料A-1,A-2)	4大いに満足している	3ほぼ満足している	2あまり満足していない	1満足していない
1)大学による企業・経済団体のニーズの把握	7%	25%	7%	4%
2)大学による技術相談・経営相談等への対応【資料B-1、B-2】	4%	32%	7%	0%
3)大学との共同研究・受託研究等の産学官連携の推進【資料C-1、C-2】	7%	29%	7%	0%
4)就職説明会・オープンセミナー等の学生に対する地元就職情報の提供【資料D】	7%	25%	11%	0%
5)学生のインターンシップ推進のための体制・企画及びインターンシップ参加者数【資料E】	4%	25%	14%	0%
6)事業協働機関の運営一般	4%	32%	7%	0%
7)HP/Facebook/報道等による本事業に関する広報【資料F】	4%	32%	7%	0%
8)全体的な満足度(上記、1～7から判断して)	4%	32%	7%	0%
[その他、本事業に関するご意見・ご要望がありましたら、自由に記入願います] H29年度も企業紹介の機会を多く頂き、研究事業も連携させて頂きました。また、H30年度の採用活動においても、佐賀大学学生の応募及び内定者が前年に比べ増加し、今回の活動が結果に結びついたものと推測します。今後も引き続き当事業の継続を希望します。				

【地方公共団体(県・市・町)】※平成28年度の満足度をご回答下さい。 (全項目共通：資料A-1,A-2)	4大いに満足している	3ほぼ満足している	2あまり満足していない	1満足していない
1)大学による自治体のニーズの把握	5%	52%	10%	0%
2)大学による県・市町における地方創生事業(まち・ひと・しごと総合戦略等)との連携【資料B-1、B-2】	10%	48%	10%	0%
3)大学との共同研究・受託研究等の産学官連携の推進【資料C-1、C-2】	5%	43%	14%	0%
4)就職説明会・オープンセミナー等の学生に対する地元就職情報の提供【資料D】	14%	52%	0%	0%
5)学生のインターンシップ推進のための体制・企画及びインターンシップ参加者数【資料E】	5%	43%	19%	0%
6)事業協働機関の運営一般	14%	43%	5%	0%
7)HP/Facebook/報道等による本事業に関する広報【資料F】	10%	52%	5%	0%
8)全体的な満足度(上記、1～7から判断して)	10%	52%	5%	0%
[その他、本事業に関するご意見・ご要望がありましたら、自由に記入願います]				

【NPO団体】※平成28年度の満足度をご回答下さい。 (全項目共通：資料A-1,A-2)	4大いに満足している	3ほぼ満足している	2あまり満足していない	1満足していない
1)大学によるNPO団体のニーズの把握	0%	50%	0%	0%
2)就職説明会・オープンセミナー等の学生に対する地元就職情報の提供【資料D】	0%	50%	0%	0%
3)学生のインターンシップ推進のための体制・企画及びインターンシップ参加者数【資料E】	0%	50%	0%	0%
4)事業協働機関の運営一般	0%	50%	0%	0%
5)HP/Facebook/報道等による本事業に関する広報【資料F】	0%	50%	0%	0%
6)全体的な満足度(上記、1～5から判断して)	0%	50%	0%	0%
[その他、本事業に関するご意見・ご要望がありましたら、自由に記入願います]				



# 関連要項・規則等

## さが地方創生人材育成・活用推進協議会設置要項

(平成28年2月20日制定)

(設置)

第1条 地(知)の拠点大学による地方創生事業(以下「COC+」という。)で取り組む大卒者の地元定着率の向上及び雇用の拡大・創出を推進することを目的として、COC+事業協働機関に「さが地方創生人材育成・活用推進協議会(以下「協議会」という。)」を置く。

(事業)

第2条 協議会は、第1条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 大卒者の地元就職率向上に関する事業
- (2) 地元雇用の拡大、及び雇用の創出に関する事業
- (3) 地域を担う人材育成に関する支援・協力事業
- (4) その他COC+の目的達成に必要な事業

(組織)

第3条 協議会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 別表1に掲げる各機関の長
- (2) その他協議会が必要と認める者

(役員)

第4条 協議会に、次に掲げる役員を置く。

- (1) 会長
  - (2) 副会長
- 2 会長及び副会長は、委員の互選とする。
- 3 会長は、協議会を招集し、その議長となる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。

(審議事項)

第5条 協議会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 第2条に掲げる事業の基本方針等に関する事
- (2) 協議会の運営に関する事
- (3) 協議会の入退会に関する事
- (4) その他協議会の運営に必要な事項

(構成員以外の者の出席)

第6条 協議会は、必要に応じ構成員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(議事)

第7条 協議会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

- 2 議長は、会長をもって充てる。
- 3 委員が、会議に出席できないときは、代理者を出席させることができる。
- 4 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(幹事会)

第8条 協議会に、COC+事業を企画・立案し、及び推進するため、幹事会を置く。

(構成)

第9条 幹事会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 協議会の機関から選出された者 若干名
- (2) 幹事会が必要と認めた者

2 前項第1号の委員の任期は2年とし、再任は妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第10条 幹事会に委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選とする。ただし、再任は妨げない。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(審議事項)

第11条 幹事会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 大卒者の地元就職率向上に関する事業の企画・立案
- (2) 地元雇用の拡大、及び雇用の創出に関する事業の企画・立案
- (3) 地域を担う人材育成に関する支援・協力事業の企画・立案
- (4) その他COC+事業に必要な事項

(専門委員会)

第12条 幹事会に前条に掲げる事業の具体的な検討等を行うため、専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会に関し、必要な事項は幹事会が別に定める。

(入退会)

第13条 協議会への入退会は、協議会の承認を得るものとする。

(各機関の事務)

第14条 協議会、幹事会及び専門委員会等に関する連絡、調整及び報告等に関する事務を行うため、各機関に事務担当者を置く。

(事務)

第15条 協議会及び幹事会に関する事務は、佐賀大学(COC+大学)内に置く。

(雑則)

第16条 この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会が別に定める。

附 則

この要項は、平成28年2月20日から実施する。

附 則(平成28年7月27日改正)

この要項は、平成28年7月27日から実施する。

附 則(平成29年7月11日改正)

この要項は、平成29年7月11日から実施する。

## 別表1 (第3条関係)

### さが地方創生人材育成・活用推進協議会構成団体一覧

(平成29年7月11日現在)

#### 大学群

佐賀大学 (COC+大学)  
九州龍谷短期大学 (COC+参加校)  
佐賀女子短期大学 (COC+参加校)  
西九州大学 (COC+参加校)  
西九州大学短期大学部 (COC+参加校)

#### 地方公共団体等

佐賀県  
佐賀市  
唐津市  
鳥栖市  
多久市  
伊万里市  
武雄市  
鹿島市  
小城市  
嬉野市  
神埼市  
吉野ヶ里町  
基山町  
上峰町  
みやき町  
玄海町  
有田町  
大町町  
江北町  
白石町  
太良町  
佐賀県市長会  
佐賀県町村会

#### 経済団体等

佐賀県経営者協会  
佐賀経済同友会  
佐賀県商工会議所連合会  
佐賀県商工会連合会  
佐賀県中小企業団体中央会  
佐賀県農業協同組合  
佐賀県工業連合会

#### 連携企業等

(株) オプティム  
(株) 佐賀共栄銀行  
(株) 佐賀銀行  
(株) 佐賀新聞社  
(株) サガテレビ  
(株) 佐賀電算センター  
(株) スーパーモリナガ  
(株) そよかぜ館  
(株) 戸上電機製作所  
(株) 中山鉄工所  
(株) パソナテック  
松尾建設 (株)  
(株) ミゾタ  
(株) 三井住友銀行 佐賀支店  
(株) ワイビーエム  
リコージャパン (株) 佐賀支社  
(財) 佐賀県地域産業支援センター  
佐賀県ベンチャー交流ネットワーク  
(社) ジャパン・コスメティックセンター  
(株) 七浦  
認定特定非営利活動法人 地球市民の会  
特定非営利活動法人 鳳雛塾

## 国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター規則

(平成27年12月25日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人佐賀大学基本規則(平成16年4月1日制定)第12条の2の規定に基づき、国立大学法人佐賀大学(以下「本法人」という。)に置く国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター(以下「センター」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、本法人が地域とともに未来に向けて発展し続ける地(知)の拠点大学として実施する地域を志向した教育・研究・社会貢献活動の充実発展及び雇用の拡大・創出に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 地域を志向するキャリア教育の企画・推進に関すること。
- (2) 地域を志向する教育・研究・社会貢献の企画・推進に関すること。
- (3) 雇用の拡大・創出に関連する社会貢献の企画・推進に関すること。
- (4) その他センターに関すること。

(部門)

第4条 センターに、第2条に掲げる目的を達成するため、部門を置くことができる。

2 部門に関し必要な事項は、別に定める。

(組織)

第5条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長 3人
- (3) 併任の教員
- (4) 第8条に規定する特任教員
- (5) その他センター長が必要と認めた者 若干人

(センター長)

第6条 センター長は、理事(教育・学生担当)をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務をつかさどり、センターの職員を統督する。

(副センター長)

第7条 副センター長は、理事(研究・社会貢献担当)、キャリアセンター長及びリージョナル・イノベーションセンター産学地域連携部門長をもって充てる。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センターの業務を掌理する。

(コーディネーター)

第8条 センターに、地域創生人材育成コーディネーター及びキャリアデザイン・コーディネーターを置き、センターの特任教員をもって充てる。

(特任教員の選考)

第9条 特任教員の選考は、第11条に規定する運営委員会の議を経て、学長が行う。

(併任の教員)

第10条 併任の教員の選考は、センター長及び所属部局長の推薦に基づき、次条に規定する運営委員会の議を経て、学長が行う。

2 併任の教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、併任の教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第11条 センターに、国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの事業実施の基本方針及び重要事項
- (2) センターの教員の人事に関する事項
- (3) センターの予算及び決算に関する事項
- (4) その他センターの管理運営に関する事項

第12条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長 3人
- (3) 文部科学省地(知)の拠点大学による地方創生推進事業実施責任者
- (4) 全学教育機構高等教育開発室の教員 1人
- (5) 第8条に規定する特任教員
- (6) 学務部教務課長
- (7) 学術研究協力部社会連携課長
- (8) その他センター長が必要と認めた者 若干人

第13条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

第14条 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決をすることができない。

2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、コーディネーターの人事に関する事項及び特に重要な事項については、出席した委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

(意見の聴取)

第15条 運営委員会は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(部門連絡会議)

第16条 センターに、センターを具体的に運営・実施するための施策を企画・立案し、及び部門間の調整を行うため、部門連絡会議を置く。

2 部門連絡会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第17条 センター及び運営委員会の事務は、学術研究協力部社会連携課及び学務部教務課の協力を得て学務部就職支援課が行う。

(雑則)

第18条 この規則に定めるもののほか、センターの組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成27年12月25日から施行する。

附 則(平成29年9月27日改正)

この規則は、平成29年10月1日から施行する。

附 則(平成30年3月28日改正)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(平成30年7月6日改正)

この規則は、平成30年7月6日から施行し、平成30年4月1日から適用する。



## 国立大学法人佐賀大学地域創生推進センターCOC+事業推進部門要項

(平成28年1月15日制定)

(設置)

第1 国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター(以下「地域創生推進センター」という。)に、地域創生推進センター規則第4条第2項の規定に基づき、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(以下「COC+」という。)を推進するために、COC+事業推進部門(以下「部門」という。)を置く。

(業務)

第2 部門は、COC+事業である地域を志向した教育・研究・社会貢献に関する企画等を協議する。

(組織)

第3 部門は、次に掲げる構成員をもって組織する。

- (1) 地域創生推進センター副センター長
- (2) 文部科学省地(知)の拠点大学による地方創生推進事業実施責任者
- (3) 各学部及び全学教育機構から選出された教員 各1人
- (4) 地域創生推進センター地域創生人材育成コーディネーター
- (5) 地域創生推進センターキャリアデザインコーディネーター
- (6) その他地域創生推進センター副センター長が必要と認めた者 若干人

2 前項第3号及び第6号の構成員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 前項の構成員に欠員が生じた場合の後任の構成員の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門長)

第4 部門に部門長を置き、第3第1項第2号の構成員をもって充てる。

2 部門長は、部門の業務を掌理する。

3 部門長は、部門会議を招集し、その議長となる。

4 部門長に事故があるときは、部門長があらかじめ指名した構成員がその職務を代行する。

(構成員以外の者の出席)

第5 部門長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第6 部門会議に関する事務は、COC+事業に関係する各課の協力を得て、学務部教務課が行う。

(雑則)

第7 この要項に定めるもののほか、部門に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要項は、平成28年1月15日から実施する。

2 この要項施行後、最初に選出される第3第3号及び第6号の構成員の任期は、同第2項の規定にかかわらず、平成30年3月31日までとする。

附 則(平成28年7月14日改正)

この要項は、平成28年7月14日から実施し、平成28年7月1日から適用する。

附 則(平成30年3月28日改正)

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

## 教育プログラム開発委員会に関する要項

(平成28年5月11日制定)

(趣旨)

第1 さが地方創生人材育成・活用推進協議会設置要項第12条第2項の規定に基づき、教育プログラム開発委員会(以下「委員会」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 地元就職率向上のための教育課程の編成に関する事
- (2) 地元志向型キャリア教育に関する事
- (3) 共同FD・SDの企画に関する事
- (4) 地元企業等におけるインターンシップに関する事
- (5) その他、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に関する事

(組織)

第3 委員会は、次に掲げる構成員をもって組織する。

- (1) 佐賀大学から選出された者 2人
- (2) 西九州大学から選出された者 2人
- (3) 佐賀女子短期大学から選出された者 2人
- (4) 九州龍谷短期大学から選出された者 2人
- (5) 西九州大学短期大学部から選出された者 2人
- (6) その他委員会が必要と認めた者 若干人

(委員長)

第4 委員会に委員長を置き、委員会の互選により選出する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した構成員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第6 委員会に関する事務は、COC+事業に関係する各大学の協力を得て、佐賀大学学務部教務課が行う。

(雑則)

第7 この要項に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成28年5月11日から実施する。

附 則(平成30年5月7日改正)

この要項は、平成30年5月7日から実施する。

## さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関する規程

(平成29年2月9日制定)

### (趣旨)

第1条 この規程は、文部科学省地(知)の拠点大学による地方創生推進事業「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」におけるさが地方創生人材育成・活用推進協議会が自ら行う点検及び評価(以下「自己点検評価」という。)及びその評価の結果の活用等並びにさが地方創生人材育成・活用推進協議会以外の者による検証(以下「外部評価」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

### (目的)

第2条 自己点検評価及び外部評価は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会が行う事業等の質的向上を図り、さが地方創生人材育成・活用推進協議会の運営全般の改善・改革に資するとともに、さが地方創生人材育成・活用推進協議会の理念及び目標・計画を達成し、社会からの負託に応えることを目的として実施する。

### (自己点検評価)

第3条 さが地方創生人材育成・活用推進協議会に、自己点検評価を行うために、さが地方創生人材育成・活用推進協議会自己点検評価委員会(以下「自己点検評価委員会」という。)を置く。

2 自己点検評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

### (外部評価)

第4条 さが地方創生人材育成・活用推進協議会が行う事業等の外部評価を行うために、さが地方創生人材育成・活用推進協議会外部評価委員会(以下「外部評価委員会」という。)を置く。

2 外部評価委員会は、自己点検評価の結果に関し外部評価を行うものとする。

3 外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

### (評価結果の報告、活用及び公表)

第5条 自己点検評価委員会は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会長に、自己点検評価の結果を報告するものとする。

2 さが地方創生人材育成・活用推進協議会長は、自己点検評価及び外部評価の結果を検証し、さが地方創生人材育成・活用推進協議会の運営及び諸活動の向上のために活用するものとする。

3 さが地方創生人材育成・活用推進協議会長は、自己点検評価及び外部評価の結果について公表するものとする。

### (事務)

第6条 さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関する事務は、国立大学法人佐賀大学学務部教務課が行う。

### (雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関し必要な事項は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会長が別に定める。

### 附 則

この規程は、平成29年2月9日から施行する。

## さが地方創生人材育成・活用推進協議会自己点検評価委員会に関する細則

(平成28年2月9日制定)

(趣旨)

第1条 この細則は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関する規程(平成29年2月9日制定)第3条第2項の規定に基づき、さが地方創生人材育成・活用推進協議会に置くさが地方創生人材育成・活用推進協議会自己点検評価委員会(以下「自己点検評価委員会」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 自己点検評価委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 自己点検評価の具体的な項目等の策定に関すること。
- (2) 自己点検評価の実施内容及び方法に関すること。
- (3) 自己点検評価報告書に関すること。
- (4) その他自己点検評価に関すること。

(組織)

第3条 自己点検評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 地(知)の拠点大学による地方創生事業(以下「COC+事業」という)実施責任者
- (2) 国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター副センター長
- (3) 国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター特任教員(COC+事業コーディネーター) 2人
- (4) 学校法人永原学園西九州大学(COC+事業参加校)から選出された者 若干名
- (5) 学校法人佐賀龍谷学園九州龍谷短期大学(COC+事業参加校)から選出された者 1人
- (6) 学校法人旭学園佐賀女子短期大学(COC+事業参加校)から選出された者 1人
- (7) さが地方創生人材育成・活用推進協議会から選出された者 1人
- (8) その他さが地方創生人材育成・活用推進協議会長が必要と認めた者 若干人

(任期)

第4条 前条第4号から第8号までの委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 自己点検評価委員会に、委員長を置き、前条第1号の委員をもって充てる。

- 2 委員長は自己点検評価委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第6条 自己点検評価委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 自己点検評価委員会の議事は、出席した委員の3分の2をもって決する。

(委員以外の者の出席)

第7条 自己点検評価委員会が必要と認めたときは、自己点検評価委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第8条 自己点検評価委員会に関する事務は、国立大学法人佐賀大学学務部教務課が行う。

(雑則)

第9条 この細則に定めるもののほか、自己点検評価委員会に関し必要な事項は、自己点検評価委員会が別に定める。

附 則

- 1 この細則は、平成29年2月9日から施行する。
- 2 この細則施行後、最初に選出される第3条第4号から第8号までの委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成30年3月31日までとする。

## さが地方創生人材育成・活用推進協議会外部評価委員会に関する細則

(平成29年3月10日制定)

(趣旨)

第1条 この細則は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関する規程(平成29年2月9日制定)第4条第2項の規定に基づき、さが地方創生人材育成・活用推進協議会に置くさが地方創生人材育成・活用推進協議会佐賀外部評価委員会(以下「外部評価委員会」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 外部評価委員会は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会自己点検評価委員会がまとめる自己点検評価の結果について検証を行う。

(組織)

第3条 外部評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 地方創生を担う人材育成に関して学識を有する者 1人
- (2) 学生のキャリア教育に関して学識を有する者 1人
- (3) 地方創生を推進する地方公共団体の職員 1人
- (4) 地域経済の振興や雇用の拡大に関して実務経験のある経済人 1人
- (5) その他さが地方創生人材育成・活用推進協議会長が必要と認めた者 若干人

2 前項第1号から第4号までの委員は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会会長が指名する。

(任期)

第4条 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 外部評価委員会に、委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は外部評価委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第6条 外部評価委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 外部評価委員会の議事は、出席した委員の3分の2をもって決する。

(委員以外の者の出席)

第7条 外部評価委員会が必要と認めたときは、外部評価委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第8条 外部評価委員会に関する事務は、国立大学法人佐賀大学学務部教務課が行う。

(雑則)

第9条 この細則に定めるもののほか、外部評価委員会に関し必要な事項は、外部評価委員会が別に定める。

附 則

- 1 この細則は、平成29年3月10日から施行する。
- 2 この細則施行の際、最初に選出される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成30年3月31日までとする。

## 平成30年度さが地方創生人材育成・活用プロジェクト 関係者名簿

### 佐賀大学

部 局	役 職	氏 名
佐賀大学 さが地方創生人材育成・活用推進協議会	学長 会長	宮 崎 耕 治
佐賀大学 地域創生推進センター	副学長・理事(教育・学生担当) センター長	兒 玉 浩 明
佐賀大学 地域創生推進センター	副学長・理事(研究・社会貢献担当) 副センター長	寺 本 憲 功
理工学部 地域創生推進センター	教授 副センター長	三 島 伸 雄
経済学部 キャリアセンター 地域創生推進センター	准教授 センター長 副センター長	羽 石 寛 志
全学教育機構 COC+事業	教授 実施責任者	五十嵐 勉
全学教育機構	講師	山 内 一 祥
芸術地域デザイン学部	教授	山 下 宗 利
教育学部 附属教育実践総合センター	准教授	石 井 宏 祐
経済学部	准教授	戸 田 順 一 郎
医学部 地域医療科学教育研究センター	教授	堀 川 悦 夫
理工学部	准教授	矢 田 光 徳
農学部	教授	田 中 宗 浩
地域創生推進センター (地方創生人材育成コーディネーター)	特任准教授	平 尾 泰 博
地域創生推進センター	コーディネーター	三 島 舞

### 西九州大学

部 局	役 職	氏 名
西九州大学 リカレント教育・研究推進本部	副学長 本部長	井 本 浩 之
リカレント教育・研究推進本部	コーディネーター	横 尾 仁 美

### 九州龍谷短期大学

部 局	役 職	氏 名
保育学科	教授	松田 祐子
人間コミュニティ学科	准教授	宮原 正広
学務課	就職支援コーディネーター	井上 省吾

### 佐賀女子短期大学

部 局	役 職	氏 名
地域みらい学科	教授	夏目 朋之
地域みらい学科	講師	久保 知里

### 西九州大学短期大学部

部 局	役 職	氏 名
幼児保育学科	准教授	占部 尊士
地域生活支援学科	教授	平田 孝治
学生支援課	課員	本岡 慎一郎

### 自治体・企業・NPO法人・団体

所 属	役 職	氏 名
佐賀県 地域交流部 さが創生推進課	課長	川内野 修
佐賀県 総務部 人事課	企画・人材担当係長	近藤 英心
佐賀市 企画調整部 企画政策課	課長	武富 将志
佐賀市 総務部 人事課	主事	薄田 夏海
みやき町 総務部 企画調整課	課長	岡 毅
佐賀県商工会議所連合会	事務局長	八谷 浩司
認定特定非営利活動法人地球市民の会 一般社団法人ユニバーサル人材開発研究所	理事 代表理事	大野 博之
特定非営利活動法人鳳雛塾	事務局長	竹内 陽慶
アジアパシフィックアライアンス・ジャパン	事務局長	根木 佳織
ジョブカフェSAGA	統括マネージャー	坂本 圭介

### 佐賀大学

部 局	役 職	氏 名
教務課	課長	浦 川 宗 久
教務課 (教務管理主担当)	係長	谷 口 圭 介
教務課 (教育企画主担当)	係長	鶴 田 博 信
教務課	主任	井 手 橋 真
教務課	教務補佐員	甲 本 美 佐
教務課	事務補佐員 (経理)	松 崎 智 美
就職支援課	課長	吉 岡 邦 浩
就職支援課	係長	伊 東 雅 浩
地域創生推進センター	事務補佐員	松 林 茜
社会連携課	課長	木 塚 徳 男
社会連携課	係長	井 上 謙 一
社会連携課	課員	諸 永 正
国際課 (トビタテ!留学JAPAN)	課長	吉 田 規 雄
国際課 (トビタテ!留学JAPAN)	主任	出 雲 大 輔
国際課 (トビタテ!留学JAPAN)	事務補佐員	執 行 裕 美 子

### 西九州大学

部 局	役 職	氏 名
リカレント教育・研究推進本部		太 田 美 穂

### 佐賀女子短期大学

部 局	役 職	氏 名
	COC+コーディネーター	泉 万 里 江

### 西九州大学短期大学部

部 局	役 職	氏 名
総務課	課員	山 口 貴 之
学生支援課	事務職員	松 本 直 子

### 自治体・企業・NPO法人・団体

部 局	役 職	氏 名
佐賀県 地域交流部 さが創生推進課	課員	織 田 美 和
佐賀市 企画調整部 企画政策課	課員	小 柳 悠 加
みやき町 企画調整部 企画調整課	主事補	牟 田 裕 次 郎



平成30年度  
地（知）の拠点大学による地方創生推進事業  
さが地方創生人材育成・活用プロジェクト

## 成果報告書

平成31年3月28日発行

発行 国立大学法人 佐賀大学  
学務部教務課  
〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄1番地  
TEL：0952-28-8163  
FAX：0952-28-8170  
H P：https://cocplus.saga-u.ac.jp

企画・編集 佐賀大学 地域創生推進センター  
デザイン・印刷 福博印刷株式会社

本書に掲載されている写真及び記事の無断転載、複写、複製を禁止します。



COC+大学  
国立大学法人 佐賀大学

〒840-8502 佐賀市本庄町1  
TEL 0952-28-8113  
FAX 0952-28-8118  
<http://www.saga-u.ac.jp/>  
E-mail.sagakoho@mail.admin.saga-u.ac.jp



COC+参加校  
学校法人 佐賀龍谷学園  
九州龍谷短期大学

〒841-0072 佐賀県鳥栖市村田町岩井手1350  
TEL 0942-85-1121  
FAX 0942-82-8411  
<http://www.k-ryukoku.ac.jp/>



COC+参加校  
学校法人 旭学園  
佐賀女子短期大学

〒840-8550 佐賀県佐賀市本庄町本庄1313  
TEL 0952-23-5145 (代表)  
FAX 0952-23-2724  
<http://www.asahigakuen.ac.jp/sajotan/>



COC+参加校  
学校法人 永原学園  
西九州大学

〒842-8585 佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9  
TEL 0952-37-6289 (地域連携センター)  
FAX 0952-52-4194  
<http://www.nisikyu-u.ac.jp/nagahara/>



COC+参加校  
学校法人 永原学園  
西九州大学短期大学部

〒840-0806 佐賀県佐賀市神園3-18-15  
TEL 0952-37-6289 (地域連携センター)  
FAX 0952-52-4194  
[http://www.nisikyu-u.ac.jp/junior\\_college/](http://www.nisikyu-u.ac.jp/junior_college/)

国立大学法人 佐賀大学 地域創生推進センター

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地  
TEL 0952-28-8998 FAX 0952-28-8998 (地域創生推進センター)  
TEL 0952-28-8497 FAX 0952-28-8185 (学務部就職支援課)  
TEL 0952-28-8163 FAX 0952-28-8170 (学務部教務課)



COC+  
HP



COC+  
FB